授業科目コード	N−1	授業科目名	基礎演習Ⅰ	担当教員名	西口初江

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門基礎科目	必修科目	1	前期	2	時間割参照	生活福祉コース

授業のテーマ・概要

大学において各自の最終的な目標に向け、4 年間の学生生活を有意義なものになるように方向づけを行う。

授業の目的・到達目標

生活福祉コースにおいて、社会人として主体的に行動できかつ実践的な職業人となる専門分野の基礎学力を養う。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	学生生活について	講義の概要、進め方などを説明。	
2	高齢者の時代背景	課題提出のレポートをまとめ、発表。	
3		課題テーマごとにグループ編成。	
4		グループワーク（　課題の検索、明確化）	
5		グループワーク	
6	現代社会の生活について	社会、文化、経済の関わるさまざまな問題提起	
7		社会の状況（家庭、地域）。	
8		文化について（年間行事、習慣、地域性）など。	
9		経済について（日本、世界）など。	
10		生活者とは（衣食住）。	
11		グループワーク。	
12		グループワーク。	
13		グループワーク。	
14		現代社会の課題の明確化。	
15		グループ発表。	
	(試験)	テスト、レポート提出。	

履修上の注意・関連科目等

出席重視。グループワークでの課題は各自、積極的に資料の収集を行う。日々新聞やニュース、雑誌等読むこと。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	■有り □無し	60　%
レポート	■有り □無し	25　%
試　　験	なし	%
その他（出席状況等）	授業態度、出席状況	15　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕適宜配布

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	

作成年度：2013

授業科目コード	N－2	授業科目名	基礎演習Ⅱ	担当教員名	西口初江

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門基礎科目	必修科目	1	後期	2	時間割参照	生活福祉コース

授業のテーマ・概要

大学において各自の最終的な目標に向け、4 年間の学生生活を有意義なものになるように方向づけを行う。

授業の目的・到達目標

生活福祉コースにおいて、社会人として主体的に行動できかつ実践的な職業人となる専門分野の基礎学力を養う。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	学生生活について	履修ガイダンス	
2	専門教育への導入	情報の検索・収集方法①	
3	〃	情報の検索・収集方法②	
4	〃	医療、保健、福祉に関する学習	
5	〃	医療、保健、福祉に関する学習	
6	〃	医療、保健、福祉に関する学習	
7	〃	医療、保健、福祉に関する学習	
8	〃	医療、保健、福祉に関する学習	
9	〃	医療、保健、福祉に関する学習	
10	〃	上記の内容を理解し自己の課題を明確化する。	
11	〃	レポートの書き方①	
12	〃	レポートの書き方②	
13	〃	レポートの書き方③　発表準備	
14	〃	発表会	
15		発表会	
	(試験)	レポート提出	

履修上の注意・関連科目等

出席重視。グループワークでの課題は各自、積極的に資料の収集を行う。新聞やニュース、雑誌等読むこと。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り □無し	85 %
試　　験	なし	%
その他（出席状況等）	授業態度、出席状況	15 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕適宜配布

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	

作成年度：2013

授業科目コード	N－1	授業科目名	基礎演習Ⅰ	担当教員名	清水　尚子

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門基礎科目	必修科目	1	前期	2	時間割参照	生活ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄｺｰｽ

授業のテーマ・概要

大学における勉学や学生生活全般について、基本的な認識を育成する。

授業の目的・到達目標

卒業後の自分を意識して、生活マネジメントコースにおける専門教育を学ぶための基礎的な学習習慣を身につけ、大学 4 年間の目標を定める。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	授業の概要	授業の進め方・留意点などの説明	
2	自己啓発ゼミナール	生活と健康について考える	
3	自己啓発ゼミナール	関心事と適性を考える	入学前教育のノート
4	自己啓発ゼミナール	仕事と適性を考える	
5	専門教育への導入	学術情報センターの活用方法の説明	
6	専門教育への導入	学術情報センターの案内	
7	専門教育への導入	学術情報センターで情報検索	
8	専門教育への導入	原稿用紙の使い方の説明と練習	学外研修のプリント
9	専門教育への導入	学外研修の事前講義	
10	専門教育への導入	学外研修（住まいのミュージアム）	
11	専門教育への導入	学外研修の報告書作成	
12	専門教育への導入	課題レポートの書き方の説明	
13	自己啓発ゼミナール	学術情報センターで情報の検索・レポート作成	
14	自己啓発ゼミナール	学術情報センターで情報の検索・レポート作成	
15	自己啓発ゼミナール	学術情報センターで情報の検索・レポート作成	
	(試験)	実施しない	

履修上の注意・関連科目等

授業中にふさわしくない言動があった場合は、下記の受講態度の評価で減点する。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り　　授業中に課す学外研修の報告書と課題レポートを評価する。 □無し	50　%
試　　験		%
その他（出席状況等）	提出物の有無・出席状況・受講態度を評価する。	50　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

プリントを配布する。

〔参考書・その他〕

必要に応じて資料をプリントで配布する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	

作成年度：2013

授業科目コード	N－2	授業科目名	基礎演習Ⅱ	担当教員名	向出　佳司

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門基礎科目	必修科目	1	後期	2	時間割参照	生活ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄｺｰｽ

授業のテーマ・概要

大学における勉学や学生生活全般について、基本的な認識を育成する。

授業の目的・到達目標

前期に引続き人間生活学科における勉学に必要な学習習慣を身につけるとともに、専門教育の基礎となる学力を身につける。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	後期オリエンテーション	学習計画と履修登録	
2	学生生活への支援	先輩からのアドバイス	
3	学生生活への支援	家庭科教諭からのアドバイス	
4	専門教育への導入	生活と心理	
5	専門教育への導入	生活とキャリア	
6	専門教育への導入	生活とデザイン	
7	専門教育への導入	生活と住まい	
8	専門教育への導入	生活と健康	
9	専門教育への導入	生活と社会	
10	専門教育への導入	学外研修（サントリーミュージアム　天保山）	
11	専門教育への導入	学外研修の報告書作成	
12	自己啓発ゼミナール	コミュニケーション支援	
13	自己啓発ゼミナール	コミュニケーション支援	
14	自己啓発ゼミナール	コミュニケーション支援	
15	まとめ	レポート作成・提出	

履修上の注意・関連科目等

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	☑有り　授業中に作成する。 □無し	80　%
試　　験		%
その他（出席状況等）	出席状況	20　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

〔参考書・その他〕必要に応じて資料を配布する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2008

授業科目コード	N－3	授業科目名	生活学概論	担当教員名	岸本 幸臣

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門基礎科目	必修科目	1	後期	2	時間割参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

人間生活とは、どのような現象なのかを科学的に考察し、私たち人間は何故豊かな生活を求めて前進しようとするのか、その発展のメカニズムと生活発達の特性を概説する。更に、生活学を構成する領域科学の考え方やそれを活かした専門職のあり方を考える。

授業の目的・到達目標

人間生活に特有な、生活の質的上昇志向と世代を継承できる安定的な生活持続への潜在的欲求の想いが、今日の持続可能な社会発展の基本原理となっていることを理解する。また、生活学における個別領域科学の使命と隣接科学のそれとの本質的違いを認識できるようにする。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	講義の概要	生活学を学ぶ目的と生活現象の捉え方	講義時に補足資料配付
2	生活学の歴史(世界)	古代ギリシャ家政論から現代アメリカ家政学へ	同　上
3	生活学の歴史(日本)	江戸期の家道訓から家政学そして生活科学へ	同　上
4	生活と社会の進歩	社会発展に果たす人間生活の上昇志向の特性	同　上
5	社会発展とその功罪	文明の必然性と発展に内在する基本的矛盾	同　上
6	問われる価値観転換	人間生活の新パラダイムとしての「家政原理」	同　上
7	生活学の学問的構成	生活事象を考察するための領域科学の考え方	同　上
8	生活主体の特性	家庭生活の当事者としての家族とその機能	同　上
9	生命維持の手段	人間の健康と生命維持のための食環境の条件	同　上
10	生活の一義的保護	生物的弱者としての人間の衣環境の条件	同　上
11	生活の空間的条件	家庭生活の場としての住環境(住まいと居住地)	同　上
12	生活の支援システム	社会化する生活と支援方法（生活福祉と情報）	同　上
13	生活の管理と経営	主体と媒体の対応法(生活目標と生活スタイル)	同　上
14	生活学と専門職	生活学の社会的貢献の必要性とその活動分野	同　上
15	講義内容のまとめ	生活学の総括整理と定着度確認	同　上
	(試験)		

履修上の注意・関連科目等

日々の家庭生活を何気なく送るのではなく、「人間存在の基本である生活現象」として捉え、そこにもっと深い学問的興味と観察力を向けて、家庭生活の意義や特性そして大切さを考える習慣を身につけて下さい。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り　講義内容の理解度を把握するため、適宜ミニレポートを書かせる。 □無し	20　%
試　験	期末テストを実施する。	70　%
その他（出席状況等）	出席状況や受講態度は、評価の対象とする。	10　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕「家政学のじかん」（関西家政学原論研究会編、2011.6）

〔参考書・その他〕「私たちの生活科学」（中根芳一　編著、理工学社、2003.4）

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2012

授業科目コード	N1－1	授業科目名	ライフマネジメント論	担当教員名	小谷　良子

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活の運営	生マ必修科目 生活福祉選択科目	1	前期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

ライフマネジメント（生活経営）の目標は、個人と家族、家族と社会のそれぞれの必要性の間にみられる矛盾点の克服・調整を可能にし、未来につながる生活力を醸成することである。個人・家庭・地域・社会の生活領域別に事例を適宜紹介しながら、さまざまな生活の事象を全体との関連のなかで捉える。

授業の目的・到達目標

・生活(ライフ)を生命、暮らし、人生という 3 つの側面から論理的、経験的に理解でき、説明できる。
・日常の個人生活・家庭生活・地域生活・社会生活にみられるさまざまな課題を指摘できる。
・生活課題の解決に向けての主体的な態度をや実践力を養う。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	ﾗｲﾌﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論の概容	授業概要と文献紹介、授業の進め方を説明する	プリント資料配布
2	生活環境と主体形成	生活者を取り巻く環境と生活者の主体形成	プリント資料配布
3	生活価値観とﾗｲﾌｽﾀｲﾙ	生活価値、生活欲求と生活資源、生活目標など	プリント資料配布
4	生活の社会化と QOL	家庭生活と社会生活の均衡、生活の質への評価	プリント資料配布
5	消費生活と生活経営	生産世界と生活世界からみる消費社会の諸課題	プリント資料配布
6	家庭・家族の機能	家庭の機能・家庭像、家族関係・家族の絆など	プリント資料配布
7	家庭経済と家計管理	家庭経済のしくみ、家計管理のノウハウなど	プリント資料配布
8	生活設計と生活時間	家族員のライフステージと生活時間の配分	プリント資料配布
9	生活空間と親子関係	住空間における生活環境と親子関係の課題	プリント資料配布
10	地域生活・ガバナンス	地域の課題と地域生活者としての住民参加	プリント資料配布
11	地域活動と家族	地域活動と主婦・高齢者・子どもの生活	プリント資料配布
12	地域連携と生活環境	地域・住民・学校の連携と子どもの生育環境	プリント資料配布
13	老若男女共同参画	少子高齢社会における福祉環境の展望	プリント資料配布
14	消費者の権利と責任	省消費的・環境醸成的な消費社会の展望など	プリント資料配布
15	ﾗｲﾌﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論の総括	全体の理解度の確認と授業総括	プリント資料配布
	(試験)	実施する	

履修上の注意・関連科目等

・出席すべき授業数の 2/3 以上出席した者に対して、成績を評価する。
・下記に挙げた参考書に基づいて適宜授業を進めるが、講義資料は必要に応じてプリントを配付する。
・この分野に興味・関心がある人は、前もって参考書の次回該当箇所を読んでおくことを推奨する。
・自らの生活に関連づけて授業内容を理解することに努め、自主的に学ぶ姿勢を重視する。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り　　各回の授業終了時に課す授業内容に関するミニレポートを提出。 □無し	20　%
試　　験	授業目標に示した観点に基づき評価する。 配布資料・その他のすべてについて、持ち込み不可	60　%
その他（出席状況等）	出席状況（10%）、及び、私語を慎んで主体的に授業に参加する、積極的に意見を発表するなどの授業への参加姿勢（10%）を評価する	20　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕　使用しない
〔参考書・その他〕
■小谷良子『主体形成と生活経営』ナカニシヤ出版(2007)。その他の参考書リストは初回授業時に配布。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号
　　号館　　階　　内線

電子メールのアドレス
[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	N1－3	授業科目名	ライフスタイルと健康	担当教員名	西口初江

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活の運営	選択科目	3	後期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

人間の生命および健康生活は急激な社会環境の変化にともない健康問題の様相も大きく変化している。人間の日常の行動や行動形式（ライフスタイル）が健康レベルに影響を与えることが明らかになっている。個人の健康を身体的・精神的・社会的な調和を考慮した健康保持・健康づくりについて講義する。

授業の目的・到達目標

人間の一生（ライフサイクル）から発育・発達と健康に関する知識や現代社会の生活環境，社会問題等について理解し、生涯にわたり健康を保持・増進（健康づくり）することを理解する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	健康について	健康の定義	
2		ライフサイクルにおける健康上の課題	
3		各発達段階、発達課題	
4	〃	生活習慣病	
5	〃	健康的な食生活	
6	〃	わが国の食生活の現状　食行動の変化	
7	〃	日常生活活動、運動習慣、適正体重	
8		睡眠について、睡眠障害	
9	こころの健康	ストレス、心身症、こころの不調	
10	ライフステージと健康〃	家族計画、妊娠の成立、避妊法、基礎体温法	
11	〃	思春期・青年期、壮年期、高齢期	
12	〃	高齢者を取り巻く社会、保健、医療、福祉	
13		レポート発表	
14	環境と健康	感染症、感染症法、結核、性感染症、	
15		食中毒、地球環境問題、ノーマライゼーション	
	(試験)	全体の総まとめ	

履修上の注意・関連科目等

出席重視。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り　講義のなかで健康に関するテーマを考え、レポートを作成し、発表を行う。 □無し	25　%
試　　験	筆記試験	60　%
その他（出席状況等）	出席状況や授業態度を総合的に評価。講義中の遅刻途中退室、入室は慎む。	15　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕成　和子編　改訂『ライフスキルのための健康科学』第２版　建帛社
〔参考書・その他〕国民衛生の動向、公衆衛生マニュアル、資料は適宜配布

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	

作成年度：2013

授業科目コード	N1－4	授業科目名	子どもの健康	担当教員名	水田聖一

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活の運営	選択科目	1	後期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

子どもを取り巻く環境が大きく変化している現在、子どもの心身における健康の保持と増進は大きな課題となっている。健康領域を身体のありかた面からと心の働きとしてのしなやかさの面から考察する。

授業の目的・到達目標

健康を「強さ(運動量)」、「動きの多様性」、「(心と体の)しなやかさ」という三つのキーワードから理解する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1		乳幼児と健康	テキストに準じる
2		乳幼児の発達と健康	〃
3		自ら生き生きと動く子どもを育てる	〃
4		生きる力の基礎としての体を育てる	〃
5		健康と自立	〃
6		安全に生きる力を育てる	〃
7		領域「健康」の指導計画	〃
8		行事と健康	〃
9		健康管理	〃
10		幼児と性	〃
11		身体の動きとしての強さ	〃
12		動きの多様性	〃
13		動きのしなやかさ	〃
14		心の働きとしてのしなやかさ	〃
15		全体の理解度の確認と授業総括	〃
	(試験)	行う	

履修上の注意・関連科目等

テキストを前もって読んでおくように。**ノートを毎回提出する。**

教科書を購入しないものには、単位は与えられない。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し	%
レポート	■有り　　毎回ミニレポートを課す。 □無し	30　%
試　　験	試験期間に試験を実施する。	50　%
その他（出席状況等）	**出席状況を重視する。**(1 回欠席すると 5 点減点)	20　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

河邉 貴子、杉原 隆、 柴崎 正行『保育内容「健康」 (最新保育講座)』ミネルヴァ書房

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	N1－5	授業科目名	保育学	担当教員名	水田聖一

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活の運営	選択科目	2	前期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

少子化、核家族化、情報化など子どもを取り巻く環境は大きく変わってきて、人々の価値観や生活様式も多様化してきている。

このような環境の中でどのように子どもの育ちを支えるのかについて様々な角度から考察する。

授業の目的・到達目標

保育の意義や理念、これまでどのような子育てが行われてきたのか、今後の社会の課題について学ぶ。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	保育の意義と理念	保育の意義	テキスト１章
2	生涯学習社会	子ども期の課題(1)　学習の４本柱	〃２章
3		子ども期の課題(2)　生きる力	〃
4	保育思潮の変遷	(1)　ルネッサンス期の教育思想	〃３章
5		(2)　コメニウスの教育思想	〃
6		(3)　イギリス・フランス・ドイツの教育思想	〃
7		(4)　我が国近代前後の教育思想	〃４章
8		(5)　大正・昭和の教育思想	〃
9		(6)　現代の教育・保育の現状と課題	〃
10	保育内容の構成	保育内容の構成	〃５章
11	教育課程と教育評価	教育課程と教育評価	〃６章
12	乳幼児期の育ち	乳幼児期の育ちと教育・保育の展開	〃７章
13	保育者の役割	子どもをとりまく環境と教師・保育者の役割	〃８章
14	教育・保育の課題	教育・保育の課題①	〃９章
15		教育・保育の課題②	〃９章
	(試験)	行う	

履修上の注意・関連科目等

テキストを前もって読んでおくように。**ノートを毎回提出する。**

教科書を購入しないものには、単位は与えられない。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り　毎回ミニレポートを課す。 □無し	30　%
試　験	試験期間に試験を実施する。	40　%
その他（出席状況等）	**出席状況を重視する。**（1 回欠席すると 5 点減点する）	30　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

生田貞子・石川昭義・水田聖一編著『保育実践を支える保育の原理』福村出版

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	N1－6	授業科目名	現代子育て論	担当教員名	水田聖一

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活の運営	選択科目	2	後期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

子どもたちを産み育てるという何千年も続いてきた営みが、今危機にさらされている。虐待やネグレクトなどの様々な問題から子どもたちを守るために何が必要か、子どもたちのためにどのようにことが行われるべきかを考察する。幼稚園や保育所での実践等も紹介する。

授業の目的・到達目標

子どもの「学びの特徴」を理解しながら、「発達段階に即した」援助のあり方を学ぶ。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	序論	子どもを育てるとは	テキストに準じる
2	保育内容	保育内容の基本構造	〃
3		保育内容の変遷	〃
4		保育内容の「統合性」	〃
5		保育内容の構成	〃
6		子育ての伝承から学ぶ	〃
7	保育方法	保育の展開と保育方法	〃
8		保育の展開と保育者	〃
9		遊びの展開過程に関わる保育者の役割	〃
10		保育内容と計画	〃
11	発達	子どもの発達と生活	〃
12		子どもの育ちと保育内容	〃
13		現代の子育ての現状	〃
14		これからの子育ての課題	〃
15		全体の理解度の確認と授業総括	〃
	(試験)	行う	

履修上の注意・関連科目等

テキストを前もって読んでおくように。**ノートを毎回提出する。**

教科書を購入しないものには、単位は与えられない。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し	%
レポート	■有り　毎回ミニレポートを課す。 □無し	30 %
試　験	試験期間に試験を実施する。	50 %
その他（出席状況等）	**出席状況を重視する。**(1 回欠席すると 5 点減点)	20 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

生田貞子・水田聖一編『保育実践を支える保育内容総論』福村出版

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	N1－7	授業科目名	家族関係学	担当教員名	岡本　朝也

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活の運営	選択科目	3	後期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

今日、家族をめぐる状況は急速に変化しつつあり、家族の内部もまた大きく変わりつつある。家族にはどのような問題点が潜み、これからどうなっていくのだろうか。家族の内部に存在するいくつもの関係に焦点をあてて、家族の将来像を探ってゆきたい。

授業の目的・到達目標

家族の中にどのような関係があるかを理解し、現代の家族の状態、今後の家族のあり方についての洞察を深められるようになること。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	ガイダンス		
2	現代家族の特徴①	少子化と未婚化	
3	現代家族の特徴②	家事と育児	
4	現代家族の特徴③	世帯の構成と類型	
5	現代家族の特徴④	現代家族の特徴まとめ	
6	家族の理論①	核家族普遍説と自我論	
7	家族の理論②	核家族の理論	
8	家族の理論③	三世代家族の理論	
9	家族の理論まとめ	家族の理論まとめ	
10	近代家族①	前近代の家族	
11	近代家族②	近代家族の成立	
12	近代家族③	近代家族の普及	
13	近代家族④	近代家族の限界	
14	家族の将来①	ステップファミリー、単親家族	
15	家族の将来②	個人化と家族	

履修上の注意・関連科目等

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り　800 字程度のレポートを学期末に課する □無し	50　%
試　　験		%
その他（出席状況等）	出席状況を勘案する	50　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

〔参考書・その他〕

山根常男ほか編、『テキストブック家族関係学』ミネルヴァ書房（2800 円）

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　　階　　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	N1－8	授業科目名	ライフコース論	担当教員名	岡本 朝也

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活の運営	生マ必修科目 生活福祉選択科目	2	後期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

現代の社会では、「家族」という概念が大きくゆらぎ、変動しつつある。社会の仕組みや人生のありかたの変化、男女や親子の関係の変化を、ライフコースという概念を使って理解することをめざす。

授業の目的・到達目標

ライフコースの概念を理解し、人々の生活の実態や変化を分析的に理解できるようになることをめざす。具体的には、結婚や就職、ペアレンティングなどのライフイベントの実態と変化を記述できるようになることを目標とする。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	ガイダンス	授業の進め方、ポイント、評価	
2	現代のライフイベント①	親からの自立①	
3	現代のライフイベント②	親からの自立②	
4	ライフコースとは①	ライフイベントと役割移行	
5	現代のライフイベント③	結婚①	
6	現代のライフイベント④	結婚②	
7	ライフコースとは②	ライフイベントと役割移行	
8	現代のライフイベント⑤	就職①	
9	現代のライフイベント⑥	就職②	
10	ライフコースの要素①	時間と年齢	
11	ライフコースの要素②	世代とコーホート	
12	現代のライフイベント⑦	親になること	
13	ライフコースの研究①	ライフコース研究の歴史	
14	ライフコースの研究②	ライフコース研究の方法	
15	まとめ	ライフコース研究からみえること	

履修上の注意・関連科目等

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り　　学期末に 800 字程度のレポートを課する □無し	50 %
試　　験		%
その他（出席状況等）	出席状況を勘案する	50 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

〔参考書・その他〕

嶋崎尚子『ライフコースの社会学』学文社（2008 年、1300 円）

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	N1－9	授業科目名	生活と衛生管理	担当教員名	鶴保謙四郎

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活の運営	選択科目	2	前期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

健康寿命を如何にして延伸するのか。そのためにはどの様な知識・行動が必要で、それを支える社会システムを理解させる。

授業の目的・到達目標

公衆衛生学は社会の組織的な活動によって疾病を予防し、精神的、肉体的健康を維持増進することを目的とした社会医学である。そこでその基礎的知識を習得し、自らの生活を見直すことを目的とする。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	ガイダンス	新聞の中の関連記事を読んでくること	
2	疫学・保健統計	疾病の分布と発生要因	テキスト第 2、3 章
3	疾病予防と健康	感染症・生活習慣病	テキスト第 4 章
4	主な疾病と予防	疾病予防方法	テキスト第 5 章
5	地域保健	生活圏における保健	テキスト第 7 章
6	母子保健	出生・母子・子育て	テキスト第 8 章
7	学校保健	学校における衛生保健	テキスト第 9 章
8	産業保健	職場環境と健康	テキスト第 10 章
9	老人保健・福祉	加齢・老化・高齢化・老人福祉	テキスト第 11 章
10	国際保健	人種・民族・途上国と健康	テキスト第 13 章
11	環境保健	生態系と健康の保持	テキスト第 6 章
12	公害と環境､健康被害	水俣病・四日市喘息・アスベスト	テキスト第 6 章の一部
13	インフルエンザ	人類とインフエンザウイルスの関わり	テキスト第 5 章の一部
14	水道と衛生	水道の歴史と衛生	テキスト第 6 章の一部
15	まとめ	生活を取り巻くリスクへの考え方	
	(試験)	全体の理解度の確認	

履修上の注意・関連科目等

私語及び携帯電話等厳禁。途中入室・退出を慎むこと。
出席回数は、全体の 2/3(10 回)以上を基本とする。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	0 %
レポート	☑有り　課題は授業中に示す。 □無し	20 %
試　験	実施する。内容・形式等は授業の中で示す。	40 %
その他（出席状況等）	受講態度を評価する。	40 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
シンプル衛生公衆衛生学 2012、辻・小山編集、南江堂、2400 円＋税
〔参考書・その他〕
厚生労働省、環境省等の HP

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	N1－10	授業科目名	商品と消費者	担当教員名	國廣 英司

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活の運営	選択科目	2	後期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

ブランドの形成

授業の目的・到達目標

商品ブランドとは、どのように形成されるか。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料）
1	ブランドについて	世界のブランドについて解説	
2	〃		
3	〃		
4	〃		
5	ルイ・ヴィトンの戦略	ルイ・ヴィトンは何故人気があるのか	
6	〃		
7	〃		
8	〃		
9	〃		
10	〃		
11	ブランドはどのように形成されるか		
12	〃		
13	〃		
14	あなたならどのようなブランド戦略		
15	をするのか		
	(試験)		

履修上の注意・関連科目等

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	☑有り □無し	70 %
試　　験	無し	%
その他（出席状況等）		30 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
ルイ・ヴィトンの法則
〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	N1－11	授業科目名	生活と環境	担当教員名	鶴保謙四郎

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活の運営	選択科目	2	前期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

生活者の立場から、生活と環境を考察する。日常生活を取り巻く環境、食などを科学するもので、地球温暖化や水質汚濁、大気汚染、廃棄物問題、食の安全などをできるだけ平易に解説する。また、最大の環境問題でもある地球の人口爆発についても紹介する。

授業の目的・到達目標

将来社会人として、自主的に環境にやさしい生活(環境負荷の低減を目指す社会生活や家庭生活)や、かしこい食生活を営むことができることを目標とする。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	ガイダンス	授業の進め方、評価の行い方等授業方針の説明	プリント有
2	地球の温暖化	原因・現状、社会的な取り組み等	〃
3	水と生活	飲料水等生活用水と水質汚濁	〃
4	食の安全Ⅰ	食品添加物、食品表示	〃
5	食の安全Ⅱ	食品汚染物質	〃
6	食の安全Ⅲ	食物アレルギー、BSE、遺伝子組み換え食品	〃
7	農薬と化学物質	農薬や化学物質の使用の実態と意義	〃
8	大気汚染	酸性雨やオゾン層の破壊について	〃
9	環境ﾎﾙﾓﾝ・ﾀﾞｲｵｷｼﾝ	過去・現在・将来	〃
10	各種の環境問題	土壌汚染や地下水汚染等について	〃
11	地球環境の保全	病める地球について	〃
12	ゴミ問題	一般廃棄物の問題点と対策	〃
13	循環型社会の構築	持続ある発展その一歩は廃棄物から	〃
14	都市化の諸問題	おもにヒートアイランド現象について	〃
15	安全・環境リスクと生活の質	リスクの要因と対処の仕方	〃
	(試験)	全体の理解度の確認	

履修上の注意・関連科目等

私語及び携帯電話厳禁、途中入室、途中退出を慎むこと。
出席回数は、全体の 2/3（10 回）以上を基本とする。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	0　%
レポート	☑有り　　課題は検討中 □無し	20　%
試　　験	実施する。内容・形式等は授業の中で示す。	40　%
その他（出席状況等）	受講態度を評価する。	40　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕　使用しない。
〔参考書・その他〕
・『環境・エネルギー・健康 20 講－これだけは知ってほしい科学の知識』今中・廣瀬著、化学同人、2000 円＋税
・環境省・厚生労働省等の HP

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　　階　　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	N1－12	授業科目名	ライフマネジメント実習	担当教員名	宮﨑　陽子

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活の運営	選択科目	2	後期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

家庭生活は人間が生きる上で大切な基盤である。この家庭生活の意義とそれを豊かにするための生活経営の視点について実習を通して解説する。家庭生活を総合的に捉え主体的に営む力、生活を「つくる」力を育成するために、生活実習室の施設を活用した実践的・体験的な学習（実習等）を行う。現代社会の課題（環境共生等のテーマ）を盛り込んだ学習内容になっている。

授業の目的・到達目標

本授業は、個別に履修している家政学専門領域の知識や技術を関連づけて、実生活に応用できる力の習得を目的としている。また、家庭生活を総合的に捉えマネジメントする視点のほか、人間生活の発展に寄与する暮らし方や生活価値を探求し、理解を深めることも目的としている。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	授業の概要・進め方／家庭生活・生活経営とは	講義資料
2	家庭生活を考える	家庭生活について様々なテーマで議論する	講義資料
3	食生活を考える	食生活チェック／献立作成の知識／献立作成	講義資料
4	昼食実習①	食材の購入と調理実習（和食）	
5	昼食実習②	食材の購入と調理実習（洋食）	
6	昼食実習のまとめ	実習記録／食生活のマネジメント視点と総合評価	講義資料
7	消費生活を考える	生活費の管理シミュレーション／環境家計簿	講義資料
8	環境と衣生活（実習）	環境に配慮したエコグッズの製作	講義資料
9	人生設計と住生活	住宅選択・住まい方のシミュレーション	講義資料
10	乳幼児の生活と保育	乳幼児の生活の理解／保育体験（調乳と沐浴）	講義資料
11	家庭生活の経営	時間・労働・経済等管理と生活価値／模擬家族会議	講義資料
12	豊かな暮らしの企画	季節・地域性を生かした文化的な暮らし／会食企画	講義資料
13	豊かな暮らしの準備	会食の準備（テーマ設定）	講義資料
14	豊かな暮らしの実際	会食の実際	
15	豊かな生活とは	全体の理解度の確認と授業総括（提出物等）	講義資料
	(試験)	期末テストの実施	

履修上の注意・関連科目等

グループワークを主体とした実習のため、出席状況・受講姿勢は重要である（欠席・遅刻の多い学生の受講は不可となる）。また、自分の生活の振り返り等の調べ学習も含まれるため、普段から家庭生活事象に興味を持ち、情報収集に心がけるなどして関心を高めておくこと。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り　　内容等については授業で説明する（調べ学習・実習記録等） □無し	40　%
試　　験	期末テストを実施する。	20　%
その他（出席状況等）	受講姿勢（出席状況も含む）も評価の対象とする。	40　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕・「生活学 Navi 資料＋成分表 2013」（実教出版、2013）

〔参考書・その他〕・授業内で紹介します。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	N1－13	授業科目名	近代デザイン論	担当教員名	今井　美樹

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活とデザイン	選択科目	2	前期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

20 世紀のデザインを知る／「もののかたち」の変遷

授業の目的・到達目標

身の回りのさまざまな〈もののかたち〉には、機能的な理由の他に、時代の要請や流行、美術運動との関連、技術や素材による制約などが反映されている。本講義では、19 世紀末以降、「デザイン」として発達してきた〈もののかたち〉の変遷を広く知ることにより、国や時代によって異なる「デザイン」に対する多様な捉え方を理解し、21 世紀に展開されるべき「デザイン」の可能性を考察する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	ガイダンス	講義概要とスケジュール	◎スライドによる講義 ◎プリントを配布
2	1990 年代:デザインの現状	デジタルメディアとデザイン	
3	1950～80 年代：価値の多様化	戦後のアメリカと日本	
4		戦後のヨーロッパ	
5	1910～40 年代： デザインのモダニズム	アール・デコ	
6		大戦間のモダニズム（1）	
7		大戦間のモダニズム（2）	
8	1860～1900 年代： デザインの誕生	アール・ヌーヴォー	
9		アーツ＆クラフツ運動	
10		デザインの工業化・量産化	
11	通　史	（1）日本のデザイン	
12		（2）椅子のデザイン	
13		（3）ポスターのデザイン	
14		（3）子供とデザイン	
15	まとめ		
	(試験)		

履修上の注意・関連科目等

20 世紀の大まかな世界史・日本史を把握しておくこと。
私語や途中入退室を禁止する。講義開始後 20 分以上の遅刻は欠席とする。
講義中の注意を守らない者には退出を命じる。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り　　出席票に代わる小レポートを毎回実施する □無し	40　%
試　　験	実施する（試験時間 50 分）	40　%
その他（出席状況等）	出席状況(小レポート)と自主的な授業態度を評価する	20　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
使用しないが『世界デザイン史』(美術出版社)をもとに講義をおこなう
〔参考書・その他〕
講義中に適宜、参考となる書籍、番組、展覧会などを紹介する

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　　階　　内線	

作成年度：2012

授業科目コード	N1－14	授業科目名	生活造形論	担当教員名	横田 哲(ﾖｺﾀ ｻﾄｼ)

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活とデザイン	生マ必修科目 生活福祉選択科目	1	後期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

生活の中で衣と食と住を中心に室内環境、生活道具、生活スタイルをデザイン様式などの時間軸や、日本と西洋などの風土、文化軸から考察し 21 世紀の生活造形のあり方を考える。

授業の目的・到達目標

生活空間,生活道具は文明の発展とともに進化し,また風土や民族性によってさまざまな文化様式が生まれ多様な生活環境がつくられてきた。しかしながら現代は工業化,情報化,国際化を背景に無国籍化が進んでいる。本講は主体的な生活者の立場から,これまでの生活空間、生活ツールの流れを知った上で、21 世紀の世界的課題である環境問題とわが国の高齢化の進展への対応を考えた上で、あふれる生活ツール、情報群を適格に考察し,生活環境における問題解決を実践するための基礎的な知識を学ぶ。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	生活造形とは何か	生活者、生活空間、生活ツールの意味と時代背景	プリント、パワーポイント（以下同じ）
2	環境と生活造形 1	エクステリアにみる造形要素	
3	環境と生活造形 2	インテリアにみる造形要素	
4	住まいと生活造形 1	住生活で変わっていくもの変わらないもの	
5	住まいと生活造形 2	家具と住戸の収納計画	
6	住まいと生活造形 3	住まいの間取りの変遷	
7	家事と生活造形	洗濯掃除・手入れ・修理に求められる空間と機器・ツール	
8	身だしなみと生活造形	身だしなみに必要な空間と機器・ツールの変遷とかたち	
9	「食する」と生活造形 1	調理する空間と食べる空間	
10	「食する」と生活造形 2	調理する道具と食べる道具	
11	「学ぶ」と生活造形	学ぶ行動に求められる空間と機器・ツール	
12	「移動」と生活造形	交通手段の変遷と造形	
13	「通信」と生活造形	通信手段の変遷と機器	
14	「ｴｺﾛｼﾞｰ」と生活造形	ｴｺﾛｼﾞｰの意味、ｴｺﾛｼﾞｰの観点で注目されるもの	
15	ユニバーサルデザイン	概念の成立過程とその必要性	
	(試験)		

履修上の注意・関連科目等

受講態度、質問力を評価する

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	□有り ■無し	%
試　　験	プリント及びパワーポイントで学んだ事柄や考え方の理解度の確認	50 %
その他（出席状況等）	授業態度及び出席状況	50 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

〔参考書・その他〕

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	N1－15	授業科目名	生活造形実習Ⅰ	担当教員名	清水　尚子

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活とデザイン	選択科目	2	前期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

インテリアやファッションばかりではなく、プロダクト分野のデザインにおいても重視されている色や形で製品のイメージアップを図る能力を培う。

授業の目的・到達目標

①造形的に優れた表現力を身につけるために、代表的な表現方法を習得する。
②創意工夫を凝らし、デザインのヒントにする造形物の美点を探究する姿勢を養う。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	授業の概要	授業の進め方・留意点などの説明・制作準備	
2	カラーイメージⅠ	モザイク模様の制作指導	
3	カラーイメージⅡ	データファイルの作成指導	
4	パーソナルカラー	好きな色と似合う色について調査	
5	ペーパーデザイン	コンポジションとパターン抽出の指導	
6	捺染（プリント）Ⅰ	デザインの指導	
7	捺染（プリント）Ⅱ	染色の準備と彩色の指導	
8	捺染（プリント）Ⅲ	彩色の指導	
9	浸染Ⅰ	デザインの指導	
10	浸染Ⅱ	染色の準備と彩色の指導	
11	浸染Ⅲ	彩色の指導	
12	応用染色Ⅰ	デザイン指導	
13	応用染色Ⅱ	染色の準備と彩色の指導	
14	応用染色Ⅲ	彩色の指導	
15	仕上げ	染色作品の縫製・アイロン作業	
	(試験)	実施しない	

履修上の注意・関連科目等

①実習机の上に、私物および飲食物は置かないこと。
②道具・資料・作品は丁寧に取り扱い、必ず後片付けを行うこと。
③授業中にふさわしくない言動は、自ら慎むこと。
以上の注意に反した場合は、下記の受講態度の評価で減点する。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	□有り ■無し	%
試　　験		%
その他（出席状況等）	授業項目ごとに提出した完成作品・出席状況・受講態度を評価する。	100　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
プリントを配布する。
〔参考書・その他〕
必要に応じて授業中に紹介する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	

作成年度：2013

授業科目コード	N1－16	授業科目名	生活造形実習Ⅱ	担当教員名	清水　尚子

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活とデザイン	選択科目	3	前期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

ファッションやインテリア製品のフレキシブルな素材の代表として重宝に用いられている織物の構成を糸の段階から学び、布の風合や色や柄（模様）の理解を深め、各自のイメージに応じた実用品を製作する。

授業の目的・到達目標

視覚および触覚的に素材の質感を知ることでイメージを膨らませ、デザインと製作の試行錯誤を繰り返しながら創意工夫を凝らし、造形的能力を高める。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	授業の概要	授業の進め方・留意点などの説明・制作準備	
2	機の原理Ⅰ	整経、綜絖通しについて説明	
3	機の原理Ⅱ	筬通し、経糸巻きについて説明	
4	機の原理Ⅲ	糸染め、杼の準備指導	
5	機の原理Ⅳ	製織の指導	
6	機の原理Ⅴ	布巻き、仕上げ、織見本の制作を指導	
7	作品企画	作品のデザインと縫製手順の計画	
8	縫製準備	型紙製作と生地の裁断ほか	
9	縫製工程	ミシン縫いと手縫いによる作品の組立て	
10	縫製工程	ミシン縫いと手縫いによる作品の組立て	
11	縫製工程	ミシン縫いと手縫いによる作品の組立て	
12	縫製工程	ミシン縫いと手縫いによる作品の組立て	
13	縫製工程	ミシン縫いと手縫いによる作品の組立て	
14	縫製工程	ミシン縫いと手縫いによる作品の組立て	
15	仕上げ工程	糸の始末やアイロン作業など	
	(試験)	実施しない	

履修上の注意・関連科目等

①実習机の上に、私物および飲食物は置かないこと。
②道具・資料・作品は丁寧に取り扱い、必ず後片付けを行うこと。
③授業中にふさわしくない言動は、自ら慎むこと。
以上の注意に反した場合は、下記の受講態度の評価で減点する。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	□有り ■無し	%
試　　験		%
その他（出席状況等）	授業項目ごとに提出した完成作品・出席状況・受講態度を評価する。	10　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
プリントを配布する。
〔参考書・その他〕
必要に応じて授業中に紹介する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	

作成年度：2013

授業科目コード	N1－17	授業科目名	カラーコーディネート論	担当教員名	清水尚子

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活とデザイン	選択科目	1	後期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

システム化された表色系と心理・生理・社会・光学などの分野と深く関わる色の見えの現象の理解を深めた上で、色彩調和のための配色や色彩構成の理論について講義する。

授業の目的・到達目標

複数の色を目的に応じて秩序付け調和させ美しく快適な生活環境を生み出す能力を培うために、背景にある諸問題を認識しながら色彩体系や色彩調和論を理解する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	授業の概要	授業の進め方・留意点などの説明	
2	色を決める要素Ⅰ	光と照明	テキスト p.2,p.34~35,p.76~81
3	色を決める要素Ⅱ	光と物体色	テキスト p.2~4
4	色を決める要素Ⅲ	眼と色の見え方	テキスト p.4~5
5	色を決める要素Ⅳ	色の表示と測定	テキスト p.5~9
6	色を決める要素Ⅴ	色相記号とトーンの概念	テキスト p.10~19
7	色を決める要素Ⅵ	色覚理論と表色系	テキスト p.20~27
8	色の混合Ⅰ	加法混色	テキスト p.28~31
9	色の混合Ⅱ	減法混色	テキスト p.32~33
10	色彩の心理Ⅰ	色の見え・色彩感情	テキスト p.36~42
11	色彩の心理Ⅱ	色のイメージ・連想・象徴	テキスト p.43~47
12	色彩調和Ⅰ	色彩調和の原理	テキスト p.54~61,p.69
13	色彩調和Ⅱ	伝統的・習慣的配色技法	テキスト p.48~53,p.62,p.72~73
14	色彩調和論	色彩調和論	テキスト p.64~68
15	色彩計画	目的と対象のとらえ方・安全色彩	テキスト p70~73
	(試験)	実施する	

履修上の注意・関連科目等

①テキストはフルに活用するので、必ず持参すること。
②項目ごとに、内容の要約と理解度のチェックのための練習問題を実施する。
③授業中にふさわしくない言動があった場合は、下記の受講態度の評価で減点する。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	□有り ■無し	%
試　　験	テキストのみ持ち込み可	50　%
その他（出席状況等）	提出物の有無・出席状況・受講態度を評価する。	50　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
大井義雄・川崎秀昭 『カラーコーディネーター入門　色彩　改訂版』　日本色研事業株式会社　2009 年発行　1,575 円
〔参考書・その他〕
財団法人日本色彩研究所 『カラーコーディネーターのための　色彩科学入門』　日本色研事業株式会社　2000 年発行　1,890 円

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	

作成年度：2013

授業科目コード	N1－18	授業科目名	ドローイング	担当教員名	清水尚子

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活とデザイン	選択科目	1	後期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

モノの美的イメージに着眼して選り分ける能力と、見出したデザインソースを図形によって他者に正しく伝える能力を培う。

授業の目的・到達目標

①対象とした様々なモノの存在感が他者にも同様に伝わるように、デッサンの基本技法を習得する。
②衣食住を中心とした様々な生活ツールの特徴となるフォルム描写、並びに質感や色調の表現力を養う。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	授業の概要	授業の進め方・留意点などの説明・ラフスケッチ	
2	デッサンⅠ	目測の説明と描画	
3	デッサンⅡ	明暗法の説明と描画	
4	デッサンⅢ	奥行きの説明と描画	
5	デッサンⅣ	遠近法の説明と描画	
6	カラーシステムⅠ	三原色と混色の説明と描画	
7	カラーシステムⅡ	明度と彩度の説明と描画	
8	カラーシステムⅢ	イメージ表現の説明と描画	トーンの概念図
9	静物画	構図と配色	
10	ファッションドローイングⅠ	クロッキーの説明と描画	
11	ファッションドローイングⅡ	人体のプロポーションの説明と描画	ファッション雑誌
12	ファッションドローイングⅢ	着装のプロポーションの説明と描画	ファッション雑誌
13	カラーコーディネートⅠ	配色の説明と彩色	配色カード・work paper
14	カラーコーディネートⅡ	色彩分析の説明と彩色	配色カード・work paper
15	カラーコーディネートⅢ	アレンジメントの説明と描画や彩色	
	(試験)	実施しない	

履修上の注意・関連科目等

①実習机の上に、私物および飲食物は置かないこと。
②道具・資料・作品は丁寧に取り扱い、必ず後片付けを行うこと。
③授業中にふさわしくない言動は、自ら慎むこと。
以上の注意に反した場合は、下記の受講態度の評価で減点する。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	□有り ■無し	%
試　　験		%
その他（出席状況等）	授業項目ごとに提出した完成作品・出席状況・受講態度を評価する。	100　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
プリントを配布する。
〔参考書・その他〕　必要に応じて授業中に紹介する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	

作成年度：2013

授業科目コード	N1－19	授業科目名	画像演習 I	担当教員名	渡壁（わたかべ） 京子

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活とデザイン	選択科目	2	後期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

画像の加工や合成，あるいはイラストの作成など，フォトレタッチソフト（Photoshop Elements）の利用方法について解説する．

授業の目的・到達目標

パソコンの性能が向上し，だれもが簡単にコンピュータを使って画像を処理・生成することができるようになり，画像や映像ををを作成する機会が増えている．そこで，Photoshop Elements を利用した，画像の加工やイラストの作成方法について習得する．

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	ガイダンス	授業内容・進め方についてのガイダンス	
2	画像の整理	写真の取り込みと整理	テキスト P18～
3	画像の補正①	色の修正	テキスト P58～
4	画像の補正②	画像の修整	テキスト P82～
5	画像の補正③	フィルター効果	テキスト P108～
6	画像の補正④	画像のレタッチ	テキスト P124～
7	画像の合成①	画像の合成	テキスト P150～
8	画像の合成②	部分的な画像の合成	テキスト P162～
9	復習	ここまでの演習内容の復習	
10	文字の入力	文字の入力と装飾方法	テキスト P178～
11	イラストの描画①	新しいイラストの作成	テキスト P202～
12	イラストの描画②	作成したイラストに効果をつける	テキスト P218～
13	年賀状の作成	写真を使った年賀状の作成	
14	最終課題作成①	最終課題作成のための画像の収集	
15	最終課題作成②	最終課題作成と印刷	
	(試験)	実施しない	

履修上の注意・関連科目等

演習科目であるので，遅刻・欠席をしないこと．
テキストを持参しない者，受講態度の悪い者は出席と認めない．
また，授業を妨害する者には退室を命じる．

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	□有り ■無し	%
試　　験	演習科目であるため実施しない．	%
その他（出席状況等）	授業時の提出課題を中心に，授業態度・出席状況を加味して判断する．	100 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
「速効！図解　Photoshop　Elements　10　Windows&Mac 対応」　マイナビ　1,449 円
〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	N1－20	授業科目名	画像演習Ⅱ	担当教員名	渡壁（わたかべ） 京子

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活とデザイン	選択科目	3	前期	2	時間割参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

イラストの作成を中心に，グラフィックソフト（Illustrator）の利用方法について解説する．

授業の目的・到達目標

実際に作品を作っていくことで，Illustrator の実際的な使い方を体得する．簡単なイラストの作成から始め，ロゴの作成やトレースなどさまざまな活用方法を学ぶ．

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	ガイダンス	ガイダンスと基本操作	テキスト P10~
2	基本図形のイラスト	基本図形を使ったイラストの作成	テキスト P28~
3	基本図形の変形	基本図形の変形と組合せ	テキスト P38~
4	レイヤーの基本	レイヤー操作	テキスト P52~
5	線の描画	ペンツールの使い方	テキスト P68~
6	線幅の変更	線幅ツールの使い方	テキスト P78~
7	線の変更	ブラシツールの使い方	テキスト P90~
8	色の変更	スウォッチパネルとグラデーション	テキスト P106~
9	アピアランス	アピアランスパネルの使い方	テキスト P126~
10	不透明度	不透明度の設定と配色	テキスト P132~
11	遠近感を出す	遠近グリッドの使い方	テキスト P154~
12	3D 効果	押し出し・ベベル・回転体の使い方	テキスト P170~
13	チラシの作成	画像とテキストの配置	テキスト P196~
14	最終課題作成①	最終課題作成のための画像の収集	
15	最終課題作成②	最終課題作成と印刷	
	(試験)	実施しない	

履修上の注意・関連科目等

演習科目であるので，遅刻・欠席をしないこと．
テキストを持参しない者，受講態度の悪い者は出席と認めない．
また，授業を妨害する者には退室を命じる．

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	□有り ■無し	%
試　　験	演習科目であるため実施しない．	%
その他（出席状況等）	授業時の提出課題を中心に，授業態度・出席状況を加味して判断する．	100 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
「速習デザイン　Illustrator　CS5」　技術評論社　2,604 円
〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	N1－23	授業科目名	ファブリック構成実習	担当教員名	清水尚子

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日･時間	開設学科･専攻･コース
専門発展科目 生活とデザイン	選択科目	1	後期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ･概要

ファッションデザインコンテストに応募し衣裳を制作することになった学生と、その制作援助をする学生を対象として集中的に指導を行う。

授業の目的･到達目標

前例の無い衣裳を制作することにより、縫製手順や技術を習得しながら、体形と衣服構成の関係を理解する。

授業内容･授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	授業の概要	授業の進め方･留意点などの説明・制作準備	
2	衣服の構成	型紙の製作説明	
3	仮縫い工程	仮縫い用布の裁断	
4	仮縫い工程	仮縫い用布の縫製	
5	仮縫い工程	仮縫い用布で仮縫い	
6	素材の選択	生地や構成部品の購入	
7	裁断工程	生地の裁断	
8	縫製工程	ミシン縫いと手縫いによる衣裳の組立て	
9	縫製工程	ミシン縫いと手縫いによる衣裳の組立て	
10	縫製工程	ミシン縫いと手縫いによる衣裳の組立て	
11	縫製工程	ミシン縫いと手縫いによる衣裳の組立て	
12	縫製工程	ミシン縫いと手縫いによる衣裳の組立て	
13	縫製工程	ミシン縫いと手縫いによる衣裳の組立て	
14	仕上げ工程	アイロン作業ほか	
15	着装	モデルの最終衣装合わせ	
	(試験)	実施しない	

履修上の注意･関連科目等

ファッションショーに出演する場合は、モデルの練習時間も考慮して計画的に作業を進める必要があり、間際に仕上がったり、まして未完成で出演を断念したりすることが無いように努力すること。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	□有り ■無し	%
試　　験		%
その他（出席状況等）	授業項目ごとの作品完成度・出席状況・受講態度を評価する。	100　%

教科書･参考書及び辞典等

〔テキスト〕

プリントを配布する。

〔参考書・その他〕

必要に応じて紹介する。

オフィス･アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所･学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	

作成年度：2013

授業科目コード	N1－24	授業科目名	アパレル素材論	担当教員名	清水尚子

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活とデザイン	生マ必修科目 生活福祉選択科目	2	後期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

アパレル(衣服)を製造・販売する側にも、選択・購入する側にも、基礎知識として役立つ布地の構成や特性および外観的イメージについて講義する。

授業の目的・到達目標

繊維・糸・織り方・編み方・仕上げ・加工等々の布地を構成している要素が、衣服の製服性・着用性から色・柄（模様)・光沢・透明感などによる表現性にまで連係していることを、衣服形態の変遷と共に理解する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む)	使用資料（プリント等)
1	授業の概要	授業の進め方・留意点などの説明	
2	衣服デザイン教育Ⅰ	衣服の役割について講義	
3	衣服デザイン教育Ⅱ	衣服の起源について講義	
4	衣服形態の変遷Ⅰ	西洋の古代の服装について講義	
5	衣服形態の変遷Ⅱ	西洋の中世の服装について講義	
6	衣服形態の変遷Ⅲ	西洋の近世の服装について講義	
7	素材の構成Ⅰ	織柄の組織図について講義	
8	素材の構成Ⅱ	織柄のデザインについて講義	
9	素材の評価	布の風合について官能検査	
10	素材の模様Ⅰ	模様の種類について講義	
11	素材の模様Ⅱ	織柄について講義	
12	素材の模様Ⅲ	染柄について講義	
13	素材の種類	織物・編物・皮・毛皮等について講義	
14	素材の特性Ⅰ	繊維と糸について講義	
15	素材の特性Ⅱ	糸と布について講義	
	(試験)	実施する	

履修上の注意・関連科目等

①配布プリントのみ持ち込み可能で試験を実施するので、プリントの管理を怠らないこと。
②項目ごとに、内容の要約と理解度チェックのための練習問題を実施する。
③授業中にふさわしくない言動があった場合は、下記の受講態度の評価で減点する。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	□有り ■無し	%
試　　験	配布プリントのみ持ち込み可	50 %
その他（出席状況等)	提出物の有無・出席状況・受講態度を評価する。	50 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
プリントを配布する。
〔参考書・その他〕
必要に応じて授業中に紹介する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	

作成年度：2013

授業科目コード	N1－25	授業科目名	ファッションビジネス論	担当教員名	平岡　隆一

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活とデザイン	選択科目	2	前期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

現代生活にとってファッションは欠かせないものになっています。
これから面白くなるファッションビジネスについて講義する。

授業の目的・到達目標

生活につながるすべてのものがファッション化し、バラエティ豊かな商品が溢れる時代を迎えている。
これが「ファッションを自己表現の手段、コミュニケーションの手段にする」人々が増えてきています。ファッションと現代生活は密接にそのファッションビジネスに活用することを目的とする。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	授業の目的進め方	講義の内容、進め方などの説明	
2	ﾌｧｯｼｮﾝﾋﾞｼﾞﾈｽの解析	ファッションの内容にについて講義	テキストＰ34～Ｐ35
3	ﾌｧｯｼｮﾝ企業の実務入門	ファッションビジネスフローについて講義	テキストＰ35～Ｐ36
4	〃	ファッションビジネススタッフ、タイムテーブルについて講義	テキストＰ36～Ｐ39
5	ﾌｧｯｼｮﾝ企業の実務進行	コンセプトに決め方について講義	テキストＰ41～Ｐ45
6	ﾓﾉづくりの実践基礎講座	営業予算～展示会迄を講義	テキストＰ48～Ｐ52
7	ﾌｧｯｼｮﾝ小売業の実務入門	小売店の構成要因～小売店の一日の流れについて講義	テキストＰ56～Ｐ65
8	接客販売の基本	アプローチ～アフターサービス迄の流れについて講義	テキストＰ68～Ｐ82
9	ｾｰﾙｽの基本	接客販売もパーソナルスタイリストの時代へについて	テキストＰ83～Ｐ88
10	〃	ファッションアドバイザーのお客様とのコミュニケーションについて	テキストＰ91～Ｐ98
11	ﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲの基本	売れる為の商品プレゼンテーションと場作りにについて講義	テキストＰ99～Ｐ100
12	〃	ディスプレイの基礎技術について講義	テキストＰ101～Ｐ103
13	繊維の基礎知識	繊維の種類、糸のいろいろについて講義	テキストＰ104～Ｐ106
14	〃	織物の基本、編物の基本について講義	テキストＰ107～Ｐ124
15	まとめ		
	(レポート提出)		

履修上の注意・関連科目等

特になし

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し	%
レポート	☑有り □無し	65%
試　　験		%
その他（出席状況等）	出席と授業態度	35%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス

作成年度：2012

授業科目コード	N1－26	授業科目名	マーケティング・リサーチ	担当教員名	平岡　隆一

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活とデザイン	選択科目	1	後期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

現代生活にとってファッションは欠かせないものになっています。そのファッションビジネスを通じてマーケット（市場）とはどの様なシステムになっていて、どうすれば新しいマーケットを創造できるかを解明します。

授業の目的・到達目標

今日のあらゆる分野のビジネスは行き詰まりを生じている。それを解くのは“消費者のニーズ”をいかに適確に早くキャッチするかにかかっている。従来のマーケットアウト（消費者不在）の考え方からマーケットイン（消費者ニーズ）の発想に変えるかにかかっている。そして新しいマーケットニーズを適確にどうつかむかをファッションビジネスを通じて解明します。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	講義オリエンテーション	講義の進め方に関するガイダンス。	
2	ファッションとは	ファッション産業について講義	ﾌﾟﾘﾝﾄ 10P～12P
3	ファッション商品①	“流行”の常識について講義	ﾌﾟﾘﾝﾄ 12P～13P
4	ファッション商品②	「4 つの皮膚」論によるファッション産業について講義	ﾌﾟﾘﾝﾄ 13P～14P
5	ファッション商品の切り口	商品グループのコンセプトについて講義	ﾌﾟﾘﾝﾄ 14P～15P
6	ファッション産業	現代生活とファッションについて講義	ﾌﾟﾘﾝﾄ 6P
7	アパレルの位置づけ	アパレルの重要性について講義	ﾌﾟﾘﾝﾄ 6P～7P
8	ファッション産業の問題点	転換点にきた日本について講義	ﾌﾟﾘﾝﾄ 7P～8P
9	アパレル産業	アパレル産業について講義	ﾌﾟﾘﾝﾄ 16P～17P
10	アパレル生産企業	アパレルメーカーについて講義	ﾌﾟﾘﾝﾄ 18P～19P
11	ファッション流通入門	アパレル流通経路について講義	ﾌﾟﾘﾝﾄ 20P～23P
12	ファッション小売企業	ファッション小売産業について講義	ﾌﾟﾘﾝﾄ 23P～25P
13	ファッション産業の新しい動向①	垂直統業化について講義	ﾌﾟﾘﾝﾄ 27P～30P
14	ファッション産業の新しい動向②	新業態の登場について講義	ﾌﾟﾘﾝﾄ 30P～32P
15	まとめ		
	(レポート提出)		

履修上の注意・関連科目等

各回プリントの範囲を指定するので該当箇所を必ず予習すること。
寝るな、しゃべるな、遅刻するなを合言葉に授業を進めます。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	☑有り □無し	70%
試　　験	無し	%
その他（出席状況等）	出席状況・授業態度	30%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
〔参考書・その他〕
ファッションビジネス入門読本プリント

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス

授業科目コード	N1－27	授業科目名	流行と消費者行動	担当教員名	平岡 隆一

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活とデザイン	選択科目	1	後期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

流行すなわち「商品のサイクル」を理解し、世界の動き・経済環境・商品の動向・消費者の動きなどの市場動向を調査・分析する。

授業の目的・到達目標

①流行のサイクルを理解し判断することが出来るようになれる
②消費者の価値観の動向・変化を理解できる
③1 人の消費者として「商品」を見極める目を養うことが出来るようになれる

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	授業の進め方・目的について	講義の内容・進め方などの説明	
2	商品のライフサイクルとマーケットイン	ファッションサイクルについて	資料配布
3		スパイラル状に変化するサイクルについて	
4		マーケットインの対応について	
5	進化するファッション意識	マズローの欲求 5 段階説について	資料配布
6		消費とビジネスの変遷	
7		10 人 1 色から 1 人 1 色、1 人 10 色へ	
8		20 世紀後半の生活文化史について	
9	今日のマーケティング戦略	マーケティングとは	資料配布
10		ターゲット設定とコンセプトについて	
11		マーケティングの 3C・4C とは	
12	欠かせない市場情報の収集と分析	マーケティングリサーチについて	資料配布
13		消費者動向調査とは	
14		調査データの分析と活用の仕方	
15	まとめ		
	(レポート提出)		

履修上の注意・関連科目等

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	☑有り □無し	70 %
試　　験		%
その他（出席状況等）		30 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
〔参考書・その他〕

作成年度：2007

授業科目コード	N1－28①	授業科目名	装いとメイクアップ	担当教員名	水野 夏子

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活とデザイン	選択科目	1	後期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

中国の化粧文化、および中国と日本の化粧文化の比較について講義する。

授業の目的・到達目標

中国の化粧文化の特徴を知るとともに、日本の化粧文化にどのような影響をもたらしてきたのかについて理解する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	中国の化粧文化①	原始～唐代の化粧について講義。	プリント、パワーポイント
2	中国の化粧文化②	宋代～清代の化粧について講義。	プリント、パワーポイント
3	中国と日本の比較①	中国と日本の化粧文化の比較について講義。	プリント、パワーポイント
4	中国と日本の比較②	中国と日本の化粧文化の比較について講義。	プリント、パワーポイント
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
	(試験)	実施する。	

履修上の注意・関連科目等

私語および途中入室、途中退室は厳に慎むこと。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	□有り ■無し	%
試　　験	内容・形式等については授業の中で説明する。	70 %
その他（出席状況等）	出席と受講態度を重視する。	30 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕使用しない。プリントを配布する。
〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	N1－28②	授業科目名	装いとメイクアップ	担当教員名	野村　仁美

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活とデザイン	選択科目	1	後期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

いま企業はどのような人材を求めているのか？
スキルや知識は大事だがそれ以前にコミュニケーションがとれる人が必要としている。
内面の装いをしっかり身につけメイクアップで外見の美しさとの両面で人間力を高めよう！
とにかく聞く授業よりＧワークや実習を多くして表現力をつけてほしい。

授業の目的・到達目標

コミュニケーションマナー（内面の装い）が習慣化できるようになりましょう！
自分に似合うメイクスキルを身につけ将来の就活に自信を持って望めるようになりましょう！
他人を好意的に見られるようになりましょう！

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1			
2			
3			
4			
5	学生と社会人の違い	なぜ人は働くのでしょう？G ワーク	プリント
6	コニュニケーション マナー	人との信頼関係にかかせない 5 つのマナー	プリント
7	ハンドケア	他人の手に触れ心地良さの提供　　実習	プリント
8	皮膚の基礎知識	スキンケアの大切さ　　実習	
9	メイクアップ	自分に似合うメイクアップ実習	プリント
10	自分のヴィジョンの 発表	コミュニケーションマナー実習 聴く事の大切さ	プリント
11			
12			
13			
14			
15			

履修上の注意・関連科目等

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し	%
レポート	■有り □無し	70　%
試　　験		%
その他（出席状況等）	出席と受講態度	30　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕使用しない。プリント配布
〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　　階　　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	N1－28③	授業科目名	装いとメイクアップ	担当教員名	黄　貞允

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活とデザイン	選択科目	1	後期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

現在注目されている韓国の化粧文化を、日本と比較しながらその特徴について講義する。

授業の目的・到達目標

日本の隣国である韓国の化粧文化を知ることで、西洋とは違う日本と韓国の化粧文化を理解することを目的とする。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12	韓国における化粧の歴史	古代から現代に至るまで韓国の各時代における化粧の特徴を講義	プリント、パワーポイント
13	韓国の化粧文化	韓国の化粧文化を講義	プリント、パワーポイント
14	日本の伝統化粧の特徴	日本の伝統化粧の特徴を講義	プリント、パワーポイント
15	日本と韓国の比較	現代日本と韓国の化粧文化の比較を講義	プリント、パワーポイント
	(試験)	実施する	

履修上の注意・関連科目等

私語及び途中入室、途中退室は慎むこと。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り □無し	40　%
試　　験	内容・形式については、授業の中で説明する。	40　%
その他（出席状況等）	出席と授業参加を重視する。	20　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

使用しない。プリントを配布する。

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　　階　　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	N1－29	授業科目名	ユニバーサルデザイン論	担当教員名	大河内 雅司

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活とデザイン	選択科目	3	前期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

ユニバーサルデザイン（以下、UD）とはなにか？その概念を学ぶと共に、バリア（障壁）の体験や小グループでの意見交換・発表などにより、UDを自らの問題として学ぶことを支援します。

授業の目的・到達目標

UDについて学ぶことを通じて、自分なりの視点や問題意識を持つことを目標とします。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ　全体説明	全体課題及び各回の内容について説明します。	講師作成資料
2	受講生のUD度ﾁｪｯｸ	受講生の「UD度」をチェックします。	〃
3	キャンパス内の疑似体験	キャンパス内で疑似体験を行い、体でバリアを感じてもらいます。感想をみんなで共有します。	学内の車いすを使用
4	UDの理解（その1）	UDの概念や事例を紹介します。	パワーポイントを使用
5	障害種別とバリアの理解（その1）	障がい者とは？バリアとは？障がい者の概要と生活課題について説明します。 当事者によるミニ講演を予定しています。	講師作成資料
6	障害種別とバリアの理解（その2）	当事者によるミニ講演を予定しています。 「まちのUD探し」の課題を出します	講師作成資料
7	まちのUD探し（その1）	まちのUD事例を自分の視点で探し、レポートにまとめます。	自主学習
8	UDの理解（その2）	UDの背景として、福祉のまちづくり条例やバリアフリー新法などの法制度について説明します。	パワーポイントを使用
9	まちのUD探し（その2）	まちのUD探しのレポートを発表し、成果を共有します。	学生の発表
10	UDと社会福祉政策	UDを時代背景や社会福祉政策の動向から俯瞰してみます。	講師作成資料
11	UDにおける住民参加の学習（その1）	UDにおける住民参加について、事例（交通バリアフリーなど）をもとに説明します。	パワーポイント、ビデオを使用
12	UDにおける住民参加の学習（その2）	UDにおける住民参加について、事例（地域福祉計画など）をもとに説明します。	〃
13	キャンパスのUD(その1)	キャンパスのバリアフリーについて、事例を基に理解を進めます。	講師作成資料
14	キャンパスのUD(その2)	UDの視点で羽衣大学キャンパスのバリアフリー調査を行います。	パワーポイント、ビデオを使用
15	キャンパスのUD(その3)	キャンパスのバリアフリーについて調査報告、提案を行います。	〃
	（試験）	試験を行います。	

履修上の注意・関連科目等

「まちのUD探し」は必ずレポートを提出すること。意見交換や発表では、グループワークを行うこと。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り　■なし	
レポート	■有り　□なし　自分の視点でまちのUDを探し、レポートにまとめる。	25　%
試　　験	授業最終日に試験を実施する。	25　%
その他（出席状況等）	出席状況と講義の中での発表を評価する。	50　%

教科書・参考書及び辞典等

〔参考書・その他〕　梶本久夫編著「ユニバーサルデザインの考え方」　丸善
　川内美彦「ユニバーサルデザインーバリアフリーへの問いかけ」「ユニバーサル・デザインの仕組みをつくる」　学芸出版社　など

電子メールのアドレス

作成年度：2013

授業科目コード	N1－30	授業科目名	ハウスプランニング	担当教員名	宮﨑　陽子

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活とデザイン	生マ必修科目 生活福祉選択科目	1	前期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

本授業では家政学における住居学の基本的な内容を講義する。住居学を構成する分野のうち、住文化・住様式、住居計画、住環境工学、居住管理、居住政策についてとりあげる。それらを家庭生活との関わりから考察し、豊かな住生活を提案するために必要な基礎的知識や視点を概説する。

授業の目的・到達目標

家政学の住居学の基本的内容を理解し、豊かな住まい・住環境を実現させるための住まい方、および設計条件や社会条件等について、総合的に考慮した提案ができる。また、客観的な知見と主体的な考察をもとにして、これからの住生活のあり方について述べることができる。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	授業の概要や進め方の説明／住居学とは	講義資料
2	住まいの機能	住まいの役割	P16-17
3	住まいの歴史(1)	日本の庶民住宅の変遷（古代～近世）	P22-31
4	住まいの歴史(2)	日本の住宅の近・現代の特徴	P32-35
5	住まいと生活様式	起居様式の特徴、日本の民家の特徴	P14-15､30-31､38-139
6	平面計画の理論	生活行為と住空間・平面タイプ・間取りを読む	講義資料
7	住まいの公私空間	家族の生活と私室・公室の意義や特徴	P12-13､134-137
8	家族と住まい	現代の家族のライフスタイルと住まい･居住環境	P52-63､132-133
9	少子高齢社会と住まい	少子高齢社会での住まい・居住環境の課題	P94-113
10	室内環境(1)	快適で健康な音・光環境の条件	P70-73
11	室内環境(2)	快適で健康な風・熱環境の条件	P66-69
12	住まいの維持･管理	住まいの維持・管理の意義と内容	講義資料
13	快適な居住環境	快適で持続可能な居住環境・まちの条件	P80-91
14	住まいの問題と政策	日本の居住問題と居住政策の特徴、居住の権利	講義資料
15	人間らしい住まいを考える	全体の理解度の確認と授業総括	講義資料
	(試験)	期末試験の実施	

履修上の注意・関連科目等

本授業は生活マネジメントコースの必修科目であり、「教職課程（家庭科）」および「インテリア設計士」の必須科目です。住生活・住空間・住環境に関するニュースや新聞記事等に注目し、情報収集（住宅プランを集める、本を読む等）に心がけるなどして関心を高めておきましょう。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り　講義内容の理解度を把握するため、適宜レポート課題を実施する。 □無し	20　%
試　験	期末テストを実施する。	60
その他（出席状況等）	受講姿勢（出席状況も含む）も評価の対象とする。	20　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

「図解住居学１　住まいと生活」（図解住居学編集委員会編、彰国社、2011 年）2,940 円

〔参考書・その他〕

授業内で紹介します。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	N1－31	授業科目名	ハウスプランニング実習	担当教員名	宮﨑　陽子

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活とデザイン	選択科目	1	後期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

本授業では、立体的な住空間を 2 次元上に表現することの意義・役割を解説し、住宅図面を描く際に必要となる設計製図の初歩的技術について指導する。また、実習を通して受講生が快適で住みやすい住宅・住空間を図面として提案できることをめざし、製図技術のほか、空間把握力・設計計画力・創造表現力・プレゼン技術などの習得を目的とした課題を段階的に提示し解説する。

授業の目的・到達目標

住宅図面を描くための基礎的な約束ごとを正確に身につけることが到達目標である。
①住宅図面の模写・設計作業を通して、住宅図面が示す様々な空間情報を正確に理解できる。
②住宅図面の描き方や作図技術を身に付け、第 3 者に空間情報が正確に伝わるような図面を描ける。
③住宅図面から三次元空間をイメージでき、自分が思い描く住まいを平面図上に表現できる。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	授業概要／製図の目的／図面の解説／用具の解説	講義・課題資料
2	直線の練習	線の種類･描き方の解説／直線と製図用文字を描く	講義・課題資料
3	曲線の練習	円の描き方の解説／曲線の図形を描く	講義・課題資料
4	表示記号の練習	平面表示記号の模写／出入口･窓･設備・家具等を描く	講義・課題資料
5	平面図の基礎練習(1)-①	住空間の平面図（S=1:50）の模写	講義・課題資料
6	平面図の基礎練習(1)-②	上記の続行作業と着色仕上げ	講義・課題資料
7	平面図の基礎練習(2)-①	木造住宅の平面図の模写　（主要設備家具含む）	講義・課題資料
8	平面図の基礎練習(2)-②	上記の続行作業と仕上げ・完成	講義・課題資料
9	配置図の基礎練習(1)	配置図の模写と庭園設計の練習	講義・課題資料
10	住宅の自由設計　①	①設計条件と構想：設計概要／ラフスケッチ作業開始	講義・課題資料
11	住宅の自由設計　②	②ラフスケッチ　：ラフスケッチ完成／平面図の作成	講義・課題資料
12	住宅の自由設計　③	③平面図の完成　：平面図の作成（続行作業）	講義・課題資料
13	住宅の自由設計　④	④配置図の完成　：配置図の作成／想定家具カタログ	講義・課題資料
14	住宅の自由設計　⑤	⑤プレゼンボード：設計趣旨の作成とプレゼンボード	講義・課題資料
15	まとめ（総評会）	⑥作品発表会　　：最終作品のプレゼンテーション	講義・課題資料
	(試験)		

履修上の注意・関連科目等

本授業は「教職課程（家庭科)」および「インテリア設計士」の必須科目です。快適でデザイン的にも優れた住宅設計の提案をするためには、数多くの優れた住宅プランに触れてそれらを沢山模写したり、関連する情報を積極的に収集したりして、自分のデザイン感性を高めておくことが大切です。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	■無し	%
レポート	□有り ■無し	%
試　　験	提出された全ての課題の内容をもって評価する。	70　%
その他（出席状況等）	受講姿勢（出席状況も含む）も評価の対象とする。	30　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
「インテリア設計士テキスト〈実技編〉」(加藤力他編著、日本インテリア設計士協会、2010 年）1,200 円
〔参考書・その他〕　授業内で紹介します。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	N1－32	授業科目名	住空間デザイン実習 (空間ﾃﾞｻﾞｲﾝ実習)	担当教員名	疋田 友一

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活とデザイン*	選択科目	2	後期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

本実習では、快適な住空間を創造する上で、インテリアデザインが果たす意義と役割を、実習を通して解説する。また、具体的空間におけるインテリア計画の実践的学習を通して、実際にインテリアの設計に関わる際に求められる基礎的技術や知識と感性を修得させながら、個性的な課題作品を発表させる。

授業の目的・到達目標

インテリア設計を行う際に、対象となる住宅の空間条件や住生活特性を理解した上でデザインの条件を提案し、実際に住空間計画としてデザイン提案が出来るようになる。また、種々の表現技術も習得でき、誰にも解りやすいビジュアルな形でのデザインプレゼンテーションが出来るようになる。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	授業の目的・進め方	実習の概容、進め方と設計プロセスの説明	シラバス・テキスト
2	設計の進め方	部屋別インテリア設計の基本と計画の説明	テキスト
3	平面図の描き方	平面図の描き方と平面計画図の練習課題作成	テキスト・資料配付
4	設計課題の進め方	改造計画の概要説明と基本平面図の作成	テキスト・資料配付
5	平面計画の進め方	家族構成・コンセプトと平面計画のラフスケッチ	テキスト・資料配付
6	家具デザイン計画	家具デザイン計画の説明と平面計画図の作成	テキスト・資料配付
7	（第 2 週：続き）	家具計画の決定、平面計画図の完成	テキスト・資料配付
8	仕様書作成	室内仕上表及び家具などの材種・仕上げの決定	テキスト・資料配付
9	照明計画	照明計画の説明と天井伏図の作成	テキスト・資料配付
10	展開図・色彩計画	主要空間の展開図作成と着彩練習課題の作成	テキスト・資料配付
11	室内パース	室内パースの描き方の説明と作成開始	テキスト・資料配付
12	（第 2 週：続き）	室内パースの作成続行	
13	（第 3 週：続き）	室内パースの完成・着彩	
14	プレゼンテーション	プレゼンテーションボードの作成	
15	設計課題の発表	各自作品のデザインプレゼンテーション発表	
	(試験)	試験はなし。全ての設計課題作品提出で評価	

履修上の注意・関連科目等

インテリアデザインは、住み手の住生活や家族生活にマッチした独創性の高い提案が求められることになる。オリジナリティに富んだ個性的デザインが提案出来るよう、優れたインテリアデザインの実例を沢山体験し、自分のデザイン感性の啓発に心がけること。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	□有り ■無し	%
試　　験	最終提案作品のプレゼンテーション・ボードと実習ごとに提出された全ての課題の内容をもって評価する。	80 %
その他（出席状況等）	出席状況や受講姿勢も評価の対象とする	20 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕『インテリア設計士テキスト＜実技編＞』加藤力他・日本インテリア設計士協会・1,200 円
テキストは授業開始時に教室で販売。その他、必要に応じて実習課題ごとに資料配付を行う。
〔参考書・その他〕『家具設計テキスト＜家具のデザインと設計＞』加藤力・日本インテリア設計士協会 2,000 円。その他、実例を紹介するなど、理解しやすい実習を行う。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	講義中に指示する

作成年度：2013

授業科目コード	N1－33	授業科目名	インテリアコーディネート論	担当教員名	宮﨑　陽子

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活とデザイン	選択科目	2	前期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

本授業では、より美しく快適な住空間を構成するために必要なインテリアの基礎的知識について講義をする。インテリアデザイン史、インテリア計画、材料、構造、設備機器、関連法規・法令などについて幅広く解説し、生活者の視点からみた好ましいインテリアとは何かについて共に考察していく。

授業の目的・到達目標

インテリアコーディネートに関する基礎的知識の習得が目的である。具体的には、①インテリア関連の基礎的内容を理解し説明ができる。①住み手と住宅供給側の求める条件を総合的に理解できる。②アメニティの高いインテリアデザインを実現するための空間課題を考え、自分なりの提案ができる。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	授業の概要等の説明／インテリアとは	講義資料
2	住まいと風土	世界各地の風土と住まいのデザイン等の関係	P10-11
3	インテリアの歴史(1)	日本のインテリアと建築の歴史（古代～近世）	P22-31
4	インテリアの歴史(2)	西洋のインテリアと建築の歴史（古代～近世）	(P38-45)
5	インテリアの歴史(3)	近・現代のインテリア／インテリアスタイル	P34-35、P46-49
6	インテリアと人間	人間工学の基礎と家具・インテリアへの応用	講義資料
7	色彩計画	住まいの色彩計画の方法と効果	P74-75
8	照明計画	住まいの照明計画の方法と効果	P72-73
9	ｲﾝﾃﾘｱｽﾀｲﾙと装飾・装備	インテリアスタイルの分類／ｳｨﾝﾄﾞｰﾄﾘｰﾄﾒﾝﾄ等	
10	住宅各室の計画	住宅各室のインテリア・家具計画	(P16-17)
11	インテリアと構法	住宅の建築構造の種類・特性・インテリア構成	P118-123
12	インテリアと材料	インテリアの構成材料の特性	P116-117
13	インテリアの設備・機器	快適な室内環境のために必要な設備とその計画	講義資料
14	インテリア関連法規	インテリア関連の法規・法令や制度の基礎知識	講義資料
15	インテリアの新課題	少子高齢化・持続可能社会とインテリア／授業総括	
	(試験)	期末試験の実施	

履修上の注意・関連科目等

本授業は「インテリア設計士」の必須科目です。インテリアに関する知識や技術を深めるためには、日常生活の中で常に新しい家具やデザインに接することが大切です。そのため、積極的に新しいインテリアデザインを体験できる場に足を運んだり、書籍・雑誌などに目を通したりして、インテリア・家具に関する情報収集をして下さい。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り　講義内容の理解度を把握するため、適宜レポート課題を実施する。 □無し	20　%
試　験	期末テストを実施する。	60
その他（出席状況等）	受講姿勢（出席状況も含む）も評価の対象とする。	20　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
「図解住居学 1　住まいと生活」（図解住居学編集委員会編、彰国社、2011 年）2,940 円
〔参考書・その他〕
「インテリア設計士テキスト＜学科編＞」（加藤力他・日本インテリア設計士協会）2,000 円　など

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	N1－34	授業科目名	家庭電器・機械	担当教員名	吉田福蔵

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活とデザイン	選択科目	2	前期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

家庭の機械と電気機器について、その原理や構造および安全性、合理性など、生活者の立場から解説する。

授業の目的・到達目標

日常生活における電気機器や機械は、科学技術の進展により、新しいシステムや新規材料などが使われて新製品となる。受講者は、これらの的確な選択方法や必要な基礎技術知識を習得し、それを通じて日常生活を豊かなものにするための工夫、創造力および実践的な態度を身につける。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	授業の目的・進め方	講義の概要、進め方および機械の歴史、分類	プリント(1)
2	機械の要素と機構	定義、要素、自転車、ミシン	プリント(2)
3	機械の運転伝達	カム、摩擦車、歯車、ねじ	プリント(3)
4	機械材料	種類、金属材料の機械的性質、プラスチック材	プリント(4)
5	電気エネルギーの形	これからのエネルギー、ルームエアコン、ヒートポンプの仕組み、冷蔵庫、SI 国際単位系	プリント(5)
6	電気一般	電気の発生と種類、用語と単位	プリント(6)
7	直流とオームの法則	抵抗の性質、抵抗率と導電率、温度係数と抵抗	プリント(7)
8	交流とは	交流の性質(周波数、周期、正弦波形)、単位	プリント(8)
9	交流回路素子と電力	回路素子の種類、位相角、交流電力と電力量	プリント(9)
10	電流の磁気作用	コイルの磁束、電磁誘導、変圧器と電圧	プリント(10)
11	住宅の電気配線	分電盤、漏電遮断機、スイッチ、コンセント、電気の図記号、電気料金の計算	プリント(11)
12	電気と食品の加熱	電熱機器、電気炊飯器、電子レンジ	プリント(12)
13	電動機の応用	誘導電動機の原理、扇風機、ヘアドライヤー、洗濯機、温水便座	プリント(13)
14	情報伝達の機器	音の特性、録音、CD、テレビ、製品の選択基準、仕様書と取扱説明書	プリント(14)
15	新しい照明器具	LED タイプの各種照明について	プリント(15)
	(試験)	実施する。	

履修上の注意・関連科目等

毎回、講義で使用するプリントを配付するので、予習・復習すること。携帯電話の電源は、講義前に必ず切ること。講義中の私語は慎むこと。途中入室・退室は認めない。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	■有り　毎回、授業の終了後に実施する。 □無し	15　%
レポート	■有り　課題テーマ:「家庭電気機器の安全かつ合理的な節電を考えた使用」 字数：A4 用紙 2 枚 □無し	20　%
試　　験	内容・形式等につては、授業の中で説明する。	50　%
その他（出席状況等）	出席(受講態度を含む)を重視し、評価に考慮する。	15　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

〔参考書・その他〕池本洋一、財満鎮雄共著「標準家庭機械・電気」理工学社
稲見辰夫著「機械のしくみ」日本実業出版社　など

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	N1－35	授業科目名	住生活演習	担当教員名	宮﨑　陽子

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活とデザイン	選択科目	3	前期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

本授業では現代の住生活をめぐる様々な問題を取り上げ、人間らしい住まいとは何かを総合的に考える授業である。毎回の授業で住宅問題の概要やトピックとなるテーマについて解説する。また、主体的に学ぶ演習方式であり、講義内容を踏まえたテーマについての資料収集や調査を学生自身が行い、結果をまとめて発表・討論するなどの参加型授業である。

授業の目的・到達目標

住生活をめぐる問題を様々な側面から理解し、人間らしい住まいを実現させるための課題を考えることができる。具体的には、①住宅問題や住宅政策について具体的に説明できる。②住生活問題のテーマを調べ考察し、その内容を発表し討論できる。③人間らしい住まいについての提案ができる視点を持つ。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	授業の概要や進め方の説明／調査・プレゼン方法	講義資料
2	住宅問題とは何か	古典的住宅問題と現代の住宅問題	〃
3	住まいづくりのプロセス	家づくりの計画から完成・入居に至るまでの基礎知識	〃
4	住まいの消費者問題	住宅の商品化に伴う問題／欠陥住宅	〃
5	住まいの健康問題	住宅による健康被害の問題／シックハウス	〃
6	住まいと環境問題	住まいと環境問題の関わり／環境共生住宅等	〃
7	住まいと家族問題	住まいと家族関係／介護・子育てと住まい	〃
8	住まいの経済問題	住居費・住宅ローンの基礎知識とその問題	〃
9	震災と住まい	災害(震災)による住宅問題と対策の課題	〃
10	集住とコミュニティ	集合住宅の住み方と課題／ｺﾚｸﾃｨﾌﾞ等	〃
11	日本の住宅事情	統計調査データなどから住宅事情を知る	〃
12	日本の住宅問題	日本の住宅問題の実態と特徴	〃
13	日本の住宅政策	戦後～現代の住宅政策と居住の権利	〃
14	住教育の現状と課題	市民の主体性を育む住教育とは	〃
15	これからの住まいを考える	全体の理解度の確認／提案プレゼンテーション	〃
	(試験)	期末試験の実施	

履修上の注意・関連科目等

本授業は「インテリア設計士」の関連科目です。住生活・住空間・住環境の現代的問題を演習方式で考えます。また、授業内の課題で関連する資料収集や調査をしますので、住居学関連文献のほか、ニュースや新聞記事等に注目し、日常的に関心を高めておきましょう。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り　講義内容の理解度を把握するレポート、調査・プレゼン課題 □無し	40　%
試　験	期末テストを実施する。	40
その他（出席状況等）	受講姿勢（出席状況も含む）も評価の対象とする。	20　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
配布資料で行います。
〔参考書・その他〕
「図解住居学 4　住まいと生活」（図解住居学編集委員会編、彰国社、2005 年）2,940 円　など

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	N1－36	授業科目名	栄養と健康	担当教員名	野口　聡子

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と食	選択科目	1	後期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

食事は，健康に毎日を過ごすうえで，大切な要因である．本講義では，食品に含まれる栄養素の機能や，消化・吸収について学び，さらに各ライフステージの栄養学的特徴を講義する．

授業の目的・到達目標

身体の構造と機能，食品に含まれる各栄養素がどのように体内で処理され，どのような働きがあるかを理解し，健康の維持・増進，疾病を予防するにはどのような食べ物をどのように摂取することが望ましいかを学ぶ．

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	授業について	
2	食品に含まれる栄養素	たんぱく質	テキスト，プリント
3	食品に含まれる栄養素	脂質	テキスト，プリント
4	食品に含まれる栄養素	炭水化物	テキスト，プリント
5	食品に含まれる栄養素	ビタミン，無機質	テキスト，プリント
6	食品に含まれる栄養素	水分，機能性成分	テキスト，プリント
7	食事と栄養	栄養素の消化吸収	テキスト，プリント
8	ライフステージと栄養	胎児期・妊娠授乳期の栄養	テキスト，プリント
9	ライフステージと栄養	成長期の栄養	テキスト，プリント
10	ライフステージと栄養	成人期，高齢期の栄養	テキスト，プリント
11	健康と栄養	ダイエットについて	テキスト，プリント
12	健康と栄養	スポーツと栄養について	テキスト，プリント
13	健康と栄養	生活習慣病について①	テキスト，プリント
14	健康と栄養	生活習慣病について②	テキスト，プリント
15	まとめ		
	(試験)		

履修上の注意・関連科目等

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り □無し	20　%
試　　験		60　%
その他（出席状況等）	出席、授業態度	20　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

香川靖雄著　『やさしい栄養学　第 2 版』女子栄養大学出版部

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　　階　　内線	

作成年度：2012

授業科目コード	N1－37	授業科目名	食生活論	担当教員名	眞木優子

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と食	生マ必修科目 生活福祉選択科目	2	後期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

人間の食生活に関する生態、文化、歴史、食品・栄養の知識、消費経済、食品の安全性などを総合的にとらえ、「食生活の課題」について解説し、「食」への正しい認識を育成する。

授業の目的・到達目標

健康を維持・増進し、QOL の向上のために必要な「食生活」に関する基礎的な知識と、正しい食習慣についての自覚を身に付ける。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	食生活論の概要	講義の概要・食生活の意義について	テキスト pp9～11
2	食生活と栄養士①	日本の栄養行政①	テキスト pp12～32
3	食生活と栄養士②	日本の栄養行政②	テキスト pp12～32
4	日本の食生活史①	現代までの食生活史①	テキスト pp33～44
5	日本の食生活史②	現代までの食生活史②	テキスト pp33～44
6	日本の食様式	日本の食文化と食習慣	テキスト pp45～63
7	栄養面と食生活①	日本人の栄養状態、幼児期～学童期	テキスト pp64～75
8	栄養面と食生活②	青年期の貧血・摂食障害	テキスト pp76～79
9	栄養面と食生活③	壮年期の生活習慣病①	テキスト pp80～88
10	栄養面と食生活④	壮年期の生活習慣病②	テキスト pp80～88
11	栄養面と食生活⑤	老年期の低栄養・骨粗鬆症	テキスト pp89～92
12	安全面と食生活①	食品の安全性	テキスト pp117～120
13	安全面と食生活②	食品汚染物質と健康被害	テキスト pp121～136
14	安全面と食生活③	食品添加物、新しい食品と安全性	テキスト pp137～143
15	健康のための食生活	栄養・食糧・食品公害問題	テキスト pp146～149
	（試験）	実施する	

履修上の注意・関連科目等

授業中の禁止事項
　携帯電話の使用、飲食、メイク、私語、無断退出
必要に応じて資料を配布する。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	□有り ☑無し	%
試　　験		80　%
その他（出席状況等）		20　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕健康と食生活[改訂版]　吉田　勉　編著　学文社
〔参考書・その他〕
健康・栄養情報研究会「国民栄養の現状」、厚生労働省「日本人の食事摂取基準」共に第一出版ほか

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　　階　　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	N1－38	授業科目名	スローフード論	担当教員名	藤田 武弘

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と食	選択科目	3	前期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

国際化の進展により，わが国の食料流通システムは大きく変化し，世界各国・地域から安価で大量の農産物・食品が輸入されている。一方で，食の安全性確保や食の「外部化（中食・外食への依存)」によって喪われた「食（消費)」と「農（生産)」との関係性を見直そうとする動きも拡がっている。本講義では，経済効率のみを追求する従来型システムの対局に位置する「地産地消」や「スローフード」などの動きに焦点を当て，その生産と流通の特徴，ならびに現代的意義を講述する。

授業の目的・到達目標

生活に最も身近な「食」に関わる様々な問題の発見を通じて，現代社会や経済の動向を理解する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	講義ガイダンス	現代日本の食と農に関わる問題点を概説	配付プリント
2	食料供給システム	国際化の進展と食料自給率の行方を講義	同上
3	食の環境変化①	安全・安心の確保をめぐる諸問題を講義	同上
4	食の環境変化②	外部化（中食・外食依存）に伴う諸問題を講義	同上
5	食と農との関係①	食とその基盤をなす農業との関係を講義	同上
6	食と農との関係②	都市農村交流の新たな動向について講義	同上
7	日本の地産地消	日本における定義・特徴・意義について講義	同上
8	世界の地産地消	世界各地での食のローカリズムの特徴を講義	同上
9	農産物直売所の実態	農産物直売所の開設経緯と展開状況を講義	同上（DVD 資料）
10	農産物直売所の役割	農産物直売所の意義と波及効果を講義	同上
11	体験教育旅行の意義	農家民泊における食体験の役割について講義	同上
12	学校給食の意味	食育基本法と学校給食の現状・課題を講義	同上
13	地域特産とブランド	地域特産加工品の原料調達の特徴を講義	同上
14	スーパーの仕入行動	スーパーの食品仕入構造とその特徴を講義	同上
15	スーパーの販売戦略	スーパーの食品戦略の特徴を講義	同上
	(試験)	実施する	

履修上の注意・関連科目等

履修希望者は，第 1 回目の講義ガイダンスに必ず出席すること。毎回，配付されたプリント・資料等（すでに配布されたものも含む）を持参すること。また，講義中の私語・居眠りおよび途中入退室は出席とは認めないので，厳に慎むこと。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し	%
レポート	■有り　毎回の講義終了時に「ミニレポート」を提出すること □無し	30 %
試　験	実施する。内容・形式については講義中に説明する。	50 %
その他（出席状況等）	時間中の発言・質問など講義への「参加度（積極性)」を評価する	20 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕　とくに定めない。

〔参考書・その他〕

橋本卓爾・山田良治・藤田武弘・大西敏夫編著『都市と農村』日本経済評論社，2011 年。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	N1－39	授業科目名	国際食文化	担当教員名	中井久美子

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学部・学科・専攻
専門発展科目 生活と食	選択科目	3	後期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

世界の多様な食文化の歴史や伝播、現状をたくさんの綺麗な写真や映像を見せながら紹介します。

授業の目的・到達目標　世界の様々な文化に対し寛容性をもち学び、幅広い知識教養を身につけ、国際的視野を持つよう意識付けします。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	食文化とは	自民族中心主義と文化相対主義	資料配布
2	食文化	マナーとタブー	資料配布
3	管理栄養士と食文化	管理栄養士の担う役割	資料配布
4	世界の食文化	食の伝播と変容	DVD　資料配布
5	世界の食文化史	人と食べ物のかかわり	DVD　資料配布
6	世界の料理とお菓子の歴史と今	西洋料理	PPT　資料配布
7	〃	中国料理	PPT　資料配布
8	〃	インド料理、トルコ料理	PPT　資料配布
9	〃	アメリカの食	PPT　資料配布
10	〃	エスニック料理	PPT　資料配布
11	洋菓子の歴史	洋菓子の歴史、ネーミング、製法など	PPT　資料配布
12	日本の食文化	日本の食文化史、日本料理	資料配布
13	〃	ハレとケの食、行事食、伝統料理、郷土料理	PPT　資料配布
14	〃	現代の食環境と問題点	資料配布
15	和菓子の歴史	和菓子のいわれ、菓銘	PPT　資料配布

履修上の注意・関連科目等

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り　毎回、講義中の興味あるテーマについてレポートを作成し、翌週提出してもらいます。 □無し	50　%
試　　験		%
その他（出席状況等）	成績は出席、毎回の課題提出、授業態度等で総合判断します。	50　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	N1－40	授業科目名	クッキング	担当教員名	髙谷 小夜子

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と食	選択科目	2	前期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

食物は、健康な生活を営む上で不可欠なものです。安全で、栄養的に満たされ、食べる人の嗜好にあい、しかも経済的な料理を提供できるように、身近な食品での実習を行う。
グループでの実習を通して、協調性を養うように指導する

授業の目的・到達目標

基礎的な調理技術を学ぶ。食品を衛生的に取り扱う方法を学ぶ。食事のマナー、片づけなど基本的な生活習慣を身につけるように学ぶ。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	授業の進め方	班分け、実習説明、実習心得	プリント
2	簡単なお菓子作り	ホットケーキミックスを使用して	プリント
3	和食の基本 1	ご飯の炊き方、煮干しだしのとり方	教科書・プリント
4	和食の基本 2	塩味のご飯、混合一番だしのとり方、煮物	
5	和食の基本 3	焼き魚、白和え	
6	和食の基本 4	天ぷら（下ごしらえ、揚げ方）	
7	和食の基本 5	かやくご飯、魚のさばき方、白玉粉の調理	
8	洋食の基本 1	ストックのとり方、ハンバーグ	
9	中国料理 1	湯のとり方、青椒肉絲、杏仁豆腐	
10	中国料理 2	焼売、春巻き、蒸しカステラ	
11	洋食の基本 2	グラタン、ゼリー	
12	洋食の基本 3	パスタ、ロールケーキ	
13	洋食の基本 4	ピラフ、クッキー	
14	和食の基本 6	寿司飯の作り方、希釈卵料理	
15	実習室の衛生管理	サンドイッチ、スープ、器具の点検と清掃	
	(試験)	実施	

履修上の注意・関連科目等

所定の実習の服装で臨むこと（守らない時は受講できない）
遅刻厳禁
2 講時の連続した授業（途中休憩なし）

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	☑有り　実習ノートの作成 □無し	30 %
試　験	内容、形式は授業内に説明	30 %
その他（出席状況等）	出席を重視する。実習中の態度、服装も評価の対象とする。	40 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
「調理学実習」　大谷貴美子・饗庭照美編　講談社サイエンティフィク　2940 円
〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	N1－41	授業科目名	応用クッキング	担当教員名	髙谷 小夜子

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と食	選択科目	2	後期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

生活習慣病予防の観点からも見直されている日本型食生活の基盤となる和食を中心とした実習を行う。身近な食材について、より理解が深まるように説明する。学生自身が調べてきたことを人前で分かり易く説明できるように指導する。

授業の目的・到達目標

季節の食材を使用しての献立や行事食について理解する。食卓の演出や食器の選び方、食事のマナーを学ぶ。食材や食生活についてのレポートを作成し、発表する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	授業の進め方	実習班の決定、実習内容、レポート作成につて	プリント
2	小麦粉の調理	イーストの発酵・ゼラチンのゼリー	教科書・プリント
3	敬老の日の献立	赤飯、ホイル蒸し、いも羊羹	
4	肉の調理	ポークピカタ、クリームスープ	
5	中国料理	乾焼蝦仁、麻婆豆腐	
6	秋の献立	芋ご飯、きのこ料理	
7	中国風おこわ	炊き込みおこわ、中華まん、	
8	香辛料を使って	ターメリックライス、ドライカレー	
9	寿司二種	巻きずし、いなりずし	
10	簡単なコース料理	オードブル、スープ、肉料理、デザート	
11	正月料理 1	祝い肴三種、関西風雑煮	
12	正月料理 2	栗きんとん、昆布巻き、松風焼き、雑煮	
13	ひな祭りの献立	寿司、うしお汁、桜餅	
14	簡単なおやつ作り	ホットケーキミックスを使って	
15	献立の発表と清掃	作成献立の発表、実習室の衛生管理	
	(試験)	実施しない	

履修上の注意・関連科目等

授業開始時刻の厳守、実習にふさわしい服装と清潔なエプロン、三角巾の着用
レポート等提出物の期日の厳守

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	☑有り □無し	40 %
試　　験		%
その他（出席状況等）	出席を重視、実習中の態度、服装	60 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕「調理学実習」　大谷貴美子・饗庭照美編　　講談社菜園ティフィック　　2940 円
〔参考書・その他〕「プロ仕込み　包丁テクニック図解」　（株）大泉書店　　1575 円

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	N1－42	授業科目名	ケーキ&ブレッド	担当教員名	比嘉 悠司

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と食	選択科目	3	前期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

お菓子作りの楽しさ

授業の目的・到達目標

お菓子作りを通して、素材の特性を知る

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料
1	授業の進め方・シュークリーム	講義の進め方などを説明・シュークリームの実習	
2	ショートケーキ/クレーム・ブリュレ	ショートケーキ/クレーム・ブリュレの実習	
3	スフレのチーズケーキ/バタークッキー	スフレチーズケーキ/バタークッキーの実習	
4	シャルロット・フレーズ	シャルロット・フレーズの実習/タルト生地仕込み（翌週分）	
5	タルト・ショコラ	タルト・ショコラ実習/パイ生地仕込み（翌週分）	
6	アップルパイ/苺のミルフィーユ	アップルパイ/苺のミルフィーユの実習	
7	クレープのデザート/絞りクッキー	クレープのデザート/絞りクッキーの実習	
8	杏仁豆腐/クグロフ	杏仁豆腐/クグロフの実習	
9	桃のババロア	桃のババロアの実習/チーズサブレの仕込み（翌週分）	
10	カッテージチーズケーキ/グレープフルーツゼリー&マンゴムース	カッテージチーズケーキ/グレープフルーツ&マンゴムースの実習	
11	トリュフチョコレート/マドレーヌ	トリュフチョコレート/マドレーヌの実習/ビッシュドノエルの仕込み（翌週分）	
12	ビッシュドノエル	ビッシュドノエルの実習	
13	ピエス・モンテ	食材を使い、オブジェ作りのデモンストレーション	
14	実習の見直し	実習の反省とアドバイス	
15	実習内容のまとめ	授業総括	

履修上の注意・関連科目等

積極的に授業に参加しない者の受講は認めない。私語および途中入室、途中退出は厳に慎むこと（出席とは認めない）。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り □無し	30 %
その他（出席状況等）	出席を重視する。	70 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	N1－43	授業科目名	テーブルコーディネート演習	担当教員名	横井　智恵子

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と食*	選択科目	2	後期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

テーブルコーディネートの演習を通して日本や諸外国の食文化について学習します。
食卓を囲む者が身につけておくべき基本的知識や国際的社会人として通用するマナーを学習します。
「良き家庭」創造のために居心地の良い空間演出の基礎を学びます。

授業の目的・到達目標

家庭の食卓の楽しさから基本的食教育のあり方を学び、演習によりカラーコディネートや構成などを学習し覚えることで、感性豊かな応用力のある総合的な知識を習得することを目的とします。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	概　論	授業内容の説明・プランニングの立て方	プロジェクター
2	モーニングテーブル	洋のセッティングの基本とテーブル花の基本	写真　本
3	朝の食卓	和のセッティングの基本とテーブル花の基本	写真　本
4	端午の節句	テーブルウエアの知識	カラースケール
5	七夕の節句	リネン・カトラリー・グラスの知識	写真　本　プリント
6	トロピカルサマー	キャンドル・キャンドルスタンドの知識	写真　本　プリント
7	ハロウィーン	演出方法①	写真　本　プリント
8	重陽の節句	フィギュアーの知識	写真　本　プリント
9	クリスマス	洋のテーブルマナーの常識	写真　本　プリント
10	人日の節句	和のテーブルマナーの常識	写真　本　プリント
11	聖バレンタイン	演出方法②	写真　本　プリント
12	色の知識	食空間での色彩心理	写真　本　プリント
13	上巳の節句	演出方法③	写真　本　プリント
14	イースター	演出方法④	写真　本　プリント
15	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括　（筆記）	
	(試験)	全体の理解度の確認と授業総括（ﾊﾟｰﾃｨｰ演出）	

履修上の注意・関連科目等

・欠席や遅刻をしない・携帯電話の使用禁止・ワークブックに講義中のメモを取り演出の写真を貼る
・学生としてのマナー違反は退出してもらいます

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑□無し	%
レポート	□有り ☑□無し	%
試　　験	15 回目に筆記試験実施 16 回目に実技試験（パーティー形式の演出）実施	40 40 %
その他（出席状況等）	ワークブックの仕上げ	20 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕山口泰子のテーブルライフ（N02￥1,700-）
ワークブック／ナプキンワーク（JFFT 協会出版¥1,500-）
〔参考書・その他〕
テーブルコーディネーターテキストブック　テーブルマナーのエッセンス　フードコーディネート論　他

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	N1－44	授業科目名	ホテル・レストラン学	担当教員名	片山 昌子

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と食	選択科目	3	後期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

1. 宿の時代から現代までの日本と西洋の宿泊産業の発展史と歩みを説明したうえで、日本資本、外国資本の企業がグローバル規模で変動している宿泊業の現状と最新動向を紹介し、それに対応できる実務の基礎知識を講義する。
2. 訪日外国人(インバウンド)の誘致、国内観光誘致政策により活性化と拡大化が見込まれている宿泊産業の業界研究を視野に入れて講義する。

授業の目的・到達目標

1. 宿泊産業の発展史をふまえたうえで宿泊業、ホテル業の業界研究を視野に入れて動向を考察する。
2. 宿泊業、ホテル業の現場で対応できる基礎知識を学ぶ。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料
1	宿泊業の基礎知識（1）	宿泊業とは、ホテルとは	DVD, PowerPoint
2	宿泊業の基礎知識（2）	ホテルの経営形態と業態分類	PowerP、配布資料
3	宿泊業の基礎知識（3）	発展史と歩み ①	PowerP、配布資料
4	宿泊業の基礎知識（4）	発展史と歩み ②	PowerP、配布資料
5	ホテルのオペレーション（1）	宿泊部門	PowerP, DVD,資料
6	ホテルのオペレーション（2）	料飲部門	PowerP, DVD,資料
7	ホテルのオペレーション（3）	宴会部門	PowerP, DVD,資料
8	ホテルのオペレーション（4）	ウエディング部門	PowerP, DVD,資料
9	ホテルのオペレーション（5）	セールス&マーケティング部門、管理部門	PowerP、配布資料
10	ホテル・マネジメントの基本(1)	日系ホテルと外資系ホテルの違い	PowerP、配布資料
11	ホテル・マネジメントの基本(2)	レベニューマネジメント	PowerP、配布資料
12	ホテル・マネジメントの基本(3)	リスクマネジメント､ｸﾚｰﾑ､ｺﾝﾌﾟﾚｲﾝ対応	PowerP、配布資料
13	宿泊産業・ホテル業界の動向	業界研究、求められる人材	PowerP、配布資料
14	プロトコール&外国人客接遇	プロトコール(国際儀礼)の基本知識	PowerP, DVD,資料
15	まとめ		PowerP、配布資料

履修上の注意・関連科目等

社会人となった際に不可欠な基本的マナーを具備する観点から、次の受講ルールを順守して積極的な受講態度で学んでください。①携帯電話電源オフ　②水・お茶以外の飲食禁止　③私語の多い学生は退室させる場合もある　④授業開始 10 分以降の遅刻は正当な理由がある場合を除いて認めない

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	■有り　授業の終了時に毎回ミニテスト実施（ノート持ち込み許可） □無し	30 %
レポート	■有り　最終回に実施（課題は事前に通知する。未提出者は失格） □無し	30 %
試　験		%
その他（出席状況等）	授業への積極的な参加態度を重視する	40 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕　毎回授業時に資料を配布する

〔参考書・その他〕　「新ホテル総論」(プラザ出版・日本ホテル教育センター)、「ホテル概論」(JHRS)等を推薦図書とする。　※授業時に資料配布する

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	N1－45	授業科目名	フードビジネス論	担当教員名	西　宗光

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と食	選択科目	3	後期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

近年、さまざまなフード産業において消費者に品質の不安が広がっているが、食を扱う側にとって、品質安全性とサービスの安心を提供しなければならない。
世界の食スタイルを学び、“もてなす”言葉のもと、消費者の心に響く、安心・美食・満足感とホスピタティを理解し、フードとサービス及び食を扱う基礎知識を楽しく講義する。

授業の目的・到達目標

食の最前線に関する知識と世界の食文化を総合的に学び、ホスピタリティの視点で
フードサービス産業に求められる基本知識と感性を養う。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	学科・専攻・コース別履修ガイダンス	
2	フードビジネス概説	食物～消費、食と食中毒事故、接客の基本、	プリントマテリアル／PM
3	フードビジネスの基礎	サービス・挨拶・接客会話・ホスピタリティ	〃　〃
4	食品・食材の知識	概説・食材の特徴・食材の名詞／英語・仏語	テキスト、PM
5	西洋料理	フランス料理・歴史・食材・メニュー	〃　〃
6	西洋料理	イタリア料理・地方・食材・各国料理	〃　〃
7	テーブルマナーとサービス	マナーと食卓、プロトコール	〃　〃
8	中国料理	主な食材と乾貨、菜譜の読み方	〃　〃
9	日本料理	歴と旬、献立、和食の魅力と形態分類	〃　〃
10	ビバレッジサービス	飲料分類、酒類分類、ワイン分類、酒の嗜好	〃　〃
11	ワイン・カフェビジネス	ワインの知識、ワインサービス、カフェ	〃　〃
12	調理器具・設備	調理の基本、厨房システム分類	〃　〃
13	フードマネジメント	経営の基本、業態開発、空間の演出	〃　〃
14	食の企画	ゲストの視点でとらえるフードビジネス	〃　〃
15	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	〃　〃
	(試験)	学期末試験日	

履修上の注意・関連科目等

ホスピタリティの基本になる笑顔・アイコンタクト・立ち姿・美しく挨拶（礼）を実践し身につける。
毎回、テキストに沿ったのオリジナル・プリントマテリアル配布。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	■有り □無し	10　%
レポート	■有り □無し	10　%
試　　験	実施、内容、形式については、授業の中で説明する。	60　%
その他（出席状況等）	出席と授業参加度（実技・発表）を重視する。	20　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕①フードコーディネーター教本　　柴田書店　　価格 3150 円

〔参考書・その他〕オリジナル・プリントマテリアル

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　　階　　内線	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	N1－46	授業科目名	発達心理学	担当教員名	向出　佳司

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と心理	生マ必修科目 生活福祉選択科目	1	前期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

人間の発達についてさまざまな現象を収集、整理し、その法則や原理をどの年齢段階の発達にも適応できるように研究する学問であるため心理学的側面から考察していく。

授業の目的・到達目標

子どもの教育や援助には子どもの発達段階に応じて何が主要な課題であるのかを把握することが重要となるため乳児から青年までのそれぞれの発達課題とそれに応じた子どもの援助のあり方を学んでいくことに重点をおき講義を進めたい。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	発達とは	発達の傾向と発達段階	プリント
2	乳児期の発達段階	胎生期・胎児期・乳児期の心身の発達	プリント
3	乳児期の発達課題	乳児期の愛着関係と母子関係	プリント
4	幼児期の発達段階	幼児期前期・後期の心身の発達と遊び	プリント
5	幼児期の発達課題	幼児期前期・後期の自主性と自己コントロール	プリント
6	児童期の発達段階	児童期前期・後期心身の発達と仲間関係	プリント
7	児童期の発達課題	児童期前期・後期の恥とコンピテンス	プリント
8	思春期の心身の発達と発達課題	思春期の葛藤と自己受容	プリント
9	青年期の心身の発達と発達課題	自己アイデンティとアイデンティ拡散	プリント
10	知的機能の発達	記憶の発達、思考の発達と教育	プリント
11	社会性の発達	親子関係とコミュニケーションの発達、ソシオメトリー	プリント
12	感情の発達	感情発達の理論と発達的変化	プリント
13	道徳行動の発達	道徳行動の認知的発達段階	プリント
14	パーソナリティの発達	パーソナリティの発達の形成とメカニズム	プリント
15	まとめ		
	(試験)		

履修上の注意・関連科目等

私語や途中入室、退室は厳に慎むこと。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	□有り ☑無し	%
試　　験		50　%
その他（出席状況等）	出席と授業参加度を重視する	50　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　　階　　内線	

作成年度：2009

授業科目コード	N1－47	授業科目名	児童心理学	担当教員名	中川千夏

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と心理	選択科目	1	後期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

人間はその生涯を通して成長・変化してゆく存在であるという視点でとらえた上で、子ども時代における発達課題を概観する。

授業の目的・到達目標

各受講生の自らの子ども時代を振り返りながら、発達課題に関する新しい知識を得ることによってあらためて子ども時代の意義を考察する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	現代の子ども	「子ども」のイメージについて	プリント
2	子どもの心身の発達①	胎児期の特徴と課題	プリント
3	子どもの心身の発達②	乳児期の特徴と課題	プリント
4	子どもの心身の発達③	幼児期前期の特徴と課題	プリント
5	子どもの心身の発達④	幼児期後期の特徴と課題	プリント
6	子どもの心身の発達⑤	児童期前期の特徴と課題	プリント
7	子どもの心身の発達⑥	児童期後期の特徴と課題	プリント
8	子どもの心身の発達⑦	思春期の特徴と課題	プリント
9	子どもと遊び	遊びの意義について	プリント
10	子どもと学校①	いじめ、学級崩壊について	プリント
11	子どもと学校②	不登校、非行について	プリント
12	子どもと家庭①	家族の多様化について	プリント
13	子どもと家庭②	虐待について	プリント
14	子どもの心理臨床の実際	プレイセラピーについて	プリント
15	まとめ		
	(試験)		

履修上の注意・関連科目等

内容に応じてグループディスカッションを行うので積極的に参加して下さい。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	□有り ■無し	%
試　　験		40　%
その他（出席状況等）	毎回授業時に感想を提出していただきます。	60　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

特に定めません。毎回プリントを配布します。

〔参考書・その他〕

適宜、授業中に紹介します。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　　階　　内線	

作成年度：2012

授業科目コード	N1－48	授業科目名	青年心理学	担当教員名	向出　佳司

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と心理	選択科目	1	後期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

青年期の一番重要な課題は第 2 次性徴と自己アイデンティの確立である。身体の成熟に伴い、身体への意識の高まりやさまざまな人間関係から自分自身への認識への深化といった、青年期の課題に焦点をあてて講義する

授業の目的・到達目標

青年期は、子どもから成人への移行期でもあるため、心身とも大きく変化する時期である。心理的に情緒が不安定になりやすい。ところが、この時期の重要なことはこの時期をどのように過ごすかは、その後の人生に大きな影響を及ぼす。受講生は青年期を生きる人達であるため自己理解を深めながら自分らしさや自己のあり方を模索できるようにグループカウンセリングも取り入れて講義していきたい

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	ガイダンス	授業の内容や進め方など説明	プリント他
2	青年期とは	第 2 次性徴に伴う心身の変化	プリント他
3	青年期の特異性	現在青年の心身をめぐる諸問題	プリント他
4	青年期の発達課題	アイデンティティをめぐる問題	プリント他
5	性的成熟（1）	異性関係	プリント他
6	性的成熟（2）	男らしさ、女らしさ	プリント他
7	青年期の自己（1）	自分とはなにか	プリント他
8	青年期の自己（2）	どんな自分になりたいか	プリント他
9	友人関係（1）	友人関係の意義	プリント他
10	友人関係（2）	友人関係における諸問題「	プリント他
11	自律性と愛着	親子関係と諸問題	プリント他
12	青年期の諸問題（1）	事例を中心に	プリント他
13	青年期の諸問題（2）	事例を中心に	プリント他
14	青年期後期以降の問題	青年期後期の心理的諸問題を中心に	プリント他
15	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

・　内容に応じて、簡単な実習を取り入れるので、積極的に参加してください
・　出席しても聞いていないなど受講態度が悪い場合は厳しく対応する

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	□有り ☑無し	%
試　　験		65　%
その他（出席状況等）	毎回の出席状況より判断する	35　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕なし
〔参考書・その他〕紹介する

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス

作成年度：2010

授業科目コード	N1－50	授業科目名	高齢者の心理	担当教員名	福嶋 正人

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と心理	選択科目	3	後期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

わが国では急速に高齢化が進んでおろ、高齢者に対する社会的サポートの整備が急務である。しかし制度の充実だけでなく、高齢者の特徴や心理について理解することが高齢社会を迎えるにあたり、大切である。本講義では高齢者が抱えがちな問題を通して高齢者の心理についての理解を進める。

授業の目的・到達目標

高齢者の特徴や心理、社会的な課題について理解する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	講義の概要、進行方法等について説明する。	適宜配布
2	少子化、高齢化とは	少子高齢社会について理解する。	適宜配布
3	高齢化の背景	高齢化の社会的背景について理解する。	適宜配布
4	高齢者とは①	高齢者とはなにかを理解する。	適宜配布
5	高齢者とは②	高齢者とはなにかを理解する。	適宜配布
6	高齢期の特徴①	高齢期の特徴について理解を深める。	適宜配布
7	高齢期の特徴②	高齢期の特徴について理解を深める。	適宜配布
8	高齢者と疾病	高齢者に多い疾病について理解する。	適宜配布
9	認知症	認知症について理解する。	適宜配布
10	高齢者の経済	高齢期の経済について理解する。	適宜配布
11	老化と心理的変化①	高齢者の心理的変化について理解する。	適宜配布
12	老化と心理的変化②	高齢者の心理的変化について理解する。	適宜配布
13	高齢者と家族	高齢者と家族の関係について理解する。。	適宜配布
14	長寿化	長寿化に伴う高齢者の心理について理解する。	適宜配布
15	まとめ	講義の振り返り	
	(試験)	客観問題による試験を実施する。	

履修上の注意・関連科目等

授業中の私語、携帯電話の使用に対しては厳しく対応する。オリエンテーションの際に受講のルールを説明する。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し　行わない。	%
レポート	□有り □無し　行わない。	%
試　験		85 %
その他（出席状況等）		15 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕特に指定しない。

〔参考書・その他〕適宜アナウンスを行う。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	N1－51	授業科目名	障害者の心理	担当教員名	福嶋 正人

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と心理	選択科目	3	後期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

現代においては障害がある人の社会参加や、差別・偏見を排除することが社会的な課題である。また高齢化や医学の進歩に伴い、障害者は増えつつあり、概念自体も変化してきている。

本講義では障害者が抱えがちな問題や制度等、広範な課題を通して障害者の心理についての理解を進める。

授業の目的・到達目標

障害者の特徴や心理、社会的な課題について理解する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	講義の概要、進行方法等について説明する。	適宜配布
2	障害とは	障害について理解する。	適宜配布
3	障害とは②	障害について理解する。	適宜配布
4	歴史について	障害に関する歴史を理解する。	適宜配布
5	障害者の個別性①	障害者の個別性について理解する。	適宜配布
6	障害者の個別性②	障害者の個別性について理解する。。	適宜配布
7	社会的排除①	障害期に対する社会的排除を理解する。	適宜配布
8	社会的排除②	障害期に対する社会的排除を理解する。	適宜配布
9	ﾗｲﾌｽﾃｰｼﾞからみた心理	ﾗｲﾌｽﾃｰｼﾞからみた心理を理解する。	適宜配布
10	ﾗｲﾌｽﾃｰｼﾞからみた心理②	ﾗｲﾌｽﾃｰｼﾞからみた心理を理解する。	適宜配布
11	障害者と心理①	心理的特特性について理解する。	適宜配布
12	障害者と心理②	心理的特特性について理解する。	適宜配布
13	障害者の社会参加①	障害者の社会参加について理解する。	適宜配布
14	障害者の社会参加②	障害者の社会参加について理解する。	適宜配布
15	まとめ	講義の振り返り	
	(試験)	論述問題による試験を実施する。	

履修上の注意・関連科目等

授業中の私語、携帯電話の使用に対しては厳しく対応する。オリエンテーションの際に受講のルールを説明する。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し　行わない。	%
レポート	□有り □無し　行わない。	%
試　験		85 %
その他（出席状況等）		15 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕特に指定しない。

〔参考書・その他〕適宜アナウンスを行う。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	N1－52	授業科目名	臨床心理学	担当教員名	谷村　昌美

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門教育科目 生活と心理	生活マ必修科目 生活福祉選択科目	1	後期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

臨床心理学とは何か，また臨床心理学で扱う心理的な問題や心理検査，治療技法について学ぶ。

授業の目的・到達目標

臨床心理学についての基本的な知識を学ぶと共に，人間理解を深めることを目的とする。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	授業の概要，目的，進め方について	プリントを配布
2	臨床心理学とは	臨床心理学のあゆみと理論的背景	〃
3	臨床心理学査定	臨床心理学査定の意味，基本的視点	〃
4	心理検査 1	心理検査の体験	〃
5	心理検査 2	発達検査，知能検査，人格検査	〃
6	心理検査 3	質問紙法，作業検査法，投影法	〃
7	実習と小テスト	心理検査を用いた実習と小テストの実施	〃
8	臨床心理学的治療 1	臨床心理学的治療の意味，有効性	〃
9	臨床心理学的治療 2	臨床心理学的治療技法	〃
10	精神障害と心理臨床 1	神経症と心理学的関わり	〃
11	精神障害と心理臨床 2	統合失調症の諸症状	〃
12	精神障害と心理臨床 3	統合失調症とその心理的援助	〃
13	精神障害と心理臨床 4	Social Skills Traing の実践	〃
14	発達障害 1	発達障害の諸症状	〃
15	発達障害 2	広汎性発達障害とその援助	〃
	(試験)		

履修上の注意・関連科目等

講義を基本とするが，心理テスト等の実習も取り入れながら授業を行う。
授業の進度により，内容を一部変更することがある。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	■有り　第 7 回の授業時に実施する。 □無し　内容および形式については授業内で説明する。	30　%
レポート	□有り ■無し	%
試　験	筆記試験を実施する。持ち込みは認めない。 内容および形式については授業内で説明する。	40　%
その他（出席状況等）	出席状況を評価する	30　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
特に使用しない。適宜プリントを配布する。
〔参考書・その他〕
授業内で適宜紹介する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	N1－53	授業科目名	教育心理学	担当教員名	向出　佳司

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と心理	選択科目	2	前期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

教育に関する多くの課題に対して、いかにして教育効果を高めるかである、そのためにはどのような心理学的知見や技術を用いるかである。教育効果を高める講義を展開していく。

授業の目的・到達目標

子どもの教育において、効果的な学習とはどのようなものなのか、また、どのように子どもと関わり、働きかけをしていくのかを考慮するのには子どもの発達や課題を把握することが重要となる。そのため子どもの発達に応じた子どもの援助のあり方を学んでいくことに重点をおき講義を進めたい。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	動機づけ理論	内発的動機と外発的動機について	プリント
2	均衡化理論	均衡と不均衡についての理論の説明	プリント
3	学習における賞罰の効果	達成動機と賞罰の限界について	プリント
4	学習の過程と課題分析	学習の構造の説明と課題の達成	プリント
5	発達の最近接領域	課題解決のための発達の水準について	プリント
6	学習方式	さまざまな学習方法について	プリント
7	教授方法	実際の授業実践	プリント
8	集団規範	いい学級集団の特質	プリント
9	リーダーシップ訓練	集団の目標達成と維持機能について	プリント
10	ソシオメトリー	人間関係発見の方法	プリント
11	教育評価（1）	教育評価の目標と方法	プリント
12	教育評価（2）	学力とその評価	プリント
13	現代の教育問題（1）	いじめの問題と教育心理学	プリント
14	現代の教育問題（2）	不登校の問題と教育心理学	プリント
15	まとめ		
	(試験)		

履修上の注意・関連科目等

私語や途中入室、退室は厳に慎むこと。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し	10　%
レポート	□有り □無し	10　%
試　　験		50　%
その他(出席状況等)	出席と授業参加度を重視する	30　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス

作成年度：2011

授業科目コード	N1－53	授業科目名	社会心理学	担当教員名	全炳昊

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と心理	選択科目	2	後期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

「社会（集団)」の中で、「個」をいきることの意味

授業の目的・到達目標

人は個人として社会を生きるとともに、他者との社会的関係やその関係を規定する様々な規範・文化との関係で、実際の行動を起こしている。
本講義では、社会学と心理学の境界科学としての社会心理学を理解することに努める。
そのために、私たちが日常生活の中で普段、疑問に思うような身近な「素材」を研究の対象とする。
身近な物事に対する再考を通じて、社会の中に存在する「わたし」の意味を探る。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む)	使用資料（プリント等)
1	ガイダンス	講義の概要	
2	社会心理学の対象と方法 1	研究対象としての人間・人間社会	
3	社会心理学の対象と方法 2	研究方法としてのフィールドワーク	
4	パーソナリティ 1	「わたし」って何？	
5	パーソナリティ 2	「他人」という鏡	
6	パーソナリティ 3	人間の感情はどう表現されるのか？	
7	集団 1	なぜ、集団に所属したいのか？	
8	集団 2	他人を「信頼」することの意味	
9	文化 1	社会的ルールは、どう創られるのか	
10	文化 2	流行の構造	
11	社会変動 1	「若者」の社会史	
12	社会変動 2	「伝統的」なものに対する考え方	
13	犯罪・非行 1	人はなぜ、「犯罪」を犯すのか？	
14	犯罪・非行 2	子どもたちはなぜ、「むかつく」のか？	
15	犯罪・非行 3	「殺人犯」を赦すことはできるのか？	
	(試験)	（定期試験期間中に実施する）	

履修上の注意・関連科目等

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	□有り ☑無し	%
試　　験	定期試験期間中に実施。内容・形式などのついては、授業中に説明する。	60 %
その他（出席状況等）	出席、講義中の提出物	40 %

教科書・参考書及び辞典等

〔参考書・その他〕
講義中に提示する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	N1－55	授業科目名	性格分析	担当教員名	長田　道

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と心理	選択科目	2	後期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

人の性格というものはどのように形成されるのだろうか。本授業では、性格を理解するための理論について講義を行い、さらには実際に心理テストを体験する。それらを通じて、人の心を理解することを目的とする。

授業の目的・到達目標

性格という目に見えないものを理解するにあたって、心理テストがどのような役割を果たすのかについて考えていく。また、性格の形成に影響するものについても考えていく。最終的に、自分を含めた、人の心について考えることを目標とする。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	授業の目的・進め方	講義の大まかな内容、進め方について	
2	性格とは①	性格理論について	
3	性格とは②	性格の類型論について	
4	性格検査について	性格分析に使われる心理テストの基礎知識	
5	性格分析の実際	東大式エゴグラム（ＴＥＧ）を実施する	
6	性格分析の実際	ＴＥＧを基に性格傾向を分析する	
7	性格分析の実際	Ｐ－Ｆスタディを実施する	
8	性格分析の実際	Ｐ－Ｆスタディを基に性格傾向を分析する	
9	性格分析の実際	作業検査と性格分析について考える	
10	性格分析の実際	描画検査と性格分析について考える	
11	性格の発達	性格はどのように形成されるのか	
12	性格と環境①	性格はどのように周囲の影響を受けるのか①	
13	性格と環境②	性格はどのように周囲の影響を受けるのか②	
14	性格と病理	性格と病理との関係について考える	
15	まとめ	授業総括	
	(試験)		

履修上の注意・関連科目等

時間厳守。遅刻は受け付けないことがあるので注意すること。さらに、遅刻・欠席でテスト体験をされていないと、レポートも書けず大幅減点となるので留意すること。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	■有り　各授業の後に簡単な感想レポートを書いてもらう □無し	20　%
レポート	■有り　3本のレポートを求める　テーマは授業中に発表する □無し	60　%
試　験	なし	%
その他（出席状況等）	出席と授業態度を重視する	20　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

特になし。授業の中で必要なときに配布する。

〔参考書・その他〕

適宜授業の中で紹介する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	N1－56	授業科目名	カウンセリング論Ⅰ	担当教員名	池島　徳大

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と心理	選択科目	2	後期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

カウンセリングとはどのようなものなのか。その一部を体験し、人間理解の奥深さと他者とのリレーションの取り方の大切さを学ぶ。また、現在の大きな教育課題である不登校やいじめ、ＡＤＨＤへの対応事例を紹介し、カウンセリングの視点から援助過程について解説する。

授業の目的・到達目標

カウンセリングに必要な理論背景などに触れつつ、どのようなアプローチによってクライエントに接近可能なのかについて様々な角度から理解することを目指す。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	ガイダンス	オリエンテーション	
2	実習	ブラインドウォークなどのリレーション演習	
3	講義・実習	心理教育的援助サービス	
4	講義・実習	ストレッサーとストレス反応	
5	講義・実習	カウンセリングのプロセス	
6	実習	言語的スキルと非言語的スキル	
7	実習	傾聴スキル演習①	
8	実習	傾聴スキル演習②	
9	実習	ピア・ヘルピング演習①	
10	実習	ピア・ヘルピング演習②	
11	実習	ピア・ヘルピング演習③	
12	講義・実習	発達援助としてのカウンセリングの実際（不登校事例）	
13	講義・実習	発達援助としてのカウンセリングの実際（いじめの事例）	
14	講義・実習	発達援助としてのカウンセリングの実際（ＡＤＨＤ事例）	
15	まとめ	全体授業総括	
	(試験)		

履修上の注意・関連科目等

時間厳守。遅刻は受け付けないことがあるので注意すること。履修者の人数状況や進行状況により授業内容を適宜変更する場合もあるので留意されたい。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し	%
レポート	□有り □無し	60　%
試　　験		%
その他（出席状況等）	出席と授業態度	40　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕　特になし。必要なときに配布する。

〔参考書・その他〕

佐藤修策監修、池島徳大他著　学校カウンセリングの理論と実践　ナカニシや出版　2007

池島徳大監修・著　ピア・サポートによるトラブル・けんか解決法　ほんの森出版　2011

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス

作成年度：2013

授業科目コード	N1－57	授業科目名	カウンセリング論Ⅱ	担当教員名	池島　徳大

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と心理	選択科目	3	前期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

カウンセリングの基礎的理論・援助技法について、ロールプレイング等の体験を通して学ぶ。カウンセリングとはどのようなものなのか。その内容と実際について、その一部を体験することを目的とする。

授業の目的・到達目標

カウンセリングに必要な理論背景などに触れつつ、どのようなアプローチによってクライエントに接近可能なのかについて様々な角度から理解することを目指す。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	ガイダンス	オリエンテーション	
2	カウンセリングとは	カウンセリングの対象と内容	
3	カウンセリングとは	カウンセリングの基本技法	
4	カウンセリングとは	カウンセリングの構造枠	
5	精神分析療法に学ぶ①	精神分析療法とその枠組み	
6	精神分析療法に学ぶ②	精神分析療法とその枠組み	
7	行動療法に学ぶ①	行動療法とその枠組み	
8	行動療法に学ぶ②	行動療法とその枠組み	
9	来談者中心療法に学ぶ①	来談者中心療法とその枠組み	
10	来談者中心療法に学ぶ②	来談者中心療法とその枠組み	
11	解決志向アプローチに学ぶ①	解決志向アプローチとその枠組み	
12	解決志向アプローチに学ぶ②	解決志向アプローチとその枠組み	
13	カウンセリング演習①	ロールプレイを通して、カウンセリングの実際を体験する	
14	カウンセリング演習②	ロールプレイを通して、カウンセリングの実際を体験する	
15	まとめ	全体授業総括	
	(試験)		

履修上の注意・関連科目等

時間厳守。遅刻は受け付けないことがあるので注意すること。さらに、遅刻・欠席で実習を体験されていないと、レポートも書けず大幅減点となるので留意すること。履修者の人数状況や進行状況により授業内容を適宜変更する場合もあるので承知されたい。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	■有り　　各授業の後に簡単な感想レポートを書いてもらう。 □無し	30　%
レポート	■有り □無し	50　%
試　　験		30　%
その他（出席状況等）	出席と授業態度を重視する	20　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕特になし。必要なときに配布する。
〔参考書・その他〕　適宜授業の中でお知らせする。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　　階　　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	N1－58	授業科目名	カウンセリング演習Ⅰ	担当教員名	向出　佳司

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と心理	選択科目	3	前期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要カウンセリングは時間性の混同や自分に問題解決できるものと他者に問題解決を求めるものとの整理でもある。人間本来の生き方ができるように、また、問題解決力をつけソーシャルスキルを身につけるよう支援していくことでもある。

授業の目的・到達目標
カウンセリング場面で多くの人と交流体験のなかで自分の感情を客観的に把握できるスキルを身につけていくことを目的とする。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	ガイダンス	講義の内容と進め方	プリント
2	発達課題と阻害事例事例研究	ライフコース（幼児期・児童期・思春期）の発達課題と阻害事例研究	プリント
3	青年期の発達課題と阻害事例研究と対応	衝動的、攻撃的な人の事例と面接場面での情報収集方法と対応の基本	プリント
4	対応の難しいパーソナリティの事例研究と対応	抑うつ傾向にある人の事例と面接場面での情報収集方法と対応の基本	プリント
5	対応の難しいパーソナリティの事例研究と対応	神経症的不安傾向にある人の事例と面接場面での情報収集方法と対応の基本	プリント
6	抑うつ傾向にある人の事例研究と対応	不登校のタイプと不登校のタイプ別事例	プリント
7	神経症的不安傾向にある人の事例研究と対応	不登校のタイプ別事例と面接場面での情報収集方法と対応の基本	プリント
8	心身症保持者の事例研究と対応	引きこもりタイプとタイプ別事例	プリント
9	不登校児の事例研究と対応	引きこもりタイプ面接場面での情報収集方法と対応の基本	プリント
10	引きこもりの事例研究と対応	行動症状を持つ人への事例と面接場面での情報収集方法と対応の基本	プリント
11	行動症状を持つ人への事例研究と対応	拒食症や過食症の事例と面接場面での情報収集方法と対応の基本	プリント
12	摂食障害の事例研究と対応	親子関係が引きがねとなる問題を持つ人の事例と面接場面での情報収集方法と対応の基本	プリント
13	障害者の心の問題の事例研究と対応	障害別タイプと事例	プリント
14	障害児・者を持つ家族に起こる問題	障害別タイプと事例	プリント
15	まとめ		

履修上の注意・関連科目等
私語や途中入室、退室は厳に慎むこと。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し	10　%
レポート	□有り □無し	10　%
試　　験		50　%
その他（出席状況等）	出席重視	30　%

教科書・参考書及び辞典等〔テキスト〕
〔参考書・その他〕國分康孝「現代カウンセリング辞典」金子書房、2001
ヘルスカウンセリング学会　「ヘルスカウンセリング辞典」日総研　2004

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス

作成年度：2011

授業科目コード	N1－59	授業科目名	カウンセリング演習Ⅱ	担当教員名	向出　佳司

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と心理	選択科目	3	後期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

人生や進路に迷ったり、人間関係や恋愛などで悩んだりした時、自分本来の欲求や感情そのままに生きることを阻むため生じる感情である。カウンセリングはこのような矛盾する感情を少なくし、本来の自分の感情や欲求に添うよう支援し、より良い人間関係を構築し、人格成長を促すことができるように援助する。

授業の目的・到達目標

各人の「人格成長」を促すことができようにカウンセリングの基本的姿勢とソーシャルスキルを身につけることを目的とする。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	問題別事例と併用療法（行動療法、遊戯療法、芸術療法、グループカウンセリング）	プリント
2	基本姿勢 1	言語の観察法、非言語的観察法と内部的観察法	プリント
3	基本姿勢 2	傾聴とブロッキング、確認	プリント
4	基本姿勢 3	共感的関わりと二重意思論	プリント
5	心理パターン論	心傷の構図、世代間伝達	プリント
6	発達課題と阻害因	ライフステージにおける発達課題と阻害因	プリント
7	ストレス源と防衛機制	ストレスに対する反応	プリント
8	精神分析療法	さまざまな治療モデル	プリント
9	夢分析	「今、ここで」のドリームワーク	プリント
10	クライエント中心療法	カウンセリングの基本とは	プリント
11	交流分析	交流パターンの分析	プリント
12	イメージ療法	イメージ療法の理論	プリント
13	認知行動療法	認知行動療法のアプローチ	プリント
14	サイコドラマ	サイコドラマとオムニバスサイコドラマ	プリント
15	まとめ		

履修上の注意・関連科目等

私語や途中入室、退室は厳に慎むこと。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し	%
レポート	□有り □無し	%
試　　験		100　%
その他（出席状況等）	出席重視	%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

〔参考書・その他〕國分康孝「現代カウンセリング辞典」金子書房、2001
ヘルスカウンセリング学会　「ヘルスカウンセリング辞典」日総研　2004

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス

作成年度：2011

授業科目コード	N1－60①	授業科目名	セラピーの実際 (コスメセラピー)	担当教員名	小林　美枝子

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と心理	選択科目	3	前期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

高齢者や介護を受けている方を対象にした心のケアのひとつとしてメイクセラピーの講義と実習をします。

授業の目的・到達目標

メイクセラピーに必要な皮膚の科学、高齢者の心理・コミュニケーション、認知症を理解します。
実際に人の皮膚や手に触れ、心のケアに役立つ技術を身につけます。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	講義の目的、進め方	講義の概要を説明。自分を分析する	
2	高齢者の心理	高齢者の心理・認知症高齢者の特徴と症状	プリント配布
3	ハンドケア	ハンドマッサージとマニュキュアの体験	実習
4	皮膚の科学と手入れ	皮膚の仕組みを科学的に理解する	プリント配布
5	メイクセラピーとは	美容による心理的・身体的効果について	プリント配布
6	メイクの実際	メイクセラピーの心構えとコミュニケーション	プリント配布
7	メイク実習	自分にメイク	実習
8	メイク実習	人にメイク	実習
9	園芸セラピー（別途シラバス参照）		
10			
11			
12			
13			
14			
15	まとめ		

履修上の注意・関連科目等

出席率を重視します。特に実習は欠席しないようにしてください。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	☑有り　字数、課題テーマは初回講義時に発表します。 □無し	30　%
試　験		%
その他（出席状況等）		70　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2009

授業科目コード	N1－60②	授業科目名	セラピーの実際 (園芸セラピー)	担当教員名	山中　尚子

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と心理	選択科目	3	前期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

身近な植物や自然とのふれあいを心と体の健康に役立てる園芸療法。植物を媒介とした社会参加、生きがいづくりなど、広い意味での心身の癒しにつなげる園芸福祉。これらに、ボランティア等による地域社会での園芸活動を加えたものを、大きく園芸セラピーととらえ、その理論と実践について講義する。

授業の目的・到達目標

五感を通して心身に総合的に働きかける園芸セラピーの基礎的な知識を身につける。医療・福祉・教育・地域社会等、実際に現場で行われている事例について知り、園芸の効用について考察する。実習では、植物の栽培や園芸プログラムを通じて、その実践上のポイントを学ぶ。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	園芸セラピー概論①	園芸セラピーの意義・歴史	
2	園芸セラピー概論②	園芸セラピーの実践例など	
3	園芸セラピー概論③	園芸セラピーの実践例など	
4	実習①	植物の特性とセラピーへの応用 園芸プログラム①	
5	実習②	植物の特性とセラピーへの応用 園芸プログラム②	
6	実習③	植物の特性とセラピーへの応用 園芸プログラム③	
7	実習④	植物の特性とセラピーへの応用 園芸プログラム④	
8	まとめ		

履修上の注意・関連科目等

園芸の特性上、気候等によって授業スケジュールを変更する場合がある。実習は動きやすく汚れても構わない服装で受講すること。植物の栽培・観察がレポート課題の１つであること、実習材料を自宅に持ち帰る必要があることをあらかじめ了解の上で受講すること。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	☑有り □無し	30　%
レポート	☑有り □無し	30　%
試　　験		%
その他（出席状況等）		40　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕特になし　適宜資料を配布する

〔参考書・その他〕講義中に示す

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	N1－61	授業科目名	社会福祉概論	担当教員名	大坪　勇

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と福祉	必修科目	1	前期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

社会福祉とは現代社会におけるさまざまな生活問題に対応するものであるが、それは歴史的・社会的状況によって作り出されるものである。本講義では社会福祉の基礎を論じ、さらに人権・生存権保障の視点から、それぞれの社会福祉分野の理念と現状について学ぶ。

授業の目的・到達目標

個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間生活と社会の関わりや自助から公助に至る過程について学習する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	社会福祉の理念	人権尊重、権利擁護、自立支援等	
2	社会福祉の思想と倫理	社会福祉の考え方について	
3	社会福祉の対象と主体	家族概念・変容・構造・役割	
4	社会福祉需要の変容	地域社会の概念と社会福祉との関係	
5	社会福祉の発展	歴史的発展過程について	
6	社会福祉法制の体系	社会福祉六法について	
7	社会福祉の制度体系	六法に基づく制度の体系について	
8	社会福祉の運営組織	施設と地域社会、制度と地域社会	
9	福祉サービスの提供と利用	利用者保護制度について	
10	社会福祉の財政と費用負担	応能負担と応益負担について	
11	社会福祉における公私の役割、調整	シルバーサービス	
12	地域福祉の概念	地域福祉への参加について	
13	地域福祉の内容	推進組織、担い手	
14	地域福祉計画及び財源	福祉財源とは何か	
15	社会福祉の民間福祉活動	福祉パイロット事業について	
	(試験)		

履修上の注意・関連科目等

学生諸氏にあっては講義内容を鵜呑みにすることなく、常に批判的視点を持ち講義に臨まれたい。
また、主体的に講義に参加できる場面を設けるので積極的に論議に参画願いたい。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	0　%
レポート	□有り ☑無し	0　%
試　　験		80　%
その他（出席状況等）		20　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕『新・介護福祉士養成講座第 2 巻　社会と制度の理解』
介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規　ISBN:978-4-8058-3130-4

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　　階　　内線	

作成年度：2009

授業科目コード	N1－62	授業科目名	介護概論	担当教員名	渋谷　光美

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と福祉	選択科目	3	前期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

介護における尊厳の保持・自立支援について理解する。

授業の目的・到達目標

介護福祉を取り巻く状況・介護福祉の役割・介護福祉の機能について理解出来る。
尊厳の保持・自立支援を目指す介護実践の在り方について理解出来る。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	介護問題の背景	介護福祉の役割	
2	介護福祉の目的	自立支援とエンパワメント	
3	ICF の理解	生活支援への応用	
4	援助関係の基本	ケアマネジメントの実際	
5	身辺介護の技法①	環境整備(住環境の整備)	
6	身辺介護の技法②	食事の介護(食生活支援)	
7	身辺介護の技法③	排泄の介護(排泄用具の工夫)	
8	身辺介護の技法④	清潔の介護(清拭・整容・入浴)	
9	身辺介護の技法⑤	着脱の介護(衣生活支援)	
10	身辺介護の技法⑥	運動・移動の介護(アクティビティケア)	
11	身辺介護の技法⑦	運動・移動の介護(福祉機器の活用)	
12	身辺介護の技法⑧	生きがい支援・レクリエーション	
13	チームケア	介護とリハビリテーション	
14	介護と医療の連携	ターミナルケア	
15		全体の理解度の確認と授業総括	
	筆記試験		

履修上の注意・関連科目等

テキストは指示されたものを毎回持参すること。予習・復習を行なうこと。日頃から新聞などに目を通し、社会の動きを知ること。身近な日常生活と関連付けて学習を深めること。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	☑有り □無し	15　%
レポート	☑有り □無し	15　%
試　　験	筆記試験	60　%
その他（出席状況等）	出席状況と受講態度	10　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
松田美智子他編著：高齢者介護のコツ　クリエイツかもがわ
〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
3 号館　4 階　内線	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	N1－63	授業科目名	ケアマネジメント論	担当教員名	楳原　直美（うめはら　なおみ）

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と福祉	選択科目	3	後期	2	時間割参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

高齢や障害等により、複雑でさまざまな生活課題を有しているクライエントに対し、日常生活の継続のために必要なサービスの提供を、マネジメントする手法（ケアマネジメント）を紹介する。

授業の目的・到達目標

ケアマネジメントの理論や技術を学ぶだけでなく、生活課題とは何か、また人間らしく生きるとは何かを考えたケアプランを作成し、ケアマネジメントとは何かを理解する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	講義の概要、進め方などを説明する。	
2	ｹｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄとは何か	ケアマネジメントの概念を知る。	プリント資料配付
3	生活支援とは何か	日常生活を支援するための手法を知る。	プリント資料配付
4	ｹｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄの目的	ケアマネジメント目的と必要性を知る。	プリント資料配付
5	ｹｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄの歴史	ケアマネジメントの歴史を学ぶ。	プリント資料配付
6	ｹｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄの過程	ケアマネジメントの過程を理解する。	プリント資料配付
7	生活支援と課題	生活を支援するとはどういうことか考える。	プリント資料配付
8	介護保険とｹｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ①	介護保健制度の理解	プリント資料配付
9	介護保険とｹｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ②	介護保険制度の理解	
10	介護保険とｹｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ③	ケアマネジャーの役割	
11	ｹｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄの作成①	ケアプラン作成演習。	プリント資料配付
12	ｹｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄの作成②	ケアプラン作成演習。	
13	ｹｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄの作成③	作成したケアプランを見直す。発表会。	
14	ｹｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄの応用	障害者や生活保護分野でのｹｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄを学ぶ	プリント資料配付
15	まとめ	これまでの学習を見直す	
	(試験)		

履修上の注意・関連科目等

授業はパワーポイント・ビデオなどを使用する他、
演習等を取り入れ、参加型の授業にしていきたいと思っています。
出席と授業態度を重視します。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し	%
レポート	□有り □無し	%
試　　験	学期末に実施。内容・形式については、授業の中で説明する。	70　%
その他（出席状況等）	出席と授業態度	30　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
プリント資料配付
〔参考書・その他〕
授業内で紹介

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	N1－64	授業科目名	介護行政論	担当教員名	梅原　直美（うめはら　なおみ）

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と福祉	選択科目	2	後期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

戦後日本は経済的発展に伴い、大家族中心の家族から核家族へと変化した。家族「介護」のあり方も社会で支える「介護」に変遷し、介護保険制度が制定されるまでに至る。介護の歴史と制度を理解し、今後超高齢社会が進むなか、介護行政はどのようにあるべきなのか学習する。

授業の目的・到達目標

現代社会の「老老介護」「介護心中」とはどういうことかを学び、何故そのような事件が多発するのか、それを防ぐためには私たちはどうすればいいのか、また国はどのような施策を施行させていかなければいけないか、学生自身が考察を深める。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	講義の概要、進め方などを説明。	適宜プリント配布
2	現代社会と介護	介護現場の実態を考える	
3		在宅介護と施設介護	
4		高齢者虐待は何故おこるのか	
5	介護行政の変遷	寝たきり老人・認知症老人の登場	
6		経済成長と家族形態の変化	
7		老人福祉法の制定と施設介護	
8	医療行政の変遷	老人医療費無料化と老人病院の登場	
9		医療法改正と社会的入院	
10		医療の機能分化と福祉の役割	
11	介護行政の変遷・在宅	ホームヘルパー・訪問看護制度の創設の背景	
12		介護の社会化とは	
13		介護保険の制定とその背景	
14		介護行政の課題	
15	まとめ	今までの振り返り	
	(試験)		

履修上の注意・関連科目等

私語が多いものは退出させる場合もあります。
退出を言われたものは欠席扱いとします。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し	%
レポート	□有り □無し	%
試　　験	学期末に実施。内容・形式については、授業の中で説明する。	70　%
その他（出席状況等）	出席と授業態度	30　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
プリント資料配付
〔参考書・その他〕
授業内で紹介

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	N1－65	授業科目名	介護保険実務論	担当教員名	楳原　直美（うめはら　なおみ）

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と福祉	選択科目	3	前期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

介護支援専門員（ケアマネジャー）の業務には大きくわけて、ケアプラン作成と介護報酬請求事務があります。本講義では介護報酬請求事務ついて講義します。

授業の目的・到達目標

介護保険制度・介護報酬請求事務を理解し、（財）日本病院管理教育協会の「介護保険事務管理士」の資格取得を目指します。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	講義オリエンテーション	授業内容についてオリエンテーション実施	
2	過去問題試験	過去の介護保険事務管理士試験（理論）を実施	過去問題
3	解答と解説	テキストを利用し、介護保険制度を理解する	テキスト随時使用
4	解答と解説	テキストを利用し、介護保険制度を理解する	テキスト随時使用
5	解答と解説	テキストを利用し、介護保険制度を理解する	テキスト随時使用
6	確認試験①	過去問題試験を実施（テキスト持ち込みあり）	過去問題
7	介護報酬の理解	介護報酬とは何か理解する。	テキスト随時使用
8	居宅サービスの介護報酬	介護報酬の計算方法を学ぶ	
9	事例問題（計算問題）	事例問題を解く	過去問題
10	事例問題（計算問題）	事例問題を解く	過去問題
11	事例問題（計算問題）	事例問題を解く	過去問題
12	居宅介護支援の介護報酬	居宅介護保険の介護報酬を学ぶ	
13	施設サービスの介護報酬	施設サービスの介護報酬を学ぶ	
14	確認試験②	過去問題試験を実施（テキスト持ち込みあり）	過去問題
15	まとめ		
	(試験)		

履修上の注意・関連科目等

テキストは必ず購入すること。購入しない者は履修意思がないものとみなす。
授業態度が悪い者は退席してもらうことがある。退席を言われた者は欠席扱いとする。
電卓を持参してもらうことがある。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	☑有り　確認テスト　2回 □無し	20　%
レポート	□有り □無し	%
試　験	学期末に持ち込みなしの試験を実施。内容・形式については、授業の中で説明する。	50　%
その他（出席状況等）	出席と事業態度	30　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
2013 年版 U-CAN のケアマネジャー速習レッスン
〔参考書・その他〕
過去問題を適宜配布

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	N1－70	授業科目名	コミュニケーション論	担当教員名	全炳昊

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と福祉	生活福祉必修科目 生マ選択科目	1	後期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

コミュニケーション「する」ことの意味

授業の目的・到達目標

人間のコミュニケーションを理解する上で、基本的な枠組みを確認する。
そのための、コミュニケーションの構造や形式、意味の仕組み、文化におけるコミュニケーション・ツールなど、具体的事例を通じてコミュニケーション全般を理解する。
コミュニケーションの過去と現在の狭間で、「自分」を見つめることに努める。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	ガイダンス	講義の概要	
2	コミュニケーションの初め	基礎概念の紹介	
3	自己表現のコミュニケーション１	言語的なコミュニケーション	
4	自己表現のコミュニケーション２	非言語的なコミュニケーション	
5	社会とコミュニケーション１	関係のコミュニケーション	
6	社会とコミュニケーション２	説得と交渉のコミュニケーション	
7	文化とコミュニケーション	異文化コミュニケーション	
8	家族社会	親子間のコミュニケーション	
9	学校・教育社会	学校の社会学とコミュニケーション	
10	地域社会	ネットワークに対する考え方	
11	情報化社会とコミュニケーション１	マス・メディアを考える	
12	情報化社会とコミュニケーション２	情報化の社会病理	
13	発表・討論	自己表現とコミュニケーション	
14	発表・討論	自己表現とコミュニケーション	
15	発表・討論	自己表現とコミュニケーション	
	(試験)	（定期試験期間中に実施する）	

履修上の注意・関連科目等

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	□有り ☑無し	%
試　　験	定期試験期間中に実施。内容・形式などについては、授業中に説明する。	60 %
その他（出席状況等）	出席、講義中の提出物	40 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

〔参考書・その他〕
講義中に提示する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	N1－71	授業科目名	社会福祉制度論	担当教員名	大坪　勇

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と福祉	生活福祉必修科目 生マ選択科目	1	後期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

社会福祉とは現代社会におけるさまざまな生活問題に対応するものであるが、それは歴史的・社会的状況によって作り出されるものである。本講義では社会福祉の基礎を論じ、さらに人権・生存権保障の視点から、それぞれの社会福祉分野の理念と現状について学ぶ。

授業の目的・到達目標

個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間生活と社会の関わりや自助から公助に至る過程について学習する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	所得保障制度の概要	公的扶助（生活保護制度）の概要説明	
2	医療保障制度の概要	医療保険制度について	
3	介護保険制度の概要	介護保険制度の内容説明	
4	雇用・就労制度の概要	雇用保険制度について	
5	住宅制度の概要	公共住宅政策内容について	
6	障害教育制度の概要	教育制度における障害児教育について	
7	社会福祉援助技術の発展	社会福祉援助技術の歴史的展開	
8	社会福祉援助技術の概要とその動向	各種社会福祉援助技術の概要説明	
9	社会福祉の利用支援システム	社会福祉利用機関の説明	
10	社会福祉の評価システム	第三者評価制度について	
11	社会福祉従事者の概要	社会福祉従事者の種類と職務について	
12	社会福祉従事者と専門性	社会福祉従事者の専門性とは	
13	福祉資格法の目的と内容	介護福祉士を中心に	
14	社会福祉の動向と展望	今後の福祉動向について	
15	21 世紀社会福祉の展望	21 世紀社会福祉の展望	
	(試験)		

履修上の注意・関連科目等

学生諸氏にあっては講義内容を鵜呑みにすることなく、常に批判的視点を持ち講義に臨まれたい。また、主体的に講義に参加できる場面を設けるので積極的に論議に参画願いたい。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し	0　%
レポート	□有り □無し	0　%
試　　験		80　%
その他（出席状況等）		20　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕後藤卓郎編　『新選・社会福祉』　㈱みらい

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　　階　　内線	

作成年度：2012

授業科目コード	N1－72	授業科目名	施設管理論	担当教員名	大坪　勇

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と福祉	生活福祉必修科目 生マ選択科目	2	後期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

社会的な課題である少子化、高齢社会について理解を深める。また社会の変化と少子高齢化の関係について学び、今後の社会のあり方について考える。

授業の目的・到達目標

少子高齢社会の特徴と問題点を明らかにし、それに対応する法制度の中身を中心に学習していく。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料
1	オリエンテーション	講義の概要、進め方など。	
2	介護の歴史を見直す	我が国の福祉の歴史を俯瞰する。	
3	少子高齢社会とは	高齢社会の定義、少子高齢化の要因について。	
4	高齢者の特性理解	高齢者の心身・社会的理解を深める。	
5	少子高齢社会の諸問題　①	少子高齢社会と家族問題。	
6	少子高齢社会の諸問題　②	少子高齢社会と介護問題。	
7	介護の社会化について	家族介護から介護の社会化への変化について。	
8	高齢者福祉施策の変遷（1）	黎明期から戦後にかけての施策を学ぶ。	
9	高齢者福祉施策の変遷（2）	老人福祉法の制定とサービスの拡大について。	
10	高齢者福祉施策の変遷（3）	近年の高齢者福祉施策の動向について。	
11 12	老人福祉法	同法の基本理念、目的、対象、基本的仕組みについて。	
13 14	介護保険法	同法創設背景と意味、仕組みやサービス内容、問題点と課題について。	
15	まとめ		
	(試験)		

履修上の注意・関連科目等

テキストを必ず持参すること。私語及び途中入退室は厳に慎むこと。座席を指定する。講義中は携帯電話の電源は切ること。メール、電話が鳴動した場合、退室を命じる。授業態度が悪い場合は欠席扱いにする場合もある。講義は基本的にパワーポイントを用いて行い、適宜レジュメを配布する。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	☑有り　随時、授業の中で課題を提示する。 □無し	30%
試　　験	内容・形式については、授業の中で説明する。	40%
その他（出席状況等）	出席状況、授業への参加態度など。	30%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

石田一紀編『老人福祉論』　（株）みらい　2006 年　2，520 円

[参考書・その他]

適宜紹介する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス

作成年度：2009

授業科目コード	N1－73	授業科目名	生活と社会保障	担当教員名	楳原 直美

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
生活福祉必修科目 生マ選択科目	生活福祉必修科目 生マ選択科目	2	前期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

社会保障は我々の生きる権利・生活する権利（生存権）を保障する重要な役割を担っている。その果たす役割や仕組みを理解し、社会保障のシステムの問題点や課題について講義する。

授業の目的・到達目標

社会保障のシステムは何らかの生活上の問題が発生しなければ見えにくいが、我々の生活に重要な役割を果たしている。私たちとシステムの関係を理解し、身近なものであることに気づく、そして社会保障や社会福祉の今後の課題を学生自身が考えていく。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	講義の概要、進め方などを説明。	随時プリント配布
2	社会保障制度とは	ライフサイクルと生活保障の理解	
3	社会保険制度	社会保険制度の仕組みを理解する。	
4	医療保険制度①	医療保険制度のしくみ	
5	医療保険制度②	医療保険制度と公費負担医療	
6	年金保険制度①	年金保険制度のしくみ	
7	年金保険制度②	年金保険制度の課題	
8	公的扶助	生活保護制度のしくみ	
9	雇用保険制度	雇用保険制度のしくみ	
10	労災保険制度	労災保険制度のしくみ	
11	高齢化と介護保険制度	介護保健制度のしくみ	
12	少子化と社会保障①	少子化対策	
13	少子化と社会保障②	子育て支援制度	
14	社会福祉基礎構造改革	少子高齢社会と今後の社会保障制度の課題	
15	まとめ	まとめ	
	(試験)		

履修上の注意・関連科目等

私語が多いものは退出させる場合もあります。
退出を言われたものは欠席扱いとします。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し	%
レポート	□有り □無し	%
試　　験	学期末に持ち込みなしの試験を実施。内容・形式については、授業の中で説明する。	70 %
その他（出席状況等）	出席点　授業態度	30 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
プリント配布
〔参考書・その他〕
授業内で提示

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	N1－74	授業科目名	発達と老化の理解Ⅰ	担当教員名	青野　晴美

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と福祉	生活福祉必修科目 生マ選択科目	1	前期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

介護福祉の対象者である「人間」を全人的に理解するために、人間の成長と発達の基礎的理解を基盤に、生物体としての理解を深める。心の発達や行動の理解、ライフサイクルにおける発達課題と役割、社会的存在としての理解、老年期の発達と成長、高齢者の心理、高齢期の福祉などを学習する。

授業の目的・到達目標

成長・発達の観点から老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化やその特徴に関する基礎的な知識を修得する。人の誕生から死に至るまでの心身の発達や成長・成熟・生理的変化を自己の体験や身近な高齢者の体験と重ね合わせてイメージできる。老化に伴う心身の変化やそれが日常生活に及ぼす影響・高齢者の気持ちについて深く理解し、高齢者の人格と尊厳を守る個別ケアの基本を理解する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	生物体としての人間の理解①	授業のガイダンス 人間の成長と発達（生命の誕生、胎生期）	赤ちゃん人形
2	〃②	発達と個人差（出生後の身体的成長・精神的発達）	自身の成長発達
3	〃③	発達と個人差（文化差・地域差・風土等）	
4	心の発達や行動の理解①	欲求と行動、パーソナリティの発達、	
5	〃②	思いやりの心と援助行動	
6	ライフサイクルにおける発達課題と役割①	発達段階と発達課題（乳幼児、学童期、思春期）	
7	〃②	発達段階と発達課題（青年期、壮年期、老年期）	
8	老化の理解①	老年期の定義・老化とは・外見的変化	高齢者イメージ
9	〃②	高齢者のこころの問題と精神障害　認知症等	ビデオ視聴
10	〃③	老化に伴う身体的機能・知的機能の変化と日常生活への影響	
11	〃④	要介護による高齢者の心理	ビデオ視聴
12	高齢期の福祉を考える①	老いの価値観・受容、エイジレス、生きがい、幸福の追求＝福祉	事例から学ぶ
13	〃　②	高齢者の心理、社会や家庭で役割を失う高齢者の気持ち、障害を受けとめる高齢者の気持ち	ビデオ視聴
14	〃　③	喪失・家族との死別　　死の受容過程	ビデオ視聴
15	まとめ	ライフサイクルにおける発達課題	
	(試験)		

履修上の注意・関連科目等

必修科目なので、原則、全授業への出席を求めます。授業中の私語、居眠り、本授業外の課題などは禁止、積極的に授業に参加してください。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	☑有り　　授業中に伝えます □無し	20　%
試　　験		70　%
その他（出席状況等）	出席状況、授業参加態度	10　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕中央法規　介護福祉士養成講座 11　発達と老化の理解

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　　階　　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	N1－75	授業科目名	発達と老化の理解Ⅱ	担当教員名	青野　晴美

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と福祉	生活福祉必修科目 生マ選択科目	1	後期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

人間の成長と発達の基礎的理解を基盤に、高齢者の健康と高齢者に多い疾病や生活上の留意点について学習する。

授業の目的・到達目標

高齢者に多い疾病や老化に伴う機能低下が及ぼす日常生活への影響などを理解し、生活支援技術の根拠となる知識が修得できる。高齢者や障害者の人格と尊厳を守る個別ケアの基本が理解できる。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	高齢者の健康①	授業ガイダンス、高齢期の健康　健康日本 21	
2	〃　②	高齢者の症状・疾患の特徴	
3	〃　③	高齢者に多い症状・訴えとその留意点	ビデオ視聴
4	高齢者に多い病気とその留意点①	三大生活習慣病(脳血管障害・がん・心疾患)	
5	〃　②	その他の生活習慣病(高血圧・糖尿病・脂質異常症等)	
6	〃　③	骨・関節系の病気　歯・口腔の病気	
7	〃　④	目・耳・皮膚の病気　呼吸器・循環器系の病気	
8	〃　⑤	腎・泌尿器系の病気　脳・神経系の病気 消化器系の病気　　精神疾患	ビデオ視聴
9	〃　⑥	介護保険の特定疾病、	
10	〃　⑦	介護保険の特定疾病、高齢者に起こりやすい感染症	ビデオ視聴
11	保健医療職との連携①	保健医療職とのチームケアの必要性と連携	
12	〃　②	事例学習	
13	〃　③	社会資源の活用　福祉用具	
14	〃　④	医療的ケア　経管栄養　　吸引等	ビデオ視聴
15	まとめ	様々な疾病と生活支援上の留意点	
	(試験)		

履修上の注意・関連科目等

必修科目なので、原則、全授業への出席を求めます。授業中の私語、居眠り、本授業外課題などは禁止、積極的に授業に参加してください。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	☑有り　　授業中に指示します。 □無し	20　%
試　　験		70　%
その他（出席状況等）	出席状況、授業参加態度	10　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕中央法規　介護福祉士養成講座 11　発達と老化の理解
〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　　階　　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	N1－76	授業科目名	認知症の理解Ⅰ	担当教員名	渋谷 光美

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と福祉	生活福祉必修科目 生マ選択科目	1	後期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

認知症を取り巻く歴史的背景や施策、認知症にある人の現状を理解する。認知症の原因となる病気や症状の特徴を学び、それらによって引き起こされる機能の変化や日常生活への影響を理解し、個々にあった的確なケアが提供できるための知識を修得する。

授業の目的・到達目標

認知症のある人が尊厳を持ち人生を継続していくための支援や、支援にあたる人たちの認知症という病気や日常生活への影響を理解し、それらを緩和するための介護の在り方について考えることが出来る。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	認知症とは	認知症の人の生きる世界	
2		認知症ケアの歴史	
3		認知症ケアの理念と視点	
4	認知症に関する行政	行政の方針と施策	
5	認知症の医学的理解	認知症による障害　認知症の診断と治療・予防	
6		原因となる主な病気の症状と特徴　アルツハイマー病・脳血管性疾患・レビー小体病・ピック病	
7		若年性認知症	
8	認知症に伴う心と身体の変化	認知症の人の特徴的な心理・行動	
9		周辺症状の背景にある心の理解	
10	認知症に伴う機能の変化と日常生活への影響	認知機能の変化が生活に及ぼす影響	
11		環境の力	
12	地域におけるサポート体制	社会資源の利用と開発 保健医療職との連携	
13	家族への支援		
14	認知症の人を支える介護福祉士の役割		
15		全体の理解度の確認と授業総括	
	筆記試験		

履修上の注意・関連科目等

テキストは指示されたものを毎回持参すること。予習・復習を必ず行なうこと。課題の提出期限は厳守すること。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	☑有り □無し	15　%
レポート	☑有り □無し	15　%
試　　験	筆記試験	60　%
その他（出席状況等）	出席状況と受講態度	10　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕　新・介護福祉士養成講座第 12 巻「認知症の理解」中央法規

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	N1－77	授業科目名	認知症の理解Ⅱ	担当教員名	渋谷 光美

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と福祉	生活福祉必修科目 生マ選択科目	2	後期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

認知症の原因となる病気や症状の特徴や、それらによって引き起こされる機能の変化や日常生活への影響を理解し、個々にあった的確なケアと家族を含めたサポート、支援体制について学ぶ。

授業の目的・到達目標

認知症のある人が尊厳を持ち人生を継続していくための支援の在り方について学び、家族支援を含め、考察することが出来る。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	認知症の人への対応の基本	認知症の人の介護の倫理	
2	認知症の人への対応の基本	特徴的な心理・行動と対応	
3	認知症の人への対応の基本	認知症の人の介護の原則	
4	認知症の人への対応の基本	認知症の人の介護に必要なアセスメント	
5	認知症の人への対応の基本	認知症の人の生活支援	
6	認知症の人への対応の基本	認知症の人の生活環境整備	
7	認知症の人の生活の場と介護	認知症の人の暮らしと支え	
8	認知症の人の生活の場と介護	介護老人福祉施設と認知症の人の介護	
9	認知症の人の生活の場と介護	グループホームと認知症の人の介護	
10	認知症の人の生活の場と介護	在宅における認知症の人の介護	
11	認知症の人の生活の場と介護	在宅における認知症の人と家族支援	
12	認知症の人の生活支援の事例	事例検討①	
13	認知症の人の生活支援の事例	事例検討②	
14	認知症の人の生活支援の事例	事例検討③	
15	認知症の人の生活支援の事例	全体の理解度の確認と授業総括	
	筆記試験		

履修上の注意・関連科目等

テキストは指示されたものを毎回持参すること。予習・復習を必ず行なうこと。課題の提出期限は厳守すること。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	☑有り □無し	15 %
レポート	☑有り □無し	15 %
試　　験	筆記試験	60 %
その他（出席状況等）	出席状況と受講態度	10 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

新・介護福祉士養成講座第 12 巻「認知症の理解」中央法規

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	N1－78	授業科目名	障害の理解Ⅰ	担当教員名	渋谷 光美

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と福祉	生活福祉必修科目 生マ選択科目	1	後期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

障害の概念や障害者福祉の基本理念、身体・精神・知的発達障害・難病について学び、その症状や合併症などが日常生活に及ぼす影響を理解する。

授業の目的・到達目標

障害の概念や障害者福祉の基本理念を理解し、医学的側面からの基礎知識を活用して、障害のある人やその介護者を含めた生活支援を行なうための根拠となる知識が修得出来る。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	障害の概念	ICIDH から ICF への変遷	
2	障害者福祉の基本理念		
3	身体障害	視覚障害のある人の生活と介護	
4		聴覚・言語障害のある人の生活と介護	
5		肢体不自由(運動機能障害) のある人の生活と介護　その 1	
6		肢体不自由(運動機能障害) のある人の生活と介護　その 2	
7		内部障害(心臓・呼吸機能障害)のある人の生活と介護	
8		内部障害(腎臓・膀胱・直腸機能障害)のある人の生活と介護	
9		内部障害(ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害)のある人の生活と介護	
10	精神障害のある人の生活と介護		
11	知的発達障害のある人の生活と介護		
12	難病・高次脳機能障害のある人の生活と介護		
13	障害のある人の心理		
14	地域におけるサポート体制	保健医療職との連携・チームアプローチと継続的ケア	
15		全体の理解度の確認と授業総括	
	試験		

履修上の注意・関連科目等

テキストは指示されたものを毎回持参すること。予習・復習を必ず行なうこと。課題の提出期限は厳守すること。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	☑有り □無し	15　%
レポート	☑有り □無し	15　%
試　　験	筆記試験	60　%
その他（出席状況等）	出席状況と受講態度	10　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕　新・介護福祉士養成講座第 13 巻「障害の理解」中央法規

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	N1－79	授業科目名	障害の理解Ⅱ	担当教員名	井上　健太郎

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と福祉	生活福祉必修科目 生マ選択科目	2	前期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝの理念、障害の構造・分類についての講義を行う。その上で、様々な障害の特性や特徴についての説明を行い、より具体的に障害の理解を深めていく。

授業の目的・到達目標

様々な障害の理解を図ることで、障害像や生活イメージをつかめるようになることを目的とする。そのことにより、障害を有する者に対しより適切な関わりや援助を行えるようになることを目標とする。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料(プリント等)
1	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝの理念	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝの理念について。	配布プリント
2	障害に対する考え方①	障害の構造と障害分類について（ICIDH)。	配布プリント
3	障害に対する考え方②	障害の構造と障害分類について（ICF)。	配布プリント
4	加齢による機能障害	加齢による身体機能の変化について。	配布プリント
5	家庭内事故	家庭内事故の種類、特徴について。	配布プリント
6	身体障害①	肢体障害について。	配布プリント
7	身体障害②	肢体障害について。	配布プリント
8	身体障害③	感覚機能障害について。	配布プリント
9	身体障害④	内部障害について。	配布プリント
10	高次脳機能障害	高次脳機能障害の種類と症状について。	配布プリント
11	知的障害・精神障害	代表的な知的・精神障害について。	配布プリント
12	地域ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ	地域ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝの理念・目的。	配布プリント
13	環境改善	障害を助ける物的補助について。	配布プリント
14	障害を有する者との関り方、またその役割	介護者・専門職としての関わり方、連携について。	配布プリント
15	障害を理解するとは	障害を理解するとはどういうことか。	配布プリント
	(試験)	15 回の講義理解度の確認。	配布プリント

履修上の注意・関連科目等

講義の中で、テーマに基づいた小テストやグループワークを行うため、講義の途中入室や途中退室は特別な理由が無い限り慎むこと。可能な限り参加型の授業形式をとっていく予定であるため、積極的な発言や意見交換を求む。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	■有り　授業の終わりに、授業内容に即した小テストを実施する。 □無し	15　%
レポート	■有り　各回のテーマに基づき、整理するための簡単な課題を課す。 □無し	15　%
試　　験	実施。内容・形式などについては、15 回目の授業の中で説明する。	50　%
その他（出席状況等）	出席と授業参加度（態度・発表など）を重視する。	20　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

配布資料にて進めていくため、特に指定はしない。

〔参考書・その他〕

新版 介護福祉士養成講座④／第 5 版『リハビリテーション論』　中央法規 2007　2200 円

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	N1－80	授業科目名	こころとからだのしくみⅠ	担当教員名	向出 佳司

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と福祉	生活福祉必修科目 生マ選択科目	1	前期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

人間の欲求・自己概念と尊厳・こころのしくみの基礎について学習する。

授業の目的・到達目標

こころとからだは相互に影響し合い、意欲や行動などに影響を及ぼすことを理解できる。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	健康とは何か、社会・心理学的アプローチ		
2	人間の意欲の基本的理解		
3	自己概念に影響する要因		
4	自立への意欲と自己概念		
5	自己実現と尊敬・生きがい		
6	発達心理学的理解		
7	こころのしくみに関する諸理解		
8	学習・記憶・思考のしくみ		
9	感情・認知のしくみ		
10	意欲をひき出す生活支援		
11	生活的・社会的適応へのステップアプローチ		
12	演習①心理的理解とミクロアプローチ		
13	演習②心理的理解とマクロアプローチ		
14	関連職種・機関とのコラボレーション		
15	全体の理解度の確認と授業総括		
	(試験)		

履修上の注意・関連科目等

講義を中心にもすすめるが学習効果の向上を期するため、発表及びグループディスカッションも適宜取り入れる。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	☑有り　授業時に3回実施 □無し	30 %
レポート	☑有り　授業時に2回実施 □無し	30 %
試　験		%
その他（出席状況等）	出席状況	40 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕　授業時、必要に応じ資料配布する

〔参考書・その他〕　参考書は、必要に応じ指示する

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。授業終了後（質問等）

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2010

授業科目コード	N1－81	授業科目名	こころとからだのしくみⅡ	担当教員名	青野 晴美

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と福祉	生活福祉必修科目 生マ選択科目	1	前期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

生命の維持・人体の解剖学的理解・人体の生理学的理解などからだのしくみの基礎について学習する。

授業の目的・到達目標

こころとからだの両面から利用者の状態を見て、その状態がどのような要因から引き起こされているのか、その根拠となる人体の構造や機能について修得する。そこから利用者の尊厳の尊重と自立を支援するための適切な介護方法を導き出す。人間の生活活動について、こころとからだが相互に影響しあっていることを理解し、生活活動を阻害する因子を知る。そこから、どのような障害や病気があっても、その人が望む環境の中で活動・参加し続けられるような支援方法を修得する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	健康とは何か	授業ガイダンス、健康の定義	
2	からだのしくみを理解する①	生命維持のためのしくみ：ホメオスタシス　バイタルサイン	
3	〃　②	細胞遺伝子　からだの各部位の名称と役割	課題プリント
4	〃　③	骨・関節・筋肉・感覚器・皮膚のしくみ	
5	〃　④	呼吸、消化器官のしくみ	ビデオ視聴
6	〃　⑤	泌尿器　生殖器　内分泌のしくみ	
7	〃　⑥	循環器　血液リンパのしくみ	ビデオ視聴
8	こころのしくみを理解する①	人間の欲求とは　マズローの5段階欲求	
9	〃　②	記憶　認知のしくみ　認知症	ビデオ視聴
10	からだの動きのしくみを理解する①	加齢による機能低下　骨・関節の動き	
11	〃　②	ボディメカニクスの知識	生活支援技術Ⅱ
12	〃　③	廃用症候群	ビデオ視聴
13	アクティビティを高める生活支援①	アクティビティとは：快・楽　意欲	
14	〃　②	自己紹介作品作成	マジック　はさみ　折り紙等
15	まとめ	こころとからだの相互影響	
	(試験)		

履修上の注意・関連科目等

必修科目なので、原則、全授業への出席を求めます。
私語、居眠り、本授業外の課題などは禁止、積極的に授業に参加してください。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	☑有り □無し	20　%
レポート	☑有り　　授業中に指示します。 □無し	10　%
試　　験		60　%
その他（出席状況等）	出席状況、授業参加態度	10　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕中央法規　介護福祉士養成講座14　こころとからだのしくみ
〔参考書・その他〕中央法規　介護福祉士養成講座7　生活支援技術Ⅱ

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	N1－82	授業科目名	こころとからだのしくみⅢ	担当教員名	青野　晴美

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と福祉	生活福祉必修科目 生マ選択科目	2	後期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

身じたく・移動・食事に関連したこころとからだのしくみについて学習する。

授業の目的・到達目標

人間の生活活動について、こころとからだが相互に影響しあっていることを理解し、生活活動を阻害する因子を知る。そこから生活上の支障となる要因があっても、利用者の有する諸能力を活用することで適切な援助方法が選択でき、利用者や家族に根拠を持って説明できる知識を修得する。

また、他の専門職とも連携できる実践能力を修得する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	身じたくに関連したこころとからだのしくみ①	授業のガイダンス、身じたくの効果 眼・爪・毛髪の構造と機能、機能低下	
2	〃　②	口腔の清潔・口臭のしくみ、機能低下	自身の口腔状況
3	〃　③	機能低下・障害が及ぼす整容行動への影響	
4	〃　④	生活場面における変化の気づきと医療職との連携	
5	移動に関連したこころとからだのしくみ①	移動行為の意義　良肢位　移動できないことの弊害	
6	〃　②	安全・安楽な移動　姿勢・体位保持のしくみ　歩行のしくみ	ビデオ視聴
7	〃　③	機能低下・障害が及ぼす移動への影響	ビデオ視聴
8	〃　④	生活場面における変化の気づきと医療職との連携	
9	〃　⑤	移動支援演習	生活支援技術Ⅲ
10	食事に関連したこころとからだのしくみ①	栄養素　1日に必要な栄養量・水分量	自身の食事水分
11	〃　②	食べることの生理的意味　食欲・美味しさ・口渇	
12	〃　③	摂食機能　調理形態の工夫	ビデオ視聴
13	〃　④	機能低下・障害が及ぼす食事への影響　経管栄養	ビデオ視聴
14	〃　⑤	生活場面における変化の気づきと医療職との連携	
15	まとめ	生活支援技術の根拠となるこころとからだのしくみ	
	(試験)		

履修上の注意・関連科目等

必修科目なので、原則、全授業への出席を求めます。
私語、居眠り、本授業外の課題などは禁止、積極的に授業に参加してください。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	☑有り □無し	20　%
レポート	☑有り　　授業中に指示します。 □無し	10　%
試　　験	定期試験	60　%
その他（出席状況等）	出席状況、授業参加態度	10　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕中央法規　介護福祉士養成講座 14　こころとからだのしくみ
〔参考書・その他〕中央法規　介護福祉士養成講座８　生活支援技術Ⅲ

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　　階　　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	N1－83	授業科目名	こころとからだのしくみⅣ	担当教員名	西口初江

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と福祉	生活福祉必修科目 生マ選択科目	3	前期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

こころとからだの両面から利用者の状態がどのような要因から引き起こされているか、その根拠となる知識について説明するとともに利用者の尊厳の尊重と自立を支援するための適切な介護方法を講義する。また、介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について講義する

授業の目的・到達目標

人間の生活活動について、こころとからだが連携していることや、生活活動を阻止する因子を知る。そこから生活上の支障となる要因があっても、利用者の有する諸能力を活用することで適切な援助方法を選択し、実践できることを理解する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	入浴に関連したこころとからだのしくみ	人間の基本的欲求 清潔の生理的・社会的・心理的意義	
2	〃	皮膚の構造と機能、機能低下・障害	
3	〃	入浴に関する機能低下と障害、からだへの負担	
4	.排泄に関連したこころとからだのしくみ	排泄の意味、排泄の生理	
5	〃	便・尿の生成としくみ	
6	〃	内部疾患による排便・排尿の支障	
7	〃	尿路感染症、おむつかぶれ	
8	〃	排泄ケアに関する日常の気づき	
9	睡眠に関連したこころとからだのしくみ	睡眠の生理的意味、しくみ、高齢者の睡眠 睡眠と覚醒のメカニズム	
10	〃	睡眠習慣と生活習慣	
11	〃	機能低下・障害（不眠，過眠の原因）	
12	〃	睡眠障害への対応	
13	死に逝く人に関連したこころとからだのしくみ	生物的な死、尊厳死　終末期から危篤、死亡時のからだの理解、「死」に対する恐怖・不安	
14	〃	死を受容する段階、	
15		医療職との連携	
	(試験)	筆記試験	

履修上の注意・関連科目等

出席重視、予習、復習をおこなう。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し	%
レポート	■有り □無し	20 %
試　　験	筆記試験 あり	65 %
その他（出席状況等）	出席重視、遅刻、早退、途中での入室、退室は認めない	15 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕建帛社　長谷川和夫他編著　『こころとからだのしくみ』　2310 円
〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	

作成年度：2013

授業科目コード	N1－83A	授業科目名	医療的ケア	担当教員名	西口初江

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と福祉	生活福祉必修	2	後期	2	時間割 参照	人間生活学科 生活福祉コース

授業のテーマ・概要

平成 23 年 6 月、介護保険法等一部改正に伴い、社会福祉士・介護福祉士法の改正が行われ、平成 24 年度から介護福祉士等によるたんの吸引・経管栄養の一部が一定の条件下で認められた。27 年度以降、介護福祉士がその業務として医療ケア（喀痰吸引等）を行うことが可能となり、これに伴い必要な基礎知識について説明する。

授業の目的・到達目標

介護福祉士が医療的ケアを実施するために、利用者・家族に説明と同意を得て、安全にたんの吸引が提供できるよう知識・技術を修得し、異常の早期発見が適切に行え、医療職との連携が確実に実践できる。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	人間と社会	個人の尊厳と自立、医療の倫理、説明と同意	
2	保健医療制度	保健医療、介護保険制度	
3	医行為に関する法律	チーム医療と介護職員との連携	
4	安全な療養生活	たんの吸引の安全な実施、リスクマネジメント	
5	清潔保持と感染予防	手洗い、うがいの方法	
6	〃	職員の感染予防、手袋やガウンの装着	
7	〃	療養環境の清潔、消毒法	
8	〃	滅菌と消毒	
9	健康状態の把握	平常状態と急変時の状態について	
10		バイタルサインの測定	
11	呼吸のしくみと働き	呼吸維持の重要性、しくみと機能	
12	いつもと違う呼吸状態	呼吸の苦しさがもたらす苦痛と障害	
13	吸引を受ける気持ちと対応	利用者・家族の吸引に対する気持ち、説明と同意	
14	たんの吸引による危険・事後の安全確認	吸引による危険の種類と危険防止、ヒヤリハット	
15	急変・事故発生時対応	緊急時の症状の対応や医療職との連携・体制	
	(試験)	全体の総まとめ	

履修上の注意・関連科目等

出席重視。人体の構造と機能を復習。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	■有り □無し	25 %
レポート	□有り ■無し	%
試　　験	筆記試験	60 %
その他（出席状況等）	出席状況や授業態度を総合的に評価。講義中の遅刻途中退室、入室は慎む。	15 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト、社）全国訪問看護事業協会編集
中央法規、2100 円
〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	

作成年度：2013

授業科目コード	N1－83B	授業科目名	医療的ケア演習	担当教員名	西口初江

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と福祉	生活福祉必修	2	後期	2	時間割 参照	人間生活学科 生活福祉コース

授業のテーマ・概要　平成 23 年 6 月、介護保険法等一部改正に伴い、社会福祉士・介護福祉士法の改正が行われ、平成 24 年度から介護福祉士等によるたんの吸引・経管栄養の一部が一定の条件下で認められた。27 年度以降、介護福祉士がその業務として医療ケア（喀痰吸引等）を行うことが可能となり、これに伴い必要な基礎知識について説明する。

授業の目的・到達目標　介護福祉士が医療的ケアを実施するために、利用者・家族に説明と同意を得て、安全にたんの吸引が提供できるよう知識・技術を修得し、異常の早期発見が適切に行え、医療職との連携が確実に実践できる。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	たんの吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持	必要物品の準備、吸引器・器具・器材のしくみ	
2		清潔保持（消毒薬・消毒方法）	
3	吸引の技術と留意点	必要物品の準備・設置と留意点	
4		吸引前の利用者の状態観察（呼吸状態・口腔・	
5		義歯など）と留意点	
6		吸引前の利用者の準備（姿勢・プライバシー確保	
7		吸引実施手順と留意点	
8		吸引実施準備、吸引前、吸引の実施	
9		吸引実施中・実施後の身体変化の確認	
10		吸引実施後の吸引物の確認と医療職への報告	
11		吸引後の片付け方法と留意点	
12		たんの吸引の伴うケア、体位を整えるケア	
13		口腔内のケア、報告・記録	
14		全体のまとめ	
15		実技試験の説明	
	(試験)	実技試験	

履修上の注意・関連科目等
「人体の構造と機能」を復習。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	□有り ■無し	%
試　　験	実技試験	85 %
その他（出席状況等）	出席状況、演習態度。	15 %

教科書・参考書及び辞典等
〔テキスト〕介護職員によるたんの吸引等の研修テキスト、社）全国訪問看護事業協会発行
〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	

作成年度：2013

授業科目コード	N1－85	授業科目名	運営管理論(組織と人間)	担当教員名	合澤　浩之

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 キャリア形成	選択科目	2	前期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

製造業における生産管理、流通・サービス業における店舗販売管理の基本的な考え方を講義する。

授業の目的・到達目標

日々の生活を支える製造業と流通・サービス業の現場でどのように仕事が行われているのかを、講義と事例演習を通じて理解する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	講義の目的、進め方に関するガイダンス	参考資料プリントを配布
2	運営管理とは	企業における運営管理の役割	
3	生産管理	生産管理の基礎	
4		工場の仕組みと生産方式	
5		生産計画と生産管理	
6		品質管理	
7		製造業における情報システム(SCM)	
8	前半のまとめ	前半の理解度の確認	
9	店舗・販売管理	店舗と商業集積	
10		店舗施設	
11		商品の仕入れと販売	
12		物流・配送管理	
13		POS システムの概要	
14		POS システムを活用した店舗・販売管理	
15	まとめ	まとめと総合演習	
	(試験)	実施する。	

履修上の注意・関連科目等

私語および途中入室、途中退室は厳に慎むこと（出席とは認めない）。
毎回配布されるプリントはきちんと保管すること。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	■有り　　途中で１回実施する。実施日等は事前に説明する。 □無し	20　%
レポート	□有り ■無し	%
試　　験	期末試験を実施する。内容・形式等については、授業の中で説明する。	40　%
その他（出席状況等）	出席状況及び授業態度、演習内容を重視する。	40　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
〔参考書・その他〕園川隆夫『オペレーションズ・マネジメントの基礎』朝倉書店

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	N1－85	授業科目名	キャリアサポート演習Ⅰ	担当教員名	國廣英司

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 キャリア形成	選択科目	2	後期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

時事＆一般常識

授業の目的・到達目標

期間等に於いて起きた事象を理解してもらう(政治、経済)

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	日本経済	テキストに基づき問題形式で回答 内容について解説する	
2	世界経済		
3	政治		
4	〃		
5	〃		
6	財政・地方自治		
7	〃		
8	〃		
9	産業・技術		
10	ことわざ		
11	〃		
12	〃		
13	四字熟語		
14	〃		
15	〃		
	(試験)		

履修上の注意・関連科目等

テキストは必要である。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	□有り ☑無し	%
試　　験	実施	70 %
その他（出席状況等）	出席及び授業への積極性を評価対象とする。	30 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

時事＆一般常識

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	N1－86	授業科目名	キャリアサポート演習Ⅱ	担当教員名	水田聖一

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 キャリア形成	選択科目	3	前期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

国家資格に昇格した保育士資格を得るための講座

授業の目的・到達目標

毎年 8 月(実技試験は 10 月)に実施される保育士試験のための教科(社会福祉、児童福祉、発達心理学、精神保健、小児保健、小児栄養、保育原理、教育原理、養護原理、保育実習)について学ぶ。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	保育原理	過去問題と解説	テキストに準じる
2	〃	〃	〃
3	教育原理	〃	〃
4	〃	〃	〃
5	発達心理	〃	〃
6	〃	〃	〃
7	児童福祉	〃	〃
8	〃	〃	〃
9	精神保健	〃	〃
10	小児保健	〃	〃
11	小児栄養	〃	〃
12	保育実習	〃	〃
13	社会福祉	〃	〃
14	児童福祉	〃	〃
15		全体の理解度の確認と授業総括	〃
	(試験)	行わない	

履修上の注意・関連科目等

保育士試験を受験しない者は、履修不可。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	■有り　毎回試験を課す。 □無し	30 %
レポート	□有り □無し	%
試　験	なし	%
その他（出席状況等）	**出席状況を重視する。**	70 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

別途指示する。

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	N1－87	授業科目名	ビジネス実務（秘書実務）	担当教員名	水原 道子

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 キャリア形成	選択科目	3	前期	2	集中	人間生活学科

授業のテーマ・概要

社会人として働くときに求められる知識と技能の基本を中心に、実務能力が身につくよう、講義と実技を交えて行う。

授業の目的・到達目標

信頼される職業人としての基礎を養い、日常業務の流れや円滑な人間関係のあり方などを学び、さまざまな場面において適切な行動ができるようになることを目指す。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	ガイダンス	授業の概要（板書・テスト・授業態度等）	
2	企業とビジネス活動	企業とビジネス活動の現状	
3	社会人のルール	社会人のあり方・協働の精神	
4	ﾋﾞｼﾞﾈｽ業務の心構え	ビジネスルールについて	ﾋﾞﾃﾞｵ「ﾋﾞｼﾞﾈｽの達人」
5	接遇の重要性	挨拶と第一印象の重要性	
6	ことばと話し方	敬語と話し方の実際	
7	電話応対	電話の慣用語句など	ﾋﾞｼﾞﾈｽ電話検定問題
8	来客応対	来客に対する行動と言葉遣い	ﾋﾞﾃﾞｵ「接遇の基本」
9	冠婚葬祭と行事	常識としてのマナー全般	秘書検定問題
10	ビジネス文書	業務上の文書知識と実習	秘書検定問題
11	ファイリング①	ファイリングの基本	ﾋﾞﾃﾞｵ「ﾌｧｲﾘﾝｸﾞの基本」
12	ファイリング②	ファイリングの自習	
13	訪問とセールス	会社訪問とセールストーク	
14	クレーム対応	クレーム処理の仕方	ﾋﾞﾃﾞｵ「クレーム対応」
15	医療界での接遇	病院での受付対応と院内応対	
	(試験)		

履修上の注意・関連科目等

・テキストを第一回目から必ず持参すること
・配布プリントの欠席者対応は、前回分のみ配布する

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	■有り □無し	80 %
レポート	□有り ■無し	0 %
試　験		0 %
その他（出席状況等）	質問や演習など、積極的な授業参加の姿勢を高く評価する	20 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
水原　道子「ビジネスとオフィスワーク」樹村房　1995 年
〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	講義中に指示

作成年度：2013

授業科目コード	N1－88	授業科目名	仕事と理念	担当教員名	赤穂　幸子

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 キャリア形成	生マ必修科目 福祉選択科目	3	後期	2	集中	人間生活学科

授業のテーマ・概要

就業をテーマに講義する。本格的な就職活動を踏まえ、実践的なトレーニングや情報収集から、やるべきことを明確にする。採用試験対策を効果的に進めるため、グループディスカッションや面接方式を取り入れて進めていく。

授業の目的・到達目標

大学での学びや経験を就業に活かすことを目的とする。前期での自己分析と企業研究を基に、自ら職業選択し、活動できることを目標とする。また、単に内定をゴールとせず、社会での活躍を目指す。グループワークでは、自分の意見を伝え、問題解決を図ることも課題である。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	講義の概要、進め方などを説明	適宜、プリント配布
2	就職活動の流れ	就職活動の現状と行動計画	
3	応募書類①	履歴書とエントリーシートについて	
4	応募書類②	大学生活の体験を自己 PR にどのように活かすか	
5	グループディスカッション	グループディスカッション実践	
6	企業研究①	求人票から、求められる人材像や志望動機を考える	
7	企業研究②	企業人事担当者の話を聴く①	
8	企業研究③	企業人事担当者の話を聴く②	
9	先輩から学ぶ	先輩の話を聴く（就職活動の進め方や心構えなど）	
10	情報収集①	企業情報の見かたとエントリー	
11	情報収集②	就職サイトの活用方法	
12	ビジネスマナー	説明会や企業訪問へのマナーと注意点	
13	面接対策①	面接マナー（入退室、立ち居振る舞いなど）	
14	面接対策②	模擬面接実践	
15	まとめ	今後の就職活動の進め方と行動計画	
	(試験)	実施しない	

履修上の注意・関連科目等

①3 年生の就職希望者は必ず履修すること
②キャリアセンターを積極的に利用し、就職活動に備えること
③就業習慣を身につけるため、遅刻・私語は厳禁とし、あいさつや姿勢にも意識をもって取り組むこと
④毎回の小レポートに、学んだ事柄や自分の意見を書くこと。またグループディスカッションやグループワークへの積極的な参加姿勢、問題理解も評価の対象とする
⑤企業の方や先輩の話を聴く回は、変更される可能性もある

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	☑有り　毎回　小レポート提出（授業の振り返り） □無し	60　%
試　験	無し	%
その他（出席状況等）	出席状況、積極的な参加姿勢（態度・発言・グループディスカッション等）	40　%

教科書・参考書及び辞典等〔テキスト〕なし　〔参考書・その他〕必要に応じて、授業中に紹介する

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	N1－92	授業科目名	生活マネジメント専門演習	担当教員名	生活ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ専攻 専任教員

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 卒業研究	生マ必修科目	3	後期	2	時間割 参照	生活ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄｺｰｽ

授業のテーマ・概要

生活マネジメントコースの専任教員が、それぞれの専門の立場から 4 年次の卒業論文の作成に必要な基礎知識をローテーションで指導する。

授業の目的・到達目標

書き方の約束や執筆手順、文献・資料の集め方や整理の方法など、論文作成の基本を学び、筋道を立てて自分の考えた意見を述べる能力を養う。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	授業の概要	授業の進め方・留意点などの説明	
2	卒業論文のテーマ設定(その 1)	4 種類の論文作成の方法を学ぶ	
3	論文の書き方の決まり(その 1)		
4	論文の書き方の決まり(その 1)		
5	卒業論文のテーマ設定(その 2)		
6	論文の書き方の決まり(その 2)		
7	論文の書き方の決まり(その 2)		
8	卒業論文のテーマ設定(その 3)		
9	論文の書き方の決まり(その 3)		
10	論文の書き方の決まり(その 3)		
11	卒業論文のテーマ設定(その 4)		
12	論文の書き方の決まり(その 4)		
13	論文の書き方の決まり(その 4)		
14	卒業論文発表会(聴講)	卒業論文の分野を決める	
15	卒業論文発表会(聴講)	卒業論文の分野を決める	
	(試験)	実施しない	

履修上の注意・関連科目等

①評価は、各教員が課すレポートと出席状況で行う。
②出席を重視するので、休まぬ覚悟で来ること。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り　　提出期限までに各教員に提出した課題レポートを評価する。 □無し	50 %
試　　験		%
その他（出席状況等）	出席状況・受講態度を評価する。	50 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
プリントを配布する。
〔参考書・その他〕
必要に応じて授業中に紹介する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	

作成年度：2013

授業科目コード	N2－1	授業科目名	介護の基本ＩＡ	担当教員名	渋谷光美

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 介護	必修科目	1	前期	2	時間割 参照	生活福祉コース

授業のテーマ・概要

介護における尊厳の保持・自立支援について理解する。

授業の目的・到達目標

介護福祉士を取り巻く状況・介護福祉士の役割・介護福祉の機能について理解出来る。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	介護福祉士とは	介護福祉士を取り巻く状況	
2		社会福祉士及び介護福祉士法	
3		介護における専門職能団体の活動	
4		介護福祉士の倫理	
5	介護問題の背景		
6	介護福祉士の役割		
7	介護の歴史		
8	生活と QOL		
9	ﾉｰﾏﾗｲｾﾞｰｼｮﾝ		
10	自立生活		
11	利用者主体の考え方		
12	生活支援		
13	自立支援		
14	介護福祉の目標		
15	介護の基本	全体の理解度の確認と授業総括	
	試験		

履修上の注意・関連科目等

テキストは指示されたものを毎回持参すること。予習・復習を行なうこと。日頃から新聞などに目を通し、社会の動きを知ること。身近な日常生活と関連付けて学習を深めること。積極的に介護施設でのボランティアなどを体験することを期待する。課題の提出期限は厳守すること。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	☑有り □無し	15　%
レポート	☑有り □無し	15　%
試　　験	筆記試験	60　%
その他（出席状況等）	出席状況と受講態度	10　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

新・介護福祉士養成講座第 3 巻「介護の基本Ⅰ」・第 4 巻「介護の基本Ⅱ」中央法規

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	N2－2	授業科目名	介護の基本ＩB	担当教員名	渋谷光美

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 介護	必修科目	1	後期	2	時間割 参照	生活福祉コース

授業のテーマ・概要

介護における尊厳の保持・自立支援について理解する。

授業の目的・到達目標

尊厳の保持・自立支援を目指す介護実践の在り方について理解出来る。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	自立に向けた介護		
2	生活支援の意義		
3	自立と自律		
4	自己決定と自己選択		
5	エンパワメント		
6	個別ケアの目標		
7	個別ケアの展開方法		
8	ICF の考え方		
9	アセスメント		
10	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝと介護		
11	関連職種との連携		
12	施設介護方法論		
13	在宅介護方法論		
14	尊厳の保持と介護		
15		全体の理解度の確認と授業総括	
	試験		

履修上の注意・関連科目等

テキストは指示されたものを毎回持参すること。予習・復習を行なうこと。日頃から新聞などに目を通し、社会の動きを知ること。身近な日常生活と関連付けて学習を深めること。積極的に介護施設でのボランティアなどを体験することを期待する。課題の提出期限は厳守すること。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	☑有り □無し	15　%
レポート	☑有り □無し	15　%
試　　験	筆記試験	60　%
その他（出席状況等）	出席状況と受講態度	10　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

新・介護福祉士養成講座第 3 巻「介護の基本Ⅰ」・第 4 巻「介護の基本Ⅱ」中央法規

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	N2－3	授業科目名	介護の基本Ⅱ	担当教員名	西口 初江

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 介護	必修科目	2	後期	2	時間割 参照	生活福祉コース

授業のテーマ・概要

介護実践の中で、介護を必要とする人を「生活する人」として受けとめ、一人ひとりの利用者の意向や生き方、生活習慣など「その人らしさ(個別性)」を大切にする生活支援の方法について講義する。

授業の目的・到達目標

介護を必要とする人とその人の生活支援の方法を理解する。
介護を必要とする人の個別性を重視した援助の在り方を理解する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	介護を必要とする人の生活の理解	生活・生活者の理解の視点	
2	利用者の生活の理解	日常生活の状況、生活歴、生活習慣	
3	〃	社会の変化、くらしの変化	
4	〃	家族背景と家族の介護	
5	高齢者の生活の理解	高齢者の暮らしとすまいの理解	
6	〃	高齢者のくらしとレクリエーション	
7	障害のある人の生活	障害のある人の全体像、暮らしのニーズ	
8	〃	年金を中心とした所得の保障	
9	〃	障害のある人の就労、住まいと環境	
10	〃	地域生活支援事業	
11	介護サービスの提供	介護サービスの概要、介護保険制度のサービス	
12	〃	障害者自立支援制度のサービス	
13	〃	施設サービスの特性、居宅サービスの特性	
14	〃	認知症対応型共同生活介護、	
15		小規模多機能型居宅介護	
	(試験)	筆記試験	

履修上の注意・関連科目等

出席重視、予習、復習をおこなう。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	■有り □無し	25 %
レポート	□有り ■無し	%
試　　験	筆記試験あり	60 %
その他（出席状況等）	授業態度、出席状況	15 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト
建帛社　西村洋子他編　『介護の基本Ⅱ』　2310 円
〔参考書・その他〕
適宜配布

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	

作成年度：2013

授業科目コード	N2－4	授業科目名	介護の基本Ⅲ	担当教員名	渋谷 光美

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 介護	必修科目	2	前期	2	時間割 参照	生活福祉コース

授業のテーマ・概要

介護サービスの意味と特性、ケアマネジメントの仕組みを通じ、利用者を支援するさまざまな専門職について基本的な理解を進め、介護職と多職種の連携のあり方を学び、チームアプローチの意義と重要性に関する考察を深める。

授業の目的・到達目標

地域における介護実践の展開を学び、介護職と多職種との連携、地域における連携に関する理解ができる。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	介護サービスの特性	介護サービスの提供の場と特性	
2		ケアマネジメントの意味と仕組み	
3		介護サービスの歴史的変遷と時代背景①	
4		介護サービスの歴史的変遷と時代背景②	
5		介護サービスの歴史的変遷と時代背景③	
6	介護実践における連携	多職種連携の意義と目的	
7		協働職種の理解と連携のあり方	
8		利用者を取り巻く多職種連携の実際	
9	地域における連携	地域連携の意義と目的	
10		地域連携に関わる期間の理解	
11		利用者を取り巻く連携の実際	
12	地域における身近なサービス実践	施設・事業所実践の理解①	
13		施設・事業所実践の理解②	
14		施設・事業所実践の理解③	
15		全体の理解度の確認と授業総括	
	試験		

履修上の注意・関連科目等

テキストは指示されたものを毎回持参すること。予習・復習を行なうこと。日頃から新聞などに目を通し、社会の動きを知ること。身近な日常生活と関連付けて学習を深めること。積極的に介護施設でのボランティアなどを体験することを期待する。課題の提出期限は厳守すること。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	☑有り □無し	15 %
レポート	☑有り □無し	15 %
試　　験	筆記試験	60 %
その他（出席状況等）	出席状況と受講態度	10 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

新・介護福祉士養成講座第 3 巻「介護の基本Ⅰ」・第 4 巻「介護の基本Ⅱ」中央法規

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	N2－5	授業科目名	介護の基本IVA	担当教員名	渋谷 光美

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 介護	必修科目	2	前期	2	時間割 参照	生活福祉コース

授業のテーマ・概要

介護従事者の倫理や、介護における安全の確保とリスクマネージメント、介護従事者の安全について理解する。

授業の目的・到達目標

安全かつ安心できる介護や、信頼のおける介護の実現を図るために留意すべき事項について学習する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	職業倫理①	介護従事者の倫理	
2	職業倫理②	介護実践の場で求められる倫理	
3	利用者の人権と介護①	身体拘束	
4	利用者の人権と介護②	高齢者虐待	
5	利用者の人権と介護③	児童虐待	
6	介護における安全の確保①	観察	
7	介護における安全の確保②	正確な技術	
8	介護における安全の確保③	予測・分析	
9	事故防止・安全対策①	セーフティマネージメント	
10	事故防止・安全対策②	緊急連絡システム	
11	事故防止・安全対策③	転倒・転落防止	
12	事故防止・安全対策④	安全な居住環境の整備・骨折予防	
13	事故防止・安全対策⑤	防火・防災対策	
14	利用者の生活の安全性の確保	防犯対策・消費者被害	
15	介護の基本	全体の理解度の確認と授業総括	
	試験		

履修上の注意・関連科目等

テキストは指示されたものを毎回持参すること。予習・復習を行なうこと。日頃から新聞などに目を通し、社会の動きを知ること。身近な日常生活と関連付けて学習を深めること。積極的に介護施設でのボランティアなどを体験することを期待する。課題の提出期限は厳守すること。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	☑有り □無し	15 %
レポート	☑有り □無し	15 %
試　　験	筆記試験	60 %
その他（出席状況等）	出席状況と受講態度	10 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

松田美智子他編著　高齢者介護のコツ　クリエイツかもがわ

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	N2－6	授業科目名	介護の基本ⅣB	担当教員名	渋谷 光美

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 介護	必修科目	2	後期	2	時間割 参照	生活福祉コース

授業のテーマ・概要

介護における安全の確保とリスクマネージメント、介護従事者の安全について理解する。

授業の目的・到達目標

安全かつ安心できる介護や、信頼のおける介護の実現を図るために留意すべき事項について学習する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	リスクマネージメントとは		
2	リスクマネージメントの展開方法		
3	安全管理体制　居宅		
4	安全管理体制　施設		
5	安全管理体制　施設		
6	感染症対策①	感染予防の意義と介護	
7	感染症対策②	感染予防の基礎知識	
8	感染症対策③	感染予防の基本技術	
9	介護従事者の安全		
10	介護従事者の心の健康管理		
11	ストレスマネージメント		
12	ストレスマネージメント		
13	労働安全衛生	介護従事者の身体の健康管理　腰痛対策	
14	労働安全衛生		
15		全体の理解度の確認と授業総括	
	試験		

履修上の注意・関連科目等

テキストは指示されたものを毎回持参すること。予習・復習を行なうこと。日頃から新聞などに目を通し、社会の動きを知ること。身近な日常生活と関連付けて学習を深めること。積極的に介護施設でのボランティアなどを体験することを期待する。課題の提出期限は厳守すること。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	☑有り □無し	15　%
レポート	☑有り □無し	15　%
試　　験	筆記試験	60　%
その他（出席状況等）	出席状況と授業参加態度	10　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

松田美智子他編著　高齢者介護のコツ　クリエイツかもがわ

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	N2－7	授業科目名	社会福祉援助技術	担当教員名	前田崇博

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 介護	必修科目	2	前期	1	時間割 参照	生活福祉コース

授業のテーマ・概要

様々な介護場面におけるコミュニケーションと社会福祉援助技術

授業の目的・到達目標

介護福祉士として必要になるコミュニケーション技術と社会福祉援助技術について修得する

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	授業プロローグ	項目やキーワード、授業計画の説明	テキストとプリント
2	社会福祉援助技術	基礎理論と方法論	テキストとプリント
3	直接援助技術の事例研究	事例の考察	テキストとプリント
4	マッピング技法	マッピング技法のしくみ	テキストとプリント
5	の事例研究	事例の考察	テキストとプリント
6	自己分析と心理テスト	エゴグラム	テキストとプリント
7	コミュニケーション技術	基礎理論と方法論	テキストとプリント
8	バーバルコミュニケーション	基礎理論と方法論、事例の考察	テキストとプリント
9	ノンバーバルコミュニケーション	基礎理論と方法論、事例の考察	テキストとプリント
10	社会福祉援助技術論	項目キーワード説明	テキストとプリント
11	特養の援助技術	入所型事例の考察	テキストとプリント
12	デイの援助技術	通所型事例の考察	テキストとプリント
13	禁句と人権	差別用語の考察	テキストとプリント
14	回想法	マッピング技法	テキストとプリント
15	まとめ		テキストとプリント
	(試験)		

履修上の注意・関連科目等

単位取得には出席が絶対条件。毎回ミニレポートを書いてもらいます。休まないように。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り　　ほぼ毎回授業内で実施 □無し	30　%
試　　験	持ち込みなし	40　%
その他（出席状況等）	出席評価	30　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

前田崇博編著『ケース研究 101』(久美)

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　　階　　内線	[redacted]

作成年度：2012

授業科目コード	N2－8	授業科目名	社会福祉援助技術演習	担当教員名	前田崇博

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 介護	必修科目	2	後期	1	時間割 参照	生活福祉コース

授業のテーマ・概要

介護福祉士のためのコミュニケーションと社会福祉援助技術

授業の目的・到達目標

介護福祉士として必要になるコミュニケーション技術と社会福祉援助技術について演習を通して修得する

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	授業プロローグ	項目やキーワード、授業計画の説明	テキストとプリント
2	社会福祉援助技術演習	概要説明と簡単な演習	テキストとプリント
3	高齢者事例研究①	長寿高齢者とコミュニケーション	テキストとプリント
4	重複障害者事例研究	聴覚視覚障害者のコミュニケーション	テキストとプリント
5	脳性まひ事例研究	重症心身障害者のコミュニケーション	テキストとプリント
6	高齢者事例研究②	認知症高齢者のコミュニケーション	テキストとプリント
7	コミュニケーションの実際	理論と実際	テキストとプリント
8	接遇技法	接遇と挨拶	テキストとプリント
9	人権と尊厳	福祉意識と人権	テキストとプリント
10	高齢者事例研究③	様々な高齢者とのコミュニケーション	テキストとプリント
11	音楽療法	唱歌や軍歌、千の風の考察	テキストとプリント
12	各種療法と技術	感覚統合療法など	テキストとプリント
13	プレゼンテーション	各自の発表	テキストとプリント
14	回想法と技法	生活歴とコミュニケーション	テキストとプリント
15	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	テキストとプリント

履修上の注意・関連科目等

単位取得には出席が絶対条件。毎回ミニレポートを書いてもらいます。休まないように。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り　　ほぼ毎回授業内で実施 □無し	30　%
試　　験	持ち込みなし	40　%
その他（出席状況等）	出席評価	30　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

前田崇博編著『ケース研究 101』(久美)

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　　階　　内線	[redacted]

作成年度：2012

授業科目コード	N2－9	授業科目名	介護におけるｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ	担当教員名	青木 慎太朗

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 介護	必修科目	3	前期	1	時間割 参照	介護福祉専攻

授業のテーマ・概要

介護現場で必要となる視覚障害者に対する支援の知識と技術について学ぶ。特にコミュニケーションのツールである点字を中心に学習する。ただし、点字の技術だけでなく、視覚障害者の生活に目を向けた授業を行う。

授業の目的・到達目標

介護現場で視覚障害者と良好なコミュニケーションをとることができるようになること。そのためには、視覚障害者の障害、コミュニケーション・ツール、支援の方法について、理解しておくこと。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	ガイダンス	授業の進め方、担当者の自己紹介など	シラバスを読むこと
2	視覚障害者の「障害」	何が・どのように「障害」であるのか？	
3	視覚障害者支援の基本	言葉による説明、手引きの基本	
4	室内での介助技術	座席への誘導、食事介助、他	
5	室外での介助技術	階段の昇降、トイレの説明、他	
6	点字の基本	点字の成り立ち、読み方、書き方	
7	五十音	母音と子音の関係、五十音の書き方	
8	濁音・半濁音	濁音や半濁音、拗音の書き方	
9	数字	数字の書き方	
10	文章	点字で文章を書く際の注意点など	
11	情報支援機器と技術	家電製品、音声パソコン、他	
12	福祉制度とサービス	障害者自立支援法（同行援護、他）	
13	リハビリテーション	視覚障害者とリハビリテーション	
14	専門職の役割	専門職の役割、当事者主権、自己決定	
15	まとめ		
	(試験)		

履修上の注意・関連科目等

授業中の私語、談笑、通話、入退室は他の受講生の迷惑になるので厳禁。
障害等により受講上の配慮を要する場合は対応を検討するので、なるべく事前に相談すること。
福祉制度の改定等により、講義内容を一部変更する可能性がある。
他専攻・他学部の学生の聴講も歓迎する。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り　毎回、授業の感想を書いて出してもらう。 □無し	%
試　験	授業中に取り扱った内容（点字の読み書きを含む）をもとに定期試験を実施する。	%
その他（出席状況等）	出席状況、受講態度、課外での取り組み等。	%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕使用しない
〔参考書・その他〕
青木慎太朗『視覚障害学生支援技法・増補改訂版』（立命館大学生存学研究センター）
松永信也『風になってくださいⅡ：視覚障害者からのメッセージ』（法蔵館）

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	N2－10	授業科目名	介護におけるｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ	担当教員名	岐津　素子

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 介護	必修科目	3	後期	1	時間割 参照	生活福祉コース

授業のテーマ・概要

「聴覚障がい」についての講義。実習による手話の習得

授業の目的・到達目標

「聴覚障がい」についての理解を深めるための学習及び、言語である「手話」を学ぶ事を目的とする。
手話の学習は自己紹介を含めた日常会話の基本を学ぶ。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	表現基礎練習	つたえあってみましょう	
2	手話による表現①	名前を紹介しましょう	
3	手話による表現②	指文字をマスターしましょう	
4	手話による表現③	家族を紹介しましょう	
5	手話による表現④	趣味を話しましょう	
6	手話による表現⑤	数字を表してみましょう	
7	手話による表現⑥	仕事について話してみましょう	
8	手話による表現⑦	あなたの家を紹介しましょう	
9	手話による表現⑧	自己紹介をしてみましょう（まとめ）	
10	手話による対話①	一日のことを話しましょう	
11	手話による対話②	一ヶ月のことを話しましょう	
12	手話による対話③	一年のことを話しましょう	
13	手話による会話①	話し合ってみよう①	
14	手話による会話②	話し合ってみよう②	
15	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

手話の学習は毎回の積み重ねが大事です。
毎回の小テスト、最終講義において筆記及び実技試験を実施し、総合的に評価する。
講師と手話を使用して会話することが、習得率の向上のポイントになる。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	☑有り　　到着状況の把握のために実施する。 □無し	20　%
レポート	□有り □無し	%
試　　験	手話・聴覚障がい者の理解度を総合的に評価する。	60　%
その他（出席状況等）	実技による講義のため出席率・学習態度を重視する。	20　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
①「新　手話教室入門」　②「新　手話教室入門」対応実用手話単語集
〔参考書・その他〕
講義時に適宜紹介する

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	N2－11	授業科目名	生活支援技術ＩA	担当教員名	片山　千佳

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 介護	必修科目	1	前期	1	時間割 参照	生活福祉コース

授業のテーマ・概要

生活支援とは何かを理解した上で、個人の尊厳を保持し人権を尊重した自立支援を行える価値を有し、アセスメントにもとづく生活支援を行うための知識・理論、技術の基礎を学習する。

授業の目的・到達目標

生活支援に関する基礎的な理論を理解し、居住環境の整備と身じたくにおける介護技術を修得する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション 生活とは何か	講義・演習の概要・進め方等 生活を理解する視点	
2	生活支援	生活支援の基本的な考え方 （演習）生活の場の理解	
3	生活支援	生活支援と福祉用具の活用 （演習）ベッドメイク、福祉用具の活用	
4	生活支援	ICF にもとづくアセスメント （演習）ベッドメイク、体位の種類	
5	居住環境の整備	居住環境におけるアセスメント （演習）体位変換	
6	居住環境の整備	居住環境の整備 （演習）シーツ交換	
7	身じたくの介護	身じたくの意義と目的 （演習）寝巻きの着脱介助	
8	身じたくの介護	身じたくにおけるアセスメント （演習）衣類の着脱	
9	身じたくの介護	身じたくの介護 （演習）整容の介護	
10	身じたくの介護	口腔ケア （演習）口腔ケアの介護	
11	事例演習	アセスメントにもとづく生活支援技術	
12	事例演習	アセスメントにもとづく生活支援技術	
13	事例演習	アセスメントにもとづく生活支援技術	
14	生活の場づくり	家庭内、施設内でのバリアフリー	
15	生活の場づくり	地域のバリアフリー	
	(試験)	筆記試験、実技試験	

履修上の注意・関連科目等

毎回の講義・演習の準備物を忘れずに出席すること。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	☑有り	10　%
レポート	☑有り	10　%
試　　験	筆記・実技試験	50　%
その他（出席状況等）	毎回の受講・演習態度を重視して評価する。	20　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕介護福祉士養成講座編集委員会『生活支援技術Ⅰ』、『生活支援技術Ⅱ』中央法規　2010

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	N2－12	授業科目名	生活支援技術ＩＢ	担当教員名	片山 千佳

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 介護	必修科目	1	後期	1	時間割 参照	生活福祉コース

授業のテーマ・概要

利用者の心身の状態を理解した上で、自立に向けた適切な移動や移乗の介護技法・食事介護技法や入浴・清潔保持の支援を考え、支援できる力を習得する。

授業の目的・到達目標

栄養と食事の基本的知識を身につけ、利用者の抱えるさまざまな障害に応じた移動や移乗の介護技法・食事介助技法や入浴・清潔保持の技法を講義や演習を通して学習する。
1.移動の意義と目的　2.食事の意義と目的、栄養と食事の基礎知識　3.ICF の視点から介助方法の理解
4.食事のﾘｽｸﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ　5.入浴の意義と目的、状態に応じた入浴支援、清潔保持支援　6.安全配慮とﾌﾟﾗｲﾊﾞｼｰの確保

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	講義・演習の概要や進め方などを説明。	
2	自立に向けた移動の介護	自立を支える移動・移乗の介護	pp.88－90
3	自立に向けた移動の介護	移動・移乗におけるアセスメント	pp.91－96
4	自立に向けた移動の介護	ボディメカニクス、重心移動、体位変換	pp.97－103
5	自立に向けた移動の介護	（演習）上方移動、水平移動、側臥位	pp.105－122
6	自立に向けた移動の介護	（演習）臥位から端座位、端座位から立位	pp.122－132
7	自立に向けた移動の介護	安楽な体位の保持、褥創の予防	pp.133－140
8	自立に向けた移動の介護	（演習）安楽な体位	pp.137－139
9	自立に向けた移動の介護	車いす介護におけるアセスメントの視点	pp.140－164
10	自立に向けた移動の介護	（演習）ベッド⇔車椅子、車いすの移動	pp.145－154
11	自立に向けた移動の介護	（演習）車いすを押す介助	pp.155－160
12	自立に向けた移動の介護	歩行介助におけるアセスメントの視点	pp.164－182
13	自立に向けた食事の介護	（演習）歩行介助（杖なし、杖歩行）	pp.168－174
14	自立に向けた食事の介護	食事における生活支援の意義と目的	pp.184－188
15	自立に向けた食事の介護	咀嚼・嚥下障害と予防、食事介助の原則	pp.189－199
16	自立に向けた食事の介護	誤嚥防止のアセスメントの視点、脱水予防	pp.199－210
17	自立に向けた食事の介護	（演習）嚥下予防、食事用具・道具を試行	p.205
18	自立に向けた食事の介護	（演習）食事介助（一部介助）、口腔ケア	pp.192－198
19	自立に向けた食事の介護	（演習）食事介助（全介助）、口腔ケア	pp.192－198
20	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	入浴・清潔保持の意義と目的	pp.212－214
21	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	入浴時の事故の予防、異常時の対応	pp.215－218
22	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	（演習）普通浴槽を使った入浴介助	pp.219－227
23	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	（演習）機械浴を使った入浴介助	pp.228－229
24	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	部分浴の介助におけるアセスメント	pp.230－235
25	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	（演習）手浴・足浴の介助	pp.230－235
26	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	清潔保持の介助とアセスメント	pp.240－259
27	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	（演習）簡易ケリーパッド作成と介助	pp.235－239
28	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	（演習）清拭の介助	pp.241－248
29 30	事例検討		

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	☑有り	20　%
試　　験	試験課題については、学生各位に事前に連絡することとする。	60　%
その他（出席状況等）		20　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕新福祉士養成講座編委員会編集『生活支援技術Ⅱ』（2008）中央法規出版

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	N2－13	授業科目名	生活支援技術ⅡA	担当教員名	片山千佳

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 介護	必修科目	2	前期	2	時間割 参照	生活福祉コース

授業のテーマ・概要

介護福祉士に必要な排泄や睡眠に関する基本的知識と技術を身につける。利用者の自立に向けた排泄や個別的な睡眠支援を行える力を養う。

授業の目的・到達目標

排泄や睡眠は生きていく上で欠かすことのできない行為であるため、利用者のﾌﾟﾗｲﾊﾞｼｰと尊厳を重視した支援を習得する。

1.排泄の意義と目的、ﾒｶﾆｽﾞﾑの理解　2.福祉用具の活用　3.安全への配慮、ﾌﾟﾗｲﾊﾞｼｰの確保と尊厳の重視　4.睡眠の重要性とﾘｽﾞﾑ、高齢者の特徴を理解し、利用者の疾病、習慣、希望から睡眠行動のｱｾｽﾒﾝﾄができる　5.個別のｱｾｽﾒﾝﾄをもとに環境づくりとﾍﾞｯﾄﾞﾒｲｷﾝｸﾞ、不眠対策、安全、安楽な体位等を工夫できる

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	講義・演習の概要や進め方などを説明。	
2	自立に向けた排泄の介護	排泄の意義と目的	pp.262－264
3	自立に向けた排泄の介護	排泄介護における自立支援	pp.264－270
4	自立に向けた排泄の介護	排泄介助におけるアセスメントの視点	pp.271－273
5	自立に向けた排泄の介護	（演習）トイレにおける一部介助	pp.273－278
6	自立に向けた排泄の介護	（演習）ポータブルトイレ介助	pp.279－283
7	自立に向けた排泄の介護	全介助を要する利用者の介助	pp.283－286
8	自立に向けた排泄の介護	（演習）紙おむつ・布オムツの介助	pp.283－286、ｐ.310
9	自立に向けた排泄の介護	排泄用具の種類と特徴	pp.287－289
10	自立に向けた排泄の介護	（演習）差込み尿器・便器における介助	pp.289－293
11	自立に向けた排泄の介護	失禁の種類と対処方法	pp.293－300
12	自立に向けた排泄の介護	排泄に関するさまざまな介助	pp.300－311
13	自立に向けた睡眠の介護	睡眠の意義と目的	pp.320－324
14	自立に向けた睡眠の介護	安眠のための介助	pp.325－328
15	自立に向けた睡眠の介護	（演習）利用者の特徴理解と介助の留意点	pp.329－334
16	自立に向けた睡眠の介護	睡眠と薬の関係	pp.334－337
17	自立に向けた睡眠の介護	（演習）眠れないときの状態、適切な道具の活用	pp.341
18	自立に向けた睡眠の介護	（演習）睡眠時の安楽な体位	pp.341
19	終末期の介護	終末期ケアの考え方	pp.344－351
20	終末期の介護	終末期における介護技術	pp.352－360
21	終末期の介護	（演習）体位への工夫	pp.356－357
22	終末期の介護	家族支援、他職種との協働	pp.361－367
23	自立に向けた生活支援技術	講義・演習　環境整備と安楽な体位、体位変換	
24	自立に向けた生活支援技術	講義・演習　生活習慣と装いの楽しみ、ﾊﾝﾄﾞｹｱ	
25	自立に向けた生活支援技術	講義・演習　着脱介助→移乗(車いす)→ﾄｲﾚ介助	
26	自立に向けた生活支援技術	講義・演習　口腔ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ→食事介助→口腔ｹｱ	
27	自立に向けた生活支援技術	講義・演習　入浴介助→整髪	
28	自立に向けた生活支援技術	講義・演習　排泄介助	
29 30	事例検討		

履修上の注意・関連科目等

講義 1 回目から 22 回目までは、指定教科書『生活支援技術Ⅱ』を使用します。
講義 23 回目以降は、指定教科書『生活支援技術Ⅰ』『生活支援技術Ⅱ』の 2 冊を使用します。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
レポート	□有り　　演習等でレポート提出を求める。	20
試　　験	実技、筆記試験を実施する。	50　%
その他（出席状況等）	出席状況（演習への取り組み姿勢）	30　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕介護福祉士養成講座編集委員会編集『生活支援技術Ⅰ、Ⅱ』中央法規出版（2009）

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	N2－14	授業科目名	生活支援技術ⅡB	担当教員名	大河内　大博

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 介護	必修科目	2	後期	2	時間割 参照	生活福祉コース

授業のテーマ・概要

“いのち”に関わる倫理的諸問題への理解を通して、自分の考えや価値観を見つめ直し、対人援助の基本となる、個人の尊厳、権利、倫理について学んでいきます。

授業の目的・到達目標

講義、ワークショップを通して、自分自身の考えや価値観を明確化するとともに、援助対象者の尊厳、権利、倫理を遵守できる援助技術の習得を目指します。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	はじめに		
2	生命の選択 1	人工妊娠中絶	
3	生命の選択 2	着床前診断と出生前診断	
4	生命の選択 3	「生命の選択」についてのワークショップ	
5	生命の誕生 1	生殖医療技術（体外受精・代理出産）	
6	生命の誕生 2	「生命の誕生」についてのワークショップ	
7	生命の終わり 1	安楽死と尊厳死	
8	生命の終わり 2	脳死・臓器移植	
9	生命の終わり 3	「生命の終わり」についてのワークショップ	
10	死を考える 1	「死の疑似体験」ワークショップ	
11	死を考える 2	ターミナルケア	
12	死を考える 3	死に様をデザインするワークショップ	
13	生命・医療倫理 1	患者の権利	
14	医療・生命倫理 2	対人援助の倫理	
15	まとめ		
	(試験)		

履修上の注意・関連科目等

・私語、居眠り、授業外の作業等、講義の妨げとなるものはすべて厳禁
・毎回の感想シートを必ず記入すること
・自主的な学びに取り組むこと

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り　　ブックレポート（1 回)。授業初回でアナウンスします。 □無し	20　%
試　　験	知識問題と論述問題の筆記試験	70　%
その他（出席状況等）	出席率も成績に加味します	10　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕　なし
〔参考書・その他〕　授業内で適宜お勧めします。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　　階　　内線	okouchi.d@gmail.com

作成年度：2012

授業科目コード	N2－15	授業科目名	生活支援技術ⅢA	担当教員名	佐藤　由美

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 介護	必修科目	2	後期	2	時間割 参照	生活福祉コース

授業のテーマ・概要

高齢者や障がい者の住生活を支援するために必要な理論・技術について、居住環境の視点から講義をする。住居学についての基礎知識とともに、高齢者・障がい者にとって安全で快適な住生活を実現するための知識、方法等について解説する。

授業の目的・到達目標

高齢者等の住生活を支援するために介護福祉士として必要な基礎的な知識を習得する。生活支援における居住環境整備の意義や役割を理解するとともに、心身機能の低下に対応した居住環境や福祉のまちづくりのあり方やその実現方策について考察する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方に関する説明	テキスト・配布資料
2	住まいの空間構成	住まいの機能と空間の種類	テキスト・配布資料
3	住まいの種類と特徴	構造材料、建築工法、所有関係、住宅形式	テキスト・配布資料
4	住まいと家族の生活	家族の変化と住要求、新しい住まい方	テキスト・配布資料
5	高齢者等の心身機能の特徴と居住環境①	高齢者等の疾患の特徴と空間、認知症の課題	テキスト・配布資料
6	同上②	生活の再構築の事例	テキスト・配布資料
7	同上③	居住環境のアセスメント	テキスト・配布資料
8	同上④	高齢者等に配慮した空間構成	テキスト・配布資料
9	福祉のまちづくり①	バリアフリーとユニバーサルデザイン	配布資料
10	同上②	制度・基準と整備事例	配布資料
11	住宅改修と福祉用具①	住宅改修の考え方・事例	テキスト・配布資料
12	同上②	福祉用具の種類と利用方法	テキスト・配布資料
13	他職種の役割と協働	居住環境整備に関わる職種と役割、チームケア	配布資料
14	高齢者の居住をめぐる動き①	介護保険制度と在宅生活、施設空間	テキスト・配布資料
15	同上②	高齢者の居住支援と高齢者住宅	テキスト・配布資料
	(試験)		

履修上の注意・関連科目等

身近な生活環境について、日頃から関心を持つようにしましょう。本授業は「生活支援技術ⅢB」の基礎科目となります。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り　講義内容の理解度把握のため、適宜授業中にレポート提出を求める。 □無し	20　%
試　験	あり（選択肢式・記述式）	60　%
その他（出席状況等）	出席状況や受講姿勢も評価の対象とする。	20　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

「図解住居学 1 住まいと生活 第二版」，図解住居学編集委員会，彰国社（2011）

〔参考書・その他〕

「新・介護福祉士講座 6 生活支援技術Ⅰ 第 2 版」介護福祉士養成講座編集委員会，中央法規出版，2011

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	N2－16	授業科目名	生活支援技術ⅢB	担当教員名	佐藤由美

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 介護	必修科目	2	後期	2	時間割 参照	生活福祉コース

授業のテーマ・概要

在宅や施設での介護において、高齢者や障害者の潜在能力の向上、QOL の改善、介護者の負担軽減をめざした居住環境の改善に向けた知識・技術について講義する。住宅や施設等の空間の特徴や課題の把握、具体的な表現方法等を解説する。

授業の目的・到達目標

高齢者や障害者の居住環境の状態を的確に把握し、どこに問題があるかを見いだす能力を高めるとともに、その課題を他の職種とともに解決するための伝達能力として空間表現技術・知識（建築図面の基礎知識・読み方・描き方のルール・説明の仕方等）を習得することをめざす。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方に関する説明	配布資料
2	空間の表現①	空間の表現方法	配布資料
3	空間の表現②	住宅平面図（作図）	配布資料
4	空間の表現③	住宅展開図（作図）	配布資料
5	空間の課題①	からだと空間・機器	配布資料
6	空間の課題②	高齢者にとっての空間の課題	配布資料
7	空間の課題③	大阪長屋の実測・見学	現地
8	空間の課題④	大阪長屋の課題整理（作図）	配布資料
9	空間認識と表現①	車いす利用者に対応した空間の課題	配布資料
10	空間認識と表現②	五感や心理の特性と空間	配布資料
11	空間の改善手法①	住宅改修の方法	配布資料
12	空間の改善手法②	福祉用具・設備機器の活用方法	現地
13	空間の改善手法③	大阪長屋の改善計画の作成（作図）	配布資料
14	空間の改善手法④	自宅の改修方法の提案①（作図）	配布資料
15	空間の改善手法⑤	自宅の改修方法の提案②（作図）	配布資料
	(試験)	課題の発表	配布資料

履修上の注意・関連科目等

授業は毎回、演習を中心に行うため、必ず授業に出席すること。授業時間内での課題やミニレポートの提出を原則とします。なお、本授業は前期「生活支援技術ⅢA」の学習内容を基礎としたものですので、復習をしておいてください。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り　講義内容の理解度を把握するため、適宜ミニレポートを実施する。 □無し	10 %
試　験	全課題の提出と発表	60 %
その他（出席状況等）	出席状況や受講姿勢も評価の対象とする。	30 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕特になし

〔参考書・その他〕「生活空間の体験ワークブック」日本建築学会編　彰国社　2010 年
「初めての建築製図」<建築のテキスト>編集委員会編　学芸出版社　2007
「インテリア設計士テキスト　実技編」日本インテリア設計士協会　2012　他

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	N2－17	授業科目名	生活支援技術IVA	担当教員名	水野 夏子

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 介護	必修科目	2	前期	2	時間割 参照	生活福祉コース

授業のテーマ・概要

「食」に関する基礎知識と、利用者の自立を助けるための家事援助について講義する。

授業の目的・到達目標

食事の意義と目的について理解し、栄養と食事の基礎知識習得をめざし、高齢者や障害者の身体状況に応じた食事のあり方、食事介助についての理解を深める。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	講義の概要・進め方などを説明。	
2	栄養の理解①	栄養摂取と健康、身体構成成分と栄養素について講義。	プリント
3	栄養の理解②	栄養素の機能を講義。	プリント
4	消化と吸収	消化管における消化、栄養素の吸収について講義。	プリント
5	生活と食事	生活リズム・ストレスと食事、食生活の現状を講義。	プリント、ビデオ
6	高齢者の食事①	加齢と身体状況の変化について講義。	プリント
7	高齢者の食事②	食事摂取基準（エネルギー・たんぱく質・脂質）を講義。	プリント
8	高齢者の食事③	食事摂取基準（炭水化物・ミネラル・ビタミン）を講義。	プリント
9	高齢者の食事④	栄養障害とその対策を講義。	プリント
10	障害者（児）の食生活	食事摂取基準、摂食・嚥下障害への食事介助を講義。	プリント
11	献立と調理	献立作成の基本、調理の工夫、調理操作などを講義。	プリント
12	食生活と健康	生活習慣病等の予防と食事について講義。	プリント
13	食品の安全と食品衛生①	食品の保存・管理、成分変化について講義。	プリント
14	食品の安全と食品衛生②	食中毒の防止を講義。	プリント、ビデオ
15	おいしく食べること	食べることの意義、家庭料理と行事食について講義。	プリント
	(試験)	実施する。	

履修上の注意・関連科目等

私語および途中入室、途中退室は厳に慎むこと。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	□有り ■無し	%
試　　験	内容・形式等については授業の中で説明する。	70　%
その他（出席状況等）	出席と受講態度を重視する。	30　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕使用しない。プリントを配布する。

〔参考書・その他〕

作成年度：2013

授業科目コード	N2－18	授業科目名	生活支援技術ⅣB	担当教員名	髙谷 小夜子

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 介護	必修科目	2	前期	2	時間割 参照	生活福祉コース

授業のテーマ・概要

食べることは人間の最も基本的な生活の営みである。栄養バランスのとれた食事は健康を支え疾病の回復を促進する。おいしい食事づくりをテーマとし、基本的な調理技術を指導する。班単位での次週を通じて協働の精神を養うようにする。

授業の目的・到達目標

基礎的な調理技術を習得すること。食物の衛生的かつ安全な取り扱いを学び、実践できるようにする。高齢者や障害者の生活支援の場で活かせることを目指す。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	授業の進め方	高齢者の食事について、実習内容について	プリント
2	簡単なおやつ作り	ホットケーキミックスを使って	プリント
3	調理の基本 1	ご飯の炊き方、煮干しだしのとり方	
4	調理の基本 2	塩味のご飯、混合一番だしのとり方、卵料理	
5	高齢者の食事 1	エネルギー量を押えた献立、ささ身を使って	
6	調理の基本 3	醤油味のご飯、ダシ巻き卵	
7	軟菜食	全粥、ラップを使った卵豆腐	
8	高齢者の食事 2	Ca を含む食品を使った献立	
9	高齢者の食事 3	蒸し料理、噛み切り易い団子	
10	高齢者の食事 4	食物繊維を多く含む食品を使った献立	
11	調理の基本 4	魚のおろし方、クリームスープ	
12	行事食 1	軟らか赤飯	
13	高齢者の食事 5	噛み切り易いトンカツ	
14	行事食 2	寿司飯の作り方、空也蒸し	
15	ゼリーの比較	ゼラチンゼリーと寒天ゼリーの比較	
	(試験)	実施する	

履修上の注意・関連科目等

きめられた実習の服装で臨むこと（守らない時は受講できない）
遅刻厳禁　　2 講時の連続した授業（途中休憩なし）

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	☑有り　実習ノートの作成と提出 □無し	30 %
試　験	形式および内容については授業内で説明	30 %
その他（出席状況等）	出席を重視。実習中の態度、衛生面、服装についても評価する	40 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕　プリントを配布
〔参考書・その他〕
田中弥生・宗像伸子著　「おいしい、やさしい介護食」　医師約出版
和辻敏子編著　「介護福祉士のためのクッキング」　理工学社

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	N2－19	授業科目名	生活支援技術Ⅴ	担当教員名	布施貞子

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展 介護	必修科目	2	後期	2	時間割 参照	生活福祉コース

授業のテーマ・概要

介護福祉士は、人間として尊厳保持の観点から、その人の個別性を充分に考慮し、自立支援に向けた介護実践を提供していかなければならない。授業では、「衣」についての基礎知識と利用者に対する自立支援について講義する。

授業の目的・到達目標

自立に向けた衣生活支援に関する基礎知識を学び、実践的に活用できるための能力を養う。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	授業の目的・進め方	講義の概要と進め方	
2	衣生活の基礎知識	衣生活の経営	
3	衣生活の基礎知識	被服の種類と語義	
4	衣生活の基礎知識	被服の選択	
5	衣生活の基礎知識	被服の材料とその性能	
6	衣生活の基礎知識	被服環境と安全性	
7	衣生活の基礎知識	被服の管理	
8	衣生活の基礎知識	洗濯、洗剤、洗濯機	
9	衣生活の基礎知識	漂白、しみぬき、糊つけ法、仕上げ法	
１０	衣生活の基礎知識	衣生活の資源と消費、衣生活文化	
１１	衣生活の支援	①衣生活支援の視点	
１２	衣生活の支援	②ＩＣＦに基づいたアセスメント	
１３	衣生活の支援	③衣生活支援の方法と留意点	
１４	衣生活の支援	④衣生活支援の方法と留意点	
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業の総括	
	(試験)		

履修上の注意・関連科目等

毎回、指示されたテキストの範囲を予習すること。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	☑有り　授業中に与えられた課題の提出。 □無し	20 %
試　験	授業に関する筆記テストを行う。	50 %
その他（出席状況等）	出席状況、受講態度を重視する。	30 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

新介護福祉士養成講座６「生活支援技術Ⅰ、Ⅱ」中央法規

〔参考書・その他〕

適宜、紹介する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	N2－20	授業科目名	生活支援技術Ⅵ	担当教員名	布施　貞子

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
資格指定専門科目 介護	必修科目	3	前期	2	時間割 参照	生活福祉コース

授業のテーマ・概要

生活支援技術Ⅴで学んだ「衣生活」に関する基礎知識を踏まえ、本演習を通して、介護の現場で活用できる様々な技術を体験学習する。

授業の目的・到達目標

「衣」に関する生活支援を必要とする人のために、自立に向けた支援を提供する基礎となる技術を習得する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	演習の概要、進め方	
2	介護における生活支援①	被服素材の特徴及び鑑別の実験	
3	介護における生活支援②	被服の役割と特徴	
4	介護における生活支援③	洗剤・仕上げ材の働き	
5	介護における生活支援④	被服の清潔と管理	
6	介護における生活支援⑤	被服の清潔と管理	
7	介護における生活支援⑥	漂白剤の適正な使用（実験）	
8	介護における生活支援⑦	いろいろなしみとしみぬき（実験）	
9	介護における生活支援⑧	アイロンかけ、収納保存	
１０	介護における生活支援⑨	寝具と寝装具の手入れ	
１１	縫製の基礎①	手縫いの基礎実習	
１２	縫製の基礎②	小物製作	
１３	縫製の基礎③	ミシンの基礎実習	
１４	縫製の基礎④	衣服の補修、リフォーム	
１５	まとめ	全体の理解度と授業総括	
	(試験)		

履修上の注意・関連科目等

演習を中心とした授業を行う。毎回、演習中に与えられた課題を提出すること。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し	%
レポート	☑有り　演習中に与えられた課題の提出。 □無し	50　%
試　　験	演習に関する筆記テストを行う。	30　%
その他（出席状況等）	出席状況、受講態度を重視する。	20　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

新介護福祉士養成講座６「生活支援技術Ⅰ、Ⅱ」中央法規

〔参考書・その他〕

適宜、紹介する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	N2－21	授業科目名	介護過程Ⅰ	担当教員名	片山　千佳

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 介護	必修科目	2	後期	1	時間割 参照	生活福祉コース

授業のテーマ・概要

利用者理解を図りながら、必要な情報収集を行い、その情報の分析解釈に基づいて介護内容や方法を計画し、実施・評価するという、利用者を主体とする生活支援活動の展開方法の基礎理論を理解する。

授業の目的・到達目標

介護過程の展開についての理論的理解とともに、実習において、介護過程を展開するための基礎的な実践能力を修得する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	介護過程とは	意義と目的	
2	生活支援の考え方	介護過程の必要性	
3	介護過程の展開方法①	介護過程の全体像	
4	介護過程の展開方法②	アセスメントとは	
5	介護過程の展開方法③	情報の収集	
6	介護過程の展開方法④	情報の解釈・関連付け・統合	
7	介護過程の展開方法⑤	課題の明確化	
8	介護過程の展開方法⑥	介護計画の立案	
9	介護過程の展開方法⑦	目標の設定・支援内容・方法の決定	
10	介護過程の展開方法⑧	実施のための準備・留意点	
11	介護過程の展開方法⑨	実施状況の把握と記録方法	
12	介護過程の展開方法⑩	評価の目的と方法、再アセスメント	
13	介護過程の展開方法⑪	事例検討	
14	介護過程の展開方法⑫	事例検討	
15	発表	事例に対するアセスメント・介護計画の発表	
	（試験）	レポート提出	

履修上の注意・関連科目等

生活支援に関する関連科目の予習・復習を怠らないこと。介護実習での介護過程の展開に向けてレディネスを備えること。課題の提出期限は厳守すること。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	0　%
レポート	☑有り □無し	60　%
試　　験		
その他（出席状況等）	受講態度、発表態度、課題提出等を重視する。	40　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

前田崇博・松田美智子他編著『介護実習・介護総合演習ハンドブック』久美出版、2010 年

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	N2－22	授業科目名	介護過程Ⅱ	担当教員名	渋谷　光美ほか

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 介護	必修科目	2	後期 集中	1	集中	生活福祉コース

授業のテーマ・概要

介護過程の理論と実習体験を関連付けながら、利用者を主体とする生活支援活動の展開方法の基礎的実践力を修得する。

授業の目的・到達目標

介護過程を展開するための基礎的な実践能力を修得する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	自立に向けた介護過程の展開方法		
2	利用者の状態に応じた介護過程の展開	介護過程の必要性	
3	介護過程とﾁｰﾑｱﾌﾟﾛｰﾁ		
4	様々な介護活動の場の理解		
5	利用者の生活の場の理解		
6	受け持ち利用者の選定		
7	介護過程の展開方法①	情報の収集	
8	介護過程の展開方法②	情報の吟味と整理	
9	介護過程の展開方法③	情報の解釈・関連付け・統合	
10	介護過程の展開方法④	課題の明確化	
11	介護過程の展開方法⑤	目標の設定	
12	介護過程の展開方法⑥	支援内容・方法の決定	
13	介護過程の展開方法⑦	計画内容の検討	
14	介護過程の展開方法⑧	評価	
15	記録物の整理		
	（試験）		

履修上の注意・関連科目等

介護実習Ⅲの開始前・実習中の 4 日間の帰校日に集中授業を行なう。実習Ⅲで担当した受け持ち利用者の介護計画の作成を行なう。課題の提出期限は厳守すること。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	☑有り □無し	50　%
試　　験		%
その他（出席状況等）	出席状況と授業参加態度	50　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

前田崇博・松田美智子他編著『介護実習・介護総合演習ハンドブック』久美出版、2010 年

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	N2－23	授業科目名	介護過程Ⅲ	担当教員名	片山　千佳

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 介護	必修科目	3	前期	1	時間割 参照	生活福祉コース

授業のテーマ・概要

実習体験での介護計画の立案を踏まえ、さらに利用者理解を図り、関連情報の分析・解釈に基づいた介護計画の立案・実施・評価から、再アセスメント・計画修正という、一連の介護過程の展開理論を理解する。介護過程の展開から事例報告に向けた視点やテーマ設定、方法論についての理解を深める。

授業の目的・到達目標

介護過程を展開するための基礎的な実践能力と評価・修正の観点を修得する。介護過程の展開による対象者への生活支援の体験を、事例報告論文としてまとめる。さらに事例研究へと発展することの意義や研究の視点・方法論の理解を深める。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	介護過程の展開の振り返り①	実習での介護過程の展開の振り返り	
2	介護過程の展開の振り返り②	実習での介護過程の展開の振り返り	
3	事例研究・事例報告とは	意義と目的	
4	事例報告に向けて	テーマ設定について	
5	事例報告論文に向けて①	報告論文の執筆計画	
6	事例報告論文に向けて②	テーマに関する議論	
7	事例報告論文に向けて③	文献検索	
8	事例報告論文に向けて②	論文指導	
9	事例報告論文に向けて③	論文指導	
10	事例報告論文に向けて④	論文指導	
11	事例報告論文に向けて⑤	論文指導	
12	事例報告論文に向けて⑥	論文指導	
13	事例報告論文に向けて⑦	論文指導	
14	事例報告論文に向けて⑧	論文指導	
15	事例報告論文に向けて⑧	論文の提出方法他	
	（試験）	事例報告論文の提出	

履修上の注意・関連科目等

介護実習での介護過程の展開及び、事例研究を視野に入れた事例報告論文の執筆に向けて、主体的なレディネスを備えること。課題・論文の提出期限は厳守すること。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	0　%
レポート	☑有り □無し	50　%
試　　験		%
その他（出席状況等）	受講態度、論文執筆姿勢、課題提出状況を重視する。	50　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

前田崇博・松田美智子他編著『介護実習・介護総合演習ハンドブック』久美出版、2010 年

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	N2－24	授業科目名	介護過程Ⅳ	担当教員名	渋谷　光美ほか

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 介護	必修科目	3	前期 集中	1	時間割 参照	生活福祉コース

授業のテーマ・概要

介護過程の理論と実習体験を関連付けながら、利用者を主体とする生活支援活動の展開方法の実践力を修得する。

授業の目的・到達目標

介護過程を展開するための実践能力を修得する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	介護過程の目的	自立に向けた介護過程の展開方法	
2	介護過程の必要性	利用者の状態に応じた介護過程の展開	
3	介護過程とﾁｰﾑｱﾌﾟﾛｰﾁ		
4	利用者の理解①	生活の場の理解	
5	利用者の理解②	受け持ち利用者の選定	
6	展開方法①	情報の収集	
7	展開方法②	情報の吟味と整理	
8	展開方法③	情報の解釈・関連付け・統合	
9	展開方法④	課題の明確化	
10	展開方法⑤	目標の設定	
11	展開方法⑥	支援内容・方法の決定	
12	展開方法⑦	計画内容の検討	
13	展開方法⑧	実施の記録	
14	展開方法⑨	評価	
15	記録物の整理		
	（試験）		

履修上の注意・関連科目等

介護実習Ⅴの開始前・実習中の 4 日間の帰校日に集中授業を行なう。実習Ⅴで担当した受け持ち利用者の介護計画の作成を行なう。課題の提出期限は厳守すること。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	☑有り □無し	50　%
試　　験		%
その他（出席状況等）	出席状況と授業参加態度	50　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

前田崇博・松田美智子他編著『介護実習・介護総合演習ハンドブック』久美出版、2010 年

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	N2－25	授業科目名	介護過程Ⅴ(卒業研究)	担当教員名	大坪　勇他

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 介護	必修科目	3	後期	2	時間割 参照	生活福祉コース

授業のテーマ・概要

利用者を主体とする生活支援活動の展開方法を検証し、介護研究の進め方を事例研究を通して学ぶ。

授業の目的・到達目標

事例研究・研究発表ができる。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	介護研究とは	意義と目的	
2	事例研究	意味と手法	
3	事例研究の展開①	文献レビュー	
4	事例研究の展開②	テーマの設定	
5	事例研究の展開③	研究計画のアウトライン設定	
6	事例研究の展開④	研究テーマに関する議論	
7	事例研究の展開⑤	文献検索	
8	事例研究の展開⑥	文献読み込み	
9	事例研究の展開⑦	論文指導	
10	事例研究の展開⑧	論文指導	
11	事例研究の展開⑨	発表の準備	
12	事例研究報告会①	発表と講評	
13	事例研究報告会②	発表と講評	
14	事例研究報告会③	発表と講評	
15	事例研究報告会④	発表と講評　まとめ	

履修上の注意・関連科目等

幅広い視野から介護研究を行なう。授業時間内のみならず、事前・事後の自己学習が必要である。生活福祉コース(介護福祉士養成課程)の卒業研究の位置づけである。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し	%
レポート	☑有り □無し	70　%
試　　験		%
その他（出席状況等）	出席状況と授業参加態度	30　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

前田崇博・松田美智子他編著『介護実習・介護総合演習ハンドブック』久美出版、2010 年

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	

作成年度：2013

授業科目コード	N2－26	授業科目名	介護総合演習Ⅰ	担当教員名	片山　千佳

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 介護	必修科目	1	後期	1	時間割 参照	生活福祉コース

授業のテーマ・概要

体験実習の意義と重要性を理解する。学内で学んだ知識・技術・態度を具体的・実際的に理解する。介護福祉士としての自覚を促し、実習に円滑に参加できるよう、実習の意義や目的について理解を深める。

授業の目的・到達目標

実習に向けての心構え・知識・技術・態度を具体的に理解できる。実習施設や介護現場について理解できる。介護記録の意義と目的を理解し、記録の重要性や取り扱いについて理解できる。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	介護実習の意義と目的	実習の必要性、介護実習でまなぶこと	介護実習の手引
2	介護実習の意義と目的	目指す介護福祉士像	
3	介護実習の意義と目的	自己覚知	
4	介護実習の理解	実習施設・事業所の種類	
5	介護実習の理解	実習施設・事業所と利用者の理解	
6	コミュニケーション		
7	記録の意義		
8	記録の書き方		
9	記録の取り扱い方法	守秘義務・情報の保護	
10	カンファレンス	目的と運営方法	
11	実習での基本的態度	健康管理・感染症について	
12	介護実習Ⅰｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ		
13	実習の準備	事前学習と施設・事業所オリエンテーション	
14	実習の目標	個別指導	
15	実習生の心得		
	(試験)	レポート提出	

履修上の注意・関連科目等

介護実習の手引（初回授業時に配布）を毎回持参すること。日頃から新聞などに目を通し、社会の動きを知ること。介護実習に向けてレディネスを備えること。積極的に介護施設でのボランティアなどを体験することを期待する。課題の提出期限は厳守すること。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□無し	0　%
レポート	☑有り	50　%
試　　験		%
その他（出席状況等）	出席状況、受講態度と課題提出・発表等を重視する。	50　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕前田崇博・松田美智子他編著『介護実習・介護総合演習ハンドブック』久美出版、2010
〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	N2－27	授業科目名	介護総合演習Ⅱ	担当教員名	片山　千佳

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 介護	必修科目	2	前期	1	時間割 参照	介護福祉専攻

授業のテーマ・概要

体験実習の意義と重要性を理解する。学内で学んだ知識・技術・態度を具体的・実際的に理解する。介護福祉士としての自覚を促し、長期入所型施設での入所者の生活状況や生活支援の理解を深め、生活の場における実習の意義や目的を明確にし、円滑に参加できるようにする。

授業の目的・到達目標

実習に向けての心構え・知識・技術・態度を具体的に理解できる。長期入所型施設での生活支援について、24 時間の介護体制や、チームケアの実際を理解し、チームの一員として介護を遂行する上で必要な能力を養う。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	介護実習Ⅰの振り返り①		介護実習の手引
2	介護実習Ⅰの振り返り②		
3	介護実習Ⅰの合同反省会		
4	実習施設の種類とサービス内容の確認	高齢者入所施設、障害者入所施設の種類とサービス内容	
5	利用者理解と生活の場における生活支援について①	利用者の生活状況、生活の場としての環境整備と生活支援	
6	利用者理解と生活の場における生活支援について②	24 時間の介護体制とチームケア	
7	自立支援と尊厳の保持を目指す介護の理解	ユニットケアの理解	
8	利用者の障害レベルに応じた個別援助について	事例検討	
9	実習記録の書き方①	利用者の観察・理解と記録	
10	実習記録の書き方②	考察・評価	
11	介護実習Ⅱオリエンテーション	実習目標の立て方	
12	介護実習Ⅱの準備①	事前学習	
13	介護実習Ⅱの準備②	個別指導	
14	介護実習Ⅱの準備③		
15	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	
	（試験）	レポート提出	

w履修上の注意・関連科目等

介護実習の手引を毎回持参すること。日頃から新聞などに目を通し、社会の動きを知ること。介護実習に向けてレディネスを備えること。積極的に介護施設でのボランティアなどを体験することを期待する。課題の提出期限は厳守すること。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り	0　%
レポート	☑有り	50　%
試　　験		%
その他（出席状況等）	出席状況、受講態度と課題提出・発表等を重視する。	50　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕前田崇博・松田美智子他編著『介護実習・介護総合演習ハンドブック』久美出版、2010
〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	N2－28	授業科目名	介護総合演習Ⅲ	担当教員名	片山　千佳

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 介護	必修科目	2	後期	1	時間割 参照	生活福祉コース

授業のテーマ・概要

入所施設において、利用者の生活意欲を引き出し、その人らしい生活支援に近づく介護を実践するため、介護過程の展開を通じた生活支援について理解する。介護計画の作成に向けて、利用者理解を深め介護ニーズを考察する。居宅サービス利用者とサービス内容の理解を深める。

授業の目的・到達目標

実習に向けての心構え・知識・技術・態度を具体的に理解できる。実習施設や介護現場について理解を深め、介護過程の展開を通じたチームケアの仕組みや連携方法について理解する。介護の需要に関する柔軟性・応用力・判断力について理解し、生活環境の整備を踏まえた生活支援が理解できる。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	介護実習Ⅱの振り返り①		介護実習の手引
2	介護実習Ⅱの振り返り②		
3	介護実習Ⅱの合同反省会		
4	多様な介護サービスの理解①	居宅サービスの種類と特徴	
5	多様な介護サービスの理解②	ケアチームの仕組み・連携の方法	
6	介護過程を通じた生活支援①	介護計画対象者の決定から介護過程の展開へ	
7	介護過程を通じた生活支援②	実習における、介護計画対象者のアセスメントから介護計画の立案に向けて	
8	介護実習Ⅲオリエンテーション	実習施設の理解　実習記録の書き方	
9	介護実習Ⅲの準備①	事前学習・資料の準備	
10	介護実習Ⅲの準備②	実習目標の立て方	
11	介護実習Ⅲの準備③	実習目標個別指導	
12	介護実習Ⅳオリエンテーション	実習施設の理解　実習記録の書き方	
13	介護実習Ⅳの準備①	実習目標の立て方	
14	介護実習Ⅳの準備②	実習目標個別指導	
15	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	
	（試験）	レポート提出	

履修上の注意・関連科目等

介護実習の手引を毎回持参すること。日頃から新聞などに目を通し、社会の動きを知ること。介護実習に向けてレディネスを備えること。積極的に介護施設でのボランティアなどを体験することを期待する。課題の提出期限は厳守すること。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し	0　%
レポート	☑有り □無し	50　%
試　　験		%
その他（出席状況等）	出席状況、受講態度と課題提出・発表等を重視する。	50　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕　前田崇博・松田美智子他編著『介護実習・介護総合演習ハンドブック』久美出版、2010
〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	N2－29	授業科目名	介護総合演習Ⅳ	担当教員名	片山　千佳

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 介護	必修科目	3	前期	1	時間割 参照	介護福祉専攻

授業のテーマ・概要

入居施設における介護過程の展開による生活支援の体験を通じて、チームケアの一員としての支援の理解を深める。実習での介護過程の展開による生活支援の体験等から、事例研究に繋げられるように視野を広げ、実習に対する自己の問題意識や興味・関心を高め実習に臨む重要性を理解する。

授業の目的・到達目標

対象利用者に対する介護過程の展開を通じ、チームケアとしての生活支援や連携について理解する。これまでの自他の実習体験の振り返りと事前学習を通じて、事例研究のテーマ設定や研究方法に関する意識化を図るとともに、介護研究の観点を踏まえた実習の意義と目標設定の重要性が理解できる。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	介護実習Ⅲの振り返り①		介護実習の手引
2	介護実習Ⅲの振り返り②		
3	介護実習Ⅳの振り返り		
4	介護実習Ⅲ・Ⅳの合同反省会		
5	入居型施設における生活支援の実践に向けて①	介護過程の展開 アセスメントと介護計画の立案	
6	入居型施設における生活支援の実践に向けて②	介護過程の展開 介護計画の実施・評価・再アセスメント	
7	入居型施設における生活支援の実践に向けて③	介護過程の記録の方法	
8	事例研究に向けて①	研究の視点とテーマ設定	
9	事例研究に向けて②	実習前後・実習中の取り組み	
10	介護実習Ⅴオリエンテーション	実習施設の理解　実習記録の書き方	
11	介護実習Ⅴの準備①	事前学習・資料の準備	
12	介護実習Ⅴの準備②	実習目標の立て方	
13	介護実習Ⅴの準備③	実習目標個別指導	
14	介護実習Ⅴの準備④		
15	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	
	（試験）	レポート提出	

履修上の注意・関連科目等

介護実習の手引を毎回持参すること。日頃から新聞などに目を通し、社会の動きを知ること。介護実習及び、事例研究に向けてレディネスを備えること。課題の提出期限は厳守すること。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り	0　%
レポート	☑有り	50　%
試　　験		%
その他（出席状況等）	出席状況、受講態度と課題提出・発表等を重視する。	50　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕　前田崇博・松田美智子他編著『介護実習・介護総合演習ハンドブック』久美出版、2010
〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	N2－30	授業科目名	介護実習Ⅰ	担当教員名	渋谷光美　他

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 介護	必修科目	1	後期	1	集中	生活福祉コース

授業のテーマ・概要

人間形成をしながら慣れ親しんだ伝統や文化のある地域社会で暮らす高齢者や障害のある人が施設等の利用に際しても、その人らしさを維持しながら生活する状況について理解する。また、その生活を継続させるためには何が必要なのかという個別ケアの実践の重要性を実習を通して学習する。

授業の目的・到達目標

通所介護サービスの意義と目的を理解し、専門職としての将来像を見出すことが出来る。

授業内容・授業スケジュール

「介護実習」の目的は介護の実体験を通して、領域「人間と社会」で学んだ人間の尊厳や領域「こころとからだのしくみ」で学んだ介護に必要なからだのしくみなどこれまでの学習内容を統合させて、介護とは何かを理解・再確認し、それを実践する基礎的能力を習得する。

実習先　通所介護事業所　(45 時間)

具体的な学習内容

① 要介護高齢者の日常生活や生活環境・疾病・障害などを理解する。
② 利用者・その家族・事業所職員との積極的なコミュニケーションを図る。
③ 家族支援について理解する。
④ 基本的な介護技術の実際を体験する。
⑤ 提供される介護サービスの必要性や目的を理解する。
⑥ 実習記録が作成できる。
⑦ 実習課題が達成できる様、計画的に取り組むことが出来る。
⑧ 社会マナーを守り指導者の指示に従う。
⑨ 多職種の役割を理解する。
⑩ 介護福祉士の役割を理解し、介護実習Ⅱに向けての自己の課題を明確にする。

具体的な学習内容から通所介護サービスの意義・目的を理解し、「専門職としての将来像」を見いだすことができる実習とする。

履修上の注意・関連科目等

介護実習Ⅰの履修要件を満たしていること。介護実習の手引に書かれている注意事項を厳守すること。実習時間は全て履修すること。実習について、注意事項が守れない・正当な理由が無く指導者の指導に従わない場合は、実習を中止する場合がある。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
実習評価	☑有り　介護実習の手引に記載されている評価方法。 □無し	%
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	□有り ☑無し	%
試　　験		%
その他(出席状況等)	45 時間の実習を必ず行なうこと。	%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度　2013

授業科目コード	N2－31	授業科目名	介護実習Ⅱ	担当教員名	渋谷光美　他

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 介護	必修科目	2	前期	2	集中	生活福祉コース

授業のテーマ・概要

介護実習では、介護実践のための基本的な生活支援技術を実践し、利用者の状況に応じた適切な介護技術の必要性を学ぶ。実際に施設や事業所のカンファレンス等に参加し、介護する上で必要な他の職種の役割について学び、生活支援チームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。

授業の目的・到達目標

1. 利用者にとって、安全で安楽な介護技術が実習指導の指導を受けながらできる。
2. 利用者の心理を理解し、個別性を重視したＱＯＬの向上を目指した支援能力を養う。

授業内容・授業スケジュール

「介護実習」の目的は介護の実体験を通して、領域「人間と社会」で学んだ人間の尊厳や領域「こころとからだのしくみ」で学んだ介護に必要なからだのしくみなどこれまでの学習内容を統合させて、介護とは何かを理解・再確認し、それを実践する基礎的能力を習得する。

実習先：介護老人福祉施設、介護老人保健施設、身体障害者療養施設、救護施設他　（90 時間）

具体的な学習内容：

①要介護者の日常生活や生活環境、疾病・障害等を理解する。
②利用者と積極的なコミュニケーションを図る。
③家族の関わりや家族支援について理解する。
④基本的な介護技術の実際を体験する。
⑤提供される介護内容の必要性を理解する。
⑥基本的な記録物（実習日誌、介護記録等）を作成する。
⑦自己目標を達成するための計画的取り組みを実践する。
⑧社会的マナー、職務規定をまもる。
⑨他職種の役割を理解する。
⑩基本的な介護技術を確認し、身につける。
⑪施設の法的根拠について理解する。

具体的な学習内容から、入所施設である特別養護老人ホーム、老人保健施設、身体障害者療養施設、救護施設などの役割を理解し、介護福祉士の役割を体験学習する。

履修上の注意・関連科目等

実習の手引きの注意事項を厳守すること（注意事項が守れない時は実習を中止することもある）。
必修科目を復習しておくこと。
正当な理由がない実習時間の不足は再履修とし評価しない。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
レポート	☑有り	%
実習評価	介護実習の手引きに記載されている評価方法。	%
その他（出席状況等）	90 時間の実習を必ずおこなうこと。	%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
〔参考書・その他〕　　適宜紹介する

作成年度：2013

授業科目コード	N2－32	授業科目名	介護実習Ⅲ	担当教員名	渋谷光美　他

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 介護	必修科目	2	後期	3	集中	生活福祉コース

授業のテーマ・概要

個別ケアを行うために、個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。

授業の目的・到達目標

受持ち利用者について、介護過程を展開する中でＩＣＦが活用できる。
自立支援の視点に立ち、利用者の生活課題を明確し、介護計画に反映できる。

授業内容・授業スケジュール

「介護実習」の目的は介護の実体験を通して、領域「人間と社会」で学んだ人間の尊厳や領域「こころとからだのしくみ」で学んだ介護に必要なからだのしくみなどこれまでの学習内容を統合させて、介護とは何かを理解・再確認し、それを実践する基礎的能力を習得する。

実習先：介護老人福祉施設、介護老人保健施設　（135 時間）

具体的な学習内容：
①利用者の個々の生活リズムや個性に応じた生活支援のあり方を理解する。
②ターミナルケアを理解する。
③一連の介護過程の展開（計画作成～実施～評価）を継続的に実践する。
④介護福祉士を目指す者としての専門性のあり方を理解する。
⑤チームの一員としての介護を遂行する。
⑥ＩＣＦに基づいてアセスメントをする。
⑦事例検討会などのカンファレンスに参加する。

具体的な学習内容から、施設における個別の介護計画が実施され、利用者の生活を支援する介護福祉士の役割を理解する。

履修上の注意・関連科目等

実習の手引の注意事項を厳守すること（注意事項が守れない時は実習を中止することもある）。
必修科目を復習しておくこと。
正当な理由がない実習時間の不足は再履修とし評価しない。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
レポート	☑有り	%
実習評価	介護実習の手引きに記載されている評価方法。	%
その他（出席状況等）	135 時間の実習を必ず行なうこと。	%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
〔参考書・その他〕　適宜紹介する

作成年度：2013

授業科目コード	N2－33	授業科目名	介護実習Ⅳ	担当教員名	渋谷光美　他

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 介護	必修科目	2	後期	1	集中	生活福祉コース

授業のテーマ・概要

人間形成をしながら慣れ親しんだ伝統や文化のある地域社会で暮らす高齢者や障害のある人が施設等の利用に際しても、その人らしさを維持しながら生活する状況について理解する。また、その生活を継続させるためには何が必要なのかという個別ケアの実践の重要性を実習を通して学習する。

授業の目的・到達目標

利用者の生活の場である多様な介護現場において、利用者理解を中心とし、これに併せて利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践、多職種協働の実践、介護技術の確認等を行い、個別性を尊重したケアのあり方が理解できる。

授業内容・授業スケジュール

「介護実習」の目的は介護の実体験を通して、領域「人間と社会」で学んだ人間の尊厳や領域「こころとからだのしくみ」で学んだ介護に必要なからだのしくみなどこれまでの学習内容を統合させて、介護とは何かを理解・再確認し、それを実践する基礎的能力を習得する。

実習先：グループホーム、訪問介護、小規模多機能型居宅介護事業所等から選択　（45 時間）

具体的な学習内容：

①多様な施設・事業所の役割を理解する。
②さまざまな利用者の生活像、障害像を理解する。
③障害特性や利用者のニーズに応じた介護方法を習得する。
④介護実践に必要な情報を収集する。
⑤福祉用具や福祉機器の知識や活用方法を理解する。
⑥チームにおける各職種の役割について理解する。
⑦介護理念・倫理について理解する。
⑧利用者の個別性を尊重した自立支援のあり方を理解する。
⑨利用者の居住環境における支援体制のあり方を理解する。

具体的な学習内容からグループホーム、訪問介護、小規模多機能居宅介護サービスの意義・目的を理解し、介護福祉士としての役割を体験学習する。

履修上の注意・関連科目等

介護実習Ⅰの履修要件を満たしていること。介護実習の手引に書かれている注意事項を厳守すること。実習時間は全て履修すること。実習について、注意事項が守れない・正当な理由が無く指導者の指導に従わない場合は、実習を中止する場合がある。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
実習評価	☑有り　介護実習の手引に記載されている評価方法。 □無し	%
	☑無し	
その他（出席状況等）	45 時間の実習を必ず行なうこと	%

教科書・参考書及び辞典等

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度　2013

授業科目コード	N2－34	授業科目名	介護実習Ⅴ	担当教員名	渋谷光美　他

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 介護	必修科目	2	後期	1	集中	生活福祉コース

授業のテーマ・概要

個別ケアを行うために、個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。

授業の目的・到達目標

1. 受持ち利用者について、介護過程を展開する中でＩＣＦが活用できる。
2. 自立支援の視点に立ち、利用者の生活課題を明確し、介護計画に反映できる。
3. 実習を通して、介護という職業の意義深さ、介護を行う者としての働く姿勢、職業倫理を身につけ、常に利用者の人権を守ることができる。

授業内容・授業スケジュール

「介護実習」の目的は介護の実体験を通して、領域「人間と社会」で学んだ人間の尊厳や領域「こころとからだのしくみ」で学んだ介護に必要なからだのしくみなどこれまでの学習内容を統合させて、介護とは何かを理解・再確認し、それを実践する基礎的能力を習得する。

実習先：介護老人福祉施設、介護老人保健施設　（135 時間）

具体的な学習内容：

①利用者の個々の生活リズムや個性に応じた生活支援のあり方を理解する。
②ターミナルケアを理解する。
③一連の介護過程の展開（作成～実施～評価～修正）を継続的に実践する。
④介護福祉士を目指す者としての専門性のあり方を理解する。
⑤チームの一員としての介護を遂行する。
⑥ＩＣＦに基づいてアセスメントをする。
⑦自分の実践について他者にわかりやすく説明することができる。
⑧カンファレンスやじれ検討に参加し、専門職としての視点やチームとしての連携方法を学ぶ。

具体的な学習内容から、実践を通じて、専門職としての介護福祉士の役割を理解し、「人間としての基礎」、「職業人としての基礎」を身につける。

履修上の注意・関連科目等

実習の手引の注意事項を厳守すること（注意事項が守れない時は実習を中止することもある）。
必修科目を復習しておくこと。
正当な理由がない実習時間の不足は再履修とし評価しない。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
レポート	☑有り	%
実習評価	介護実習の手引きに記載されている評価方法。	%
その他（出席状況等）	135 時間の実習を必ず行なうこと。	%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
〔参考書・その他〕　適宜紹介する

作成年度：2013